

図書館 雑誌 2024 4

The
Library
Journal
Vol.118
No.4

●編集委員会

〈委員長〉

松本哲郎（市原市立中央図書館）

〈委員〉

青柳英治（明治大学文学部）

岩永知子（相模原市立図書館）

宇野亮一（国立国会図書館）

中村保彦（元文教大学図書館）

長谷川優子（元埼玉県立図書館）

宮原柔太郎（日本体育大学図書館）

米山 薫（多摩市立図書館）

*

●事務局スタッフ

秦 秀文・川下美佐子・星川智隆

●今月の表紙

神奈川県立図書館所蔵

「箱根関所・芦の湖の泥絵」（部分）

江戸時代

〈神奈川県立図書館デジタルアーカイブ〉



VOL.118 NO.4 CONTENTS

窓●読書と図書館員 ————— 本吉理彦 184

こらむ図書館の自由●

ふるさとの図書館は元気ですか？ ————— 平形ひろみ 187

●NEWS ————— 185

告知板 … 186／新聞切抜帳 … 189

●新館紹介 ————— 191

*

*

*

[特集]

移動図書館のいま

移動図書館の可能性と課題 ————— 石川敬史 192

アメリカの特徴的な取り組みに見る移動図書館の可能性－日本とアメリカ

における移動図書館の変遷を踏まえつつ ————— 中山愛理 196

都市計画・まちづくり分野にいる私が移動図書館に惹かれた理由

————— 加藤浩司 198

「小さな図書館」でサービスを届ける－四万十町における移動図書館車導入事例

————— 河野知歌子 200

製作会社の雑談 ————— 林田理花 202

子どもたちの居場所を定期的に作り続けるために－移動図書館が移動する

ことの意味 ————— 高濱宏至 205

Book Mobile（ブック・モービル）サミット開催－移動図書館の新たな

可能性を求めて ————— 大井亜紀 208

*

*

*

霞が関だより●第245回

2024年度の図書館職員に関する研修について ————— 文部科学省 211

れふあれんす三題噺●連載その三百十／宇都宮市立南図書館の巻

宇都宮市立南図書館のレファレンス ————— 齋藤なぎさ 212

ウチの図書館お宝紹介！ ● 第238回／渋谷区立中央図書館

和田誠記念文庫 ————— 田中雅光 214

小規模図書館奮戦記 ● その310／一関工業高等専門学校図書館

研究・教育の場としての図書館 ————— 本明 昇 217

図書館員のおすすめ本 ● ㊤

70歳のウィキペディアン ————— 小廣早苗 218

地域の課題を解決するクリエイティブディレクション術 — 小宮山剛 218

寿町のひとびと ————— 中村知美 219

何が問題？ 格差のはなし ————— 狩野ゆき 219

北から南から ●

りんごの棚から始まる読書に困難のある人々へのサービス－学校図書館の

先進事例を交えて ————— 佐伯美華 220

*

*

*

● *The Library Journal, April 2024*

Special feature: Mobile libraries today

Possibilities and challenges of mobile libraries (ISHIKAWA Takashi) 192

Potential of mobile libraries as seen in distinctive initiatives in the U.S. – Transition of mobile libraries in Japan and the U.S. (NAKAYAMA Manari) 196

Reasons for being attracted to mobile libraries while working in the field of urban planning and community development (KATO Koji) 198

Providing services with a small library – Introduction of a mobile library in Shimanto Town (KONO Chikako) 200

Small talk of a manufacturing company (HAYASHIDA Rika) 202

Continuing to create a place for children on a regular basis – What it means for a mobile library to be mobile (TAKAHAMA Koji) 205

Book Mobile Summit – New possibilities for mobile libraries (OHI Aki) 208

● 日図協図書館新館案内 ——— 225

● 協会通信 ————— 235

常任理事会 235

事務局カレンダー 239

● 編集手帳 ————— 240

● 図書館雑誌 5月号予告 ——— 240

● 発行者

公益社団法人日本図書館協会©2024

〒104-0033 東京都中央区新川1-11-14

電 話 (03)3523-0811 〈代表〉

直 通 (03)3523-0816 〈編集部〉

F A X (03)3523-0841 〈代表〉

〈日図協ホームページURL〉

<https://www.jla.or.jp>

〈JLA メールマガジン申込先アドレス〉

mailmaga@jla.or.jp

* 本文は中性紙（冷水抽出 pH8.1）を使用



読書と図書館員

●
本吉理彦

読書離れが言われて久しいが、読書を推進する企画や運動に携わっている方も多いと思う。

一方で図書館員その人が本を読んでいるか、本にどんな関心を持っているか。

若いころ、周囲には本好きが多かった。その雰囲気や少し苦手に感じることもあった。「あの本読んだか?」「この本知っている?」といった会話に何かしらの恥ずかしさを感じることもあった。

図書館員の仕事は自らが本を読むことではなく、本を読みたい人に本を渡す仕事。本が好きなら読書家、愛書家であつて職業としての図書館員とは言えない。そう思うこともあった。

ただ長く働いてきて一つの疑念が生じた。かなりの割合で本を読んでいる者がいるような気がする。それは私の職場だけの話だろうか?

「最近、何読んでいる?」「何か面白い本はある?」。時候の挨拶のように話してもその先が続かない。忙しいのか。担当業務は本そのものとは直接には関係ないのかもしれない。さらに言えば、業務能力と本を読むことは異なるものなのかもしれない。

本について語ることが好まれていないような雰囲気も感じる。なにより実際に本を読んでいる、買っていない、図書館にも行っていない…のでは

ないか?

インターネットで膨大な情報にアクセスでき、さまざまな媒体がある中で、紙、電子を問わず本あるいは出版物という体裁にこだわる必要はさほどないのかもしれない。それは私の立場でもあったのだが。

読書は時間がかかるし、さまざまな理由で本を読んだり買ったりすることが減ることもある。でも本への欲求があるのならば、広告を眺める、新聞やネット上などの書評を読む、買わずとも本屋に行く、借りずとも近所の図書館に行く。さまざまな行為が選択できるなかで、それもないのはひよつとして本そのものへの関心がないのではないか?

よき読書家がよき図書館員であるかは、今もわからない。だが例えば、自動車に関する仕事に携わっている者で自動車に関心や興味がない者、つづめていえば「自動車が好きでない者」はいるのであろうか。

本に関心のない者が図書館員であつてはいけないということではない。読書という行為が図書館員にとってどんな意義を持つのか。それは考えてみてもよい。

(もとよし ただひこ／元国立国会図書館)

NEWS

▶「図書館・書店等連携実践事例集」の作成について

文部科学省は、1月31日付で「図書館・書店等連携実践事例集」の作成について、依頼文書を各都道府県教育委員会、公立図書館担当課へ発出し、3月15日(金)を締切として事例の収集を行った。

これは、文部科学省(担当:文部科学省総合教育政策局地域学習推進課)、一般財団法人出版文化産業振興財団(JPIC)および日本図書館協会が事務局となって開催している「書店・図書館等関係者における対話の場」での議論を踏まえて行われている。

全国で行われている、図書館と書店等関係者(著者、出版社等も含めて)の連携の下に進められている特徴的な取り組みを収集し、事例集としてとりまとめ、広く紹介していく。それにより図書館が地域の書店、出版社等と連携して、地域に根差した読書環境醸成等を促進していくことが期待されている。

▶「点字図書・録音図書全国総合目録」が名称を変更

国立国会図書館は、2024年1月から「点字図書・録音図書全国総合目録」を「障害者用資料総合目録」に名称を変更した。収録対象および国立国会図書館への書誌・所蔵情報の提供方法に変更はない。

「障害者用資料総合目録」は、国立国会図書館障害者用資料検索(愛称:みなサーチ)において、簡易検索であれば「障害者用資料総合目録」の書誌も含めたさまざまな障害者用資料を統合的に検索することができる。また、詳細検索画面で、「データベース」の「障害者用資料総合目録」を

選択して検索すると、「障害者用資料総合目録」の書誌に絞り込んで検索することも可能である。

問合せ先:国立国会図書館 関西館

図書館協力課 障害者図書館協力係 ☎0774-98-1458(直通) FAX. 0774-94-9117 E-mail: syo-ky@ndl.go.jp

みなサーチ: <https://mina.ndl.go.jp/>

▶『日本の図書館 2023』出版

『日本の図書館 統計と名簿』2023年版(日本図書館協会発行)が3月10日に発行された。

公共図書館については、図書館設置市区町村の数は1,347から1,352へ、図書館設置率は77.4%から77.7%に増加、図書館数は市区立2,603館(昨年比3館増)、町村立630館(昨年比2館増)となった。大学図書館数は1,482館(昨年比6館増)、短期大学図書館数は152館(昨年比4館減)となった。

電子媒体版の購入申し込みは、4月上旬開始予定。

(B5判 521p 定価:本体15,000円<税別> ISBN978-4-8204-2312-6 施設A B 会員配付)

▶日本図書館協会滋賀支部、第3回会員のつどいを開催

今年度3回目の支部のつどいが、2024年2月26日(月)午前10時から、支部会員を中心に14人が参加して滋賀県立図書館で開催された。

つどいには日本図書館協会から植松貞夫理事長が講師として来場し、講演を行った。講演では、協会の成り立ち、会員、運営、財務状況など基本的な情報に続いて、非正規雇用の問題、書店との問題について等、合わせて約1時間にわたり説明があった。その後、30分余り、会場の

参加者との質疑応答、意見交換が行われた。理事長退席後、支部運営委員会事務局より今年度の活動報告、予算の執行状況などの報告および協議を行い、12時につどいを終了した。

今後、3月14日の代議員総会に向けて、支部会員の意見の集約の取りまとめを行い、その集約結果を踏まえ、滋賀県選出の代議員が総会に出席することとなった。

図書館記念日・図書館振興の月のポスター2024完成

4月30日の図書館記念日・5月の図書館振興の月をPRした恒例のポスターが完成した(写真)。デザインは、昨年に引き続き atmosphere ltd.(代表者 川村哲司氏)、イラストはイラストレーターの後藤美月氏。

制作されたポスターは、本でできた図書館のあちこちで読書を楽しむ猫たちが色鮮やかに描かれている。後藤氏からは、「子どもにこんな本を読んであげたいという親の想いを突き破って、自ら好きな本を棚から



引っぱり出しては、どんどん読んでいく息子。自分で選び、触れる自由。次々と新しい興味に出会える図書館は、それ自体が大きな本のようで心地よい。私たちは今日もそこで新しい何かを見つけ、ここに育ててもらっています。その気持ちをみなさんと共有できると嬉しいです。」とコメントをいただいた。後藤氏は、子どもの本専門店・メリーゴーランドにて勤務後、イラストレーターとして活動。書籍装画や新聞雑誌の挿絵、広告、webイラストレーションなどを描いている。

atmosphere ltd.からは、「年々紙媒体の厳しい状況が続いていますが、新しいメディアとも共存しつつ、イラストレーターの後藤さんのカラフルで楽しいイラストで本の楽しさを改めて伝えられればと希望を込めて作成しました。普段図書館を利用する機会が少ない人にもアピールできれば嬉しいです。」とポスター制作への想いを寄せていただいた。

ポスターには、「図書館をもっと身近に暮らしのなかに」というコピーのほか、「あなたのまちに図書館を」のメッセージを添えている。既に日図協より施設会員、各都道府県立図書館に配付しているので、館内への掲示などで活用していただきたい。

在庫のポスターの入手希望については、<https://www.jla.or.jp/publications/goods/tabid/230/Default.aspx#kinenbiposter>を参照。

▶『これから出る本』休刊

一般社団法人日本書籍出版協会は、読者の選書のツールとして、創刊から47年間休むことなく刊行を続けていたが、2023年12月下旬号（12

月16日発行）をもって休刊とした。

なお、最終号『これから出る本』12月下旬号（p.8～9）には、「表紙で見る『これから出る本』の47年」が掲載されている。

今後は、出版書誌データベース・本の総合カタログ「Books.or.jp」（運営元：日本出版インフラセンター＝JPO）にて、新刊情報を見ることができる。このサイトでは、カレンダー上で新刊情報（ジャンル別に選択も可能）をチェックできるので、選書、新刊チェック時のツールとして利用できる。

『これから出る本』：<https://www.jpbooks.or.jp/database/publication.html>
出版書誌データベース・本の総合カタログ“Books”：<https://www.books.or.jp>

▶文部科学省、「子供の読書キャンペーン～きみに贈りたい1冊～」第3弾を紹介

文部科学省は、子供の読書活動を推進するため、「子供の学び応援サイト」に特設ページを設け、著名人による子供たちへのおすすめの本とメッセージや読書関係団体の取り組み等を紹介している。

部活動や勉強等のさまざまなことに日々向き合う中高生等がさまざまな本に触れ、読書に親しめる機会が増えるよう、教育、科学技術・学術、文化、スポーツの各分野で活躍の方々によるおすすめの本とメッセージを紹介する読書キャンペーンを実施している。

第3弾として、科学、文化、スポーツ分野の著名人7名から、小学生と比べて不読率が高い中高生世代を想定した本を中心に紹介されてい

る。

また、読書関係団体が選ぶおすすめの本等も掲載されている。

特設ページ：文部科学省ホームページ「子供の読書キャンペーン～きみに贈りたい1冊～」：https://www.mext.go.jp/a_menu/ikusei/gakusyushien/campaign_2023.html

告知板

●つどい

■第110回全国図書館大会長崎大会

期日：11月30日（土）～12月1日（日）

開催形式：オンライン形式（一部対面形式）

※一部対面形式で開催されるのは、全体会、公共図書館分科会、大学・短大・高専図書館分科会、学校図書館分科会

対面開催会場：全体会（長崎県庁会議室）、分科会＝公共図書館分科会および学校図書館分科会（長崎県庁会議室）、大学図書館分科会（長崎大学附属図書館中央図書館）

参加費：県外オンライン参加4,000円、県外対面参加6,000円、県内参加は別料金

参照：<https://www.jla.or.jp/rally/tabid/400/Default.aspx>

■第39回医学情報サービス研究大会（MIS39@名古屋）

日時：7月13日（土）～14日（日）

会場：名古屋市立大学桜山キャンパス

参加費：4,000円 ※懇親会5,500円（100名限定）

申込等詳細：<https://mis39nagoya.p eatix.com/>

◆◆ NEWS ◆◆

○その他

◆「図書館の自由」第122号（2024年2月）を発行

日本図書館協会図書館の自由委員会は、ニューズレター「図書館の自由」122号（2024年2月）を発行し、委員会サイトに掲載した。

<http://www.jla.or.jp/committees/jiyu/tabid/638/Default.aspx>

主な内容は以下のとおり。

・図書館の自由・表現の自由をめぐる記事紹介

リサイクル本からの利用者情報の流出／検閲／海外の禁書／図書館へのサイバー攻撃によるサービス停止とデータ流出／『あの子もトランスジェンダーになった SNSで伝染する性転換ブームの悲劇』（KADOKAWA）の刊行中止／高松市図書館で相次ぐ蔵書破損／『帝国の慰安婦』をめぐる韓国大法院判決／映画「宮本から君へ」、最高裁にて公的助成金の不交付取り消し判決／権力とメディアの関係性をテーマとする映画「ヤジと民主主義」が公開

・新聞・雑誌記事スクラップ

・文献紹介

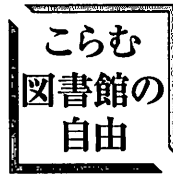
馬場俊明著「読書の自由」を奪うのは誰か「自由宣言」と蔵書選択」

・お知らせ

図書館の自由展示パネル「なんでも読める 自由に読める!」-2023年10月改訂-利用案内 ほか／巻末：展示パネル解説リーフレット

なお、同誌はダウンロードして図書館等で印刷して提供できます。

メールでの無料配信を希望する方は、以下電子版のご案内よりお申し込みください。



ふるさとの図書館は元気ですか？

平形ひろみ

元日の能登半島地震発生から2か月半が経つが、復興への道は遠い。再開できないでいる図書館もある。日本図書館協会の図書館災害対策委員会は、直後から活動を開始。被災地と情報共有化を図りつつ、連携しながら活動を続け、協会のHPで、その様子を発信し続けている。こんな時の図書館のネットワークを利用した資料情報収集提供は図書館の真骨頂だ。

なのに、今、図書館の多くが揺れている。2003年に指定管理者制度が始まり、それ以前からあった図書館の委託化に拍車をかけた。直営の図書館でも非常勤化が進み、それに伴い正規の専門的職員（司書）が減り、会計年度任用職員が図書館サービスの最前線を担っている図書館が増えている。こうした人員体制で、これから先、日本国憲法が謳う知る自由を保障することができるのだろうか？

各地の図書館での資料費の削減、建物の老朽化に伴う廃館の動きも出てきている。図書館の全域サービスは、この先どうなっていくのだろう。何より、サービスを実現させるための担い手であるはずの正規、安定雇用の司書の数が不足している。さらに図書館長には、図書館への熱い情熱と専門知識と経験に裏打ちされた確かな判断力が求められるが、このままでは司書も図書館長も育たない。

今回の被災地七尾市は図書館人・前川恒雄さんゆかりの地でもある。彼が図書館界で活躍していた時代、図書館にはそれぞれの自治体に確かな政策があった。

あなたの自治体の、あなたのふるさとの図書館は元気ですか？ いざという時の未来への備えは十分ですか？ いつか図書館機能が麻痺する事態とならないように、残すべき資料や情報を未来につないでいけるように、この先のことをみんなで一緒に考えていきませんか。

この度、図書館の自由委員会では、委員を公募している。ぜひ、現職で図書館の日々の活動に尽力されている若手からの応募を期待したい。

（ひらかた ひろみ：JLA図書館の自由委員会）

<http://www.jla.or.jp/committees/jiyu/tabid/679/Default.aspx>

◆図書館政策セミナー録画配信分

3月10日（日）に開催された、テーマ「公立図書館と公共施設等総合管理計画」（講師：松本直樹氏）の録画配

信分を限定公開しています。

掲載 HP：日本図書館協会＞委員会

＞図書館政策企画委員会＞図書館

政策セミナー「公立図書館と公共

施設等総合管理計画」

公開期間：2024年5月10日まで

令和6年度司書および司書補の講習実施大学一覧

No.	実施 大学名	区 分	講習期間	実施方法	定 員	申込期間	選定方法	実施場所・連絡先
1	聖徳大学	司 書	令和6年7月24日－ 令和6年9月13日	対面	120名	令和6年4月1日－ 令和6年5月31日	作文・ 書類審査	聖徳大学1号館 (千葉県松戸市岩瀬550) 聖徳大学10号館 (千葉県松戸市松戸1169) 聖徳大学生涯学習課 ☎047-365-3601
		司書補	令和6年8月5日－ 令和6年9月7日	対面	50名			
2	明治大学	司 書	令和6年7月18日－ 令和6年9月13日	対面	100名 (全科目受講) 20名 (部分科目受講)	令和6年3月18日－ 令和6年4月26日	書類審査	明治大学駿河台キャンパス (東京都千代田区神田駿河台1-1) 明治大学リバティアカデミー事務局 ☎03-3296-4423
3	鶴見大学	司 書	令和6年7月6日－ 令和6年9月22日	オンライン (リアルタイム・オンデマンド)	120名	令和6年4月1日－ 令和6年5月24日	書類審査	鶴見大学 (神奈川県横浜市鶴見区鶴見2-1-3) 鶴見大学 ☎045-580-8623
		司書補	令和6年7月6日－ 令和6年9月22日	オンライン (リアルタイム・オンデマンド)	50名			
4	愛知学院大学	司 書	令和6年6月28日－ 令和6年9月21日	対面	120名	令和6年4月8日－ 令和6年5月7日	作文・ 書類審査	愛知学院大学 日進キャンパス (愛知県日進市岩崎町阿良池12) 愛知学院大学 ☎0561-73-1111
		司書補	令和6年6月28日－ 令和6年8月31日	対面	50名			
5	桃山学院大学	司 書	令和6年7月1日－ 令和6年9月30日	対面・オンライン・オンデマンド	50名	令和6年5月7日－ 令和6年6月1日	作文・ 書類審査	桃山学院大学 和泉キャンパス (大阪府和泉市まなび野1-1) 桃山学院大学和泉キャンパス ☎0725-92-7036
6	別府大学	司 書	令和6年8月1日－ 令和6年10月31日	オンライン (ライブ・オンデマンド)	100名 (全科目受講) 20名 (部分科目受講)	令和6年4月15日－ 令和6年6月7日	書類審査	別府大学 (大分県別府市大字北石垣82) 別府大学附属図書館 ☎0977-66-9633

NEWS

新聞切抜帳

●全国

▶[シニア サポーター]サブスク主流 図書館徐々に 聴く本「オーディオブック」利用するには? ながら聴きで習慣に 効果音やBGM 買い切りサービスも 移動中は周囲に注意 [八王子市図書館]

(日経1/10夕)

▶転換契約 単科大[学]に拡大 シュプリンガーネイチャー OA 論文2倍 [[J-SPRINTA]]

(日刊工業1/18)

▶[数字博物誌]関西国会図書館, 本館超え 書庫増設, 日本一の2000万冊収蔵へ [国立国会図書館関西館]

(日経(大阪本社)1/29夕)

▶[教育ルネサンス No.2787 読書のススメ]1 活字に触れる「習い事」盛ん 楽しさ知り習慣化促す 朗読活用や本の推薦 ネット利用に押され 読書好きと成績に相関 文[部]科[学]省[全国学力・学習状況]調査

(読売2/14)

▶[教育ルネサンス No.2788 読書のススメ]2 校舎随所に図書置き成果 [広島県府中町立府中小学校, 群馬県玉村町立上陽小学校]

(読売2/15)

▶[教育ルネサンス No.2789 読書のススメ]3 本の幅広がる書評合戦 [埼玉県立所沢中央高校, 埼玉県高校図書館研究会]

(読売2/21)

▶[教育ルネサンス No.2790 読書のススメ]4 町中に本と親しむ居場所 [備前市「ご近所図書館」「おうち文庫」, 奈良県吉野町]

(読売2/22)

▶非正規職員6%増74万人 自治体財政難 低賃金, 雇止めも [図書館職員など]

(熊本日日2/26)

●北海道・東北

▶棒二[森屋]跡地施設に図書空間 函館市 千歳図書室は集約せず

(北海道(函館)2/9)

▶[足報ワイド] [宮城県]柴田町 新図書館を核に中心部整備 構想の妥当性説明必要 (河北新報12/24)

▶窓越しの景色思い出深く [横手市立]横手図書館移転 来月閉館, 惜しむ声/新施設への期待も

(秋田魁新報1/14)

●関東

▶石岡市の複合文化施設 候補地2ヵ所選定 鹿島鉄道跡地 市営駅東駐車場 [図書スペースなど]

(建設通信1/24)

▶「図書館建設中止を」 [栃木県]益子町民有志 署名3500人分提出

(下野2/1)

▶再開発ビルが起工 [JR]蕨駅西口地区 2棟総延べ5.6万㎡, 27年完成へ 組合施行 施工は前田建設・大末建設JV [蕨市 図書館など]

(日刊建設工業12/26)

▶14万㎡複合施設起工 [JR]青梅駅前地区再開発 組合施行 施工はイチケン [青梅市 図書館など]

(日刊建設工業12/20)

▶[現場へ! 記録を残す]1 定点撮影100年続いたなら [小平市立喜平図書館]

(朝日1/22夕)

▶福生[市]の2施設改修完了 [中央]図書館と郷土資料室

(読売(多摩)1/22)

▶国立劇場図書館 2月再開

(読売1/25)

▶[Dのまちから 認知症フレンドリーを目指して]2 当事者が集めた「?」改善 八王子[市]の[中央]図書館

(朝日(東京)2/12)

▶「楽しくなれる本」は? 横浜市立図書館 全国初「蔵書探索AI」導入 Web 書棚, 関連を表示

(神奈川1/16, 関連1紙)

▶理工系入門書購入に寄付募る [神奈川県立]川崎図書館 モノづくりすそ野拡大 未来を担う青少年を支援 目標50万円 3月31日まで

(日刊工業1/18, 関連1紙)

▶横浜[市]・野毛山[地区], 共生の街へ 障害児者支援拠点, 28年度新設 [野毛山]動物園 3エリア大規模改修 中央図書館 1階を子ども向けに

(日経(神奈川)2/16, 関連3紙)

●甲信越・北陸

▶[ピックアップ]「街のリビング」好評 [米百俵プレイス]ミライエ長岡 開業半年で20万人 図書スペース 多世代集う 産業振興にも力 認知度なお途上 互尊文庫貸し出し開始 来月から [長岡市]

(新潟日報1/24)

▶空中に展示棚, 回廊 25年度着工予定 新輪島[市立]図書館 隈氏事務所[隈研吾建築都市設計事務所]が設計へ 能登で初 (北国12/22)

▶[教育ルネサンス No.2784 能登地震 被災地の1か月]上 手作り図書室[輪島市立鳳至小学校] 日常への一歩 児童が避難者向け[ラジオ]番組

(読売1/30)

▶図書館 利用者の利便性向上

〔山梨県山中湖村 山中湖情報創造館 サービスツールとして「Chat GPT」を導入〕 (山梨新報1/1)
 ▶県関係番組 〔館内のパソコン席にて〕無料で視聴 〔山梨〕県立図書館新サービス (山梨日日2/3)
 ▶図書室行かない子増加 公立小中〔学校〕 コロナ禍で制限影響 〔山梨県〕 (読売〈山梨〉2/7)
 ▶「帯くじ」読書に幅 〔山形〕村図書館で新春企画 〔長野県〕

(MG プレス1/6)

▶利用カード絵柄追加へ 開館30周年 〔伊那市立〕伊那図書館が新デザイン公募 (長野日報1/12)
 ▶〔上伊那ネットワーク〕移動図書館車の原画寄贈 横田〔克年〕さんデザイン 〔飯島〕町図書館に 〔長野県〕 (長野日報1/23)

●東海

▶学校図書館の活用〔美濃地区学校図書館教育推進事業〕 関〔市〕・安桜小〔学校〕が最優秀〔賞〕 美濃〔市〕で表彰式 〔美濃地区教育推進協議会〕 (中日2/22)

▶袋井市に「まちじゅう図書館」構想 市内の〔市立図書館と市立小中学校図書館〕19館50万冊 25年にも一元管理 (朝日〈静岡〉2/21)

●関西

▶子育てに優しい図書館 福知山市〔立図書館〕三和分館移転オープン 6割が児童書や絵本／授乳室／キッズスペース… 「ゆったりと読書楽しんで」 (京都〔両丹〕1/20)
 ▶〔教育の森〕デジタルアーカイブ活用し教材作り 「スキラム〔S × UKILAM〕連携」で探究学習 〔泉大

津市立楠小学校〕 (毎日1/22)
 ▶〔現場へ！ 記録を残す〕5 地域をぶらり 主役は住民 〔北摂アーカイブス〕 (朝日1/26夕)
 ▶高砂市立図書館 創立65周年、リニューアル8周年 節目祝い多彩イベント 来月1日から 朗読会や映画など (神戸〈東播〉1/22)
 ▶新中央図書館整備へ 西宮市予算案2032億円 (朝日〈兵庫・阪神〉2/15)

●中国・四国

▶備前市新図書館 静と動の空間融合 岡田新一〔設計事務所〕で基本設計 (建設通信1/9)
 ▶〔浅野文庫〕図書館 24年度に設計着手 広島市長居住先 中心部で検討 (中国1/20、関連3紙)
 ▶松山〔市〕に「こども本の森」 安藤忠雄さん設計・寄贈 来夏開館 (朝日〈愛媛〉2/20)

●九州・沖縄

▶春日市の複合施設 事業費70億〔円〕、最大延べ8000㎡ 年明けに基本設計発注 〔図書館分室機能など〕 (建設通信12/28)
 ▶〔リポート2024〕指定管理 異例の1年半 中間市 現行5年 4月から短く 図書館など11施設 来年のダブル選〔挙〕影響か (西日本1/15)
 ▶愛称は「築きのもり」 〔福岡県〕築上町の新図書館 (西日本〔北九州京築〕1/19、関連1紙)
 ▶〔カワル力 地方自治〕議会図書室持ち腐れ？ 「物置」や「会議室」の例も 福岡県議会 年間利用は議員延べ88人〔および一般延べ56人〕 議員控室に〔市民図書館〕司書厳選の本

伊万里市議会 〔宗像市議会：連携、筑後市議会：導入検討中〕 (西日本2/24)

▶〔諫早市立〕諫早図書館にカフェ 〔カフェ KANDY〕オープン テラス席やテイクアウトも 障害者就労 おいしく支援 〔社会福祉法人つかさ会〕 (長崎1/11)
 ▶熊本大〔学附属図書館〕 東光原文学賞 学長賞に篠原〔爽馬〕さん (文学部3年) (熊本日日1/13)
 ▶旧遊技場〔田中会館〕を多目的施設に 宇土市 図書館、子育て交流活用 (熊本日日1/30)
 ▶11年開設の森都心プラザ 来館者1千万人突破 〔熊本市〕西区 〔図書館など〕 (熊本日日2/16、関連1紙)
 ▶「こども本の森 〔熊本〕」に340冊贈る 熊本市 〔国際〕ソロプチミスト熊本さくら 寄付金、植樹も (熊本日日2/18)

▶別府市の新図書館起工式 コロナや資材高騰 紆余曲折 26年3月開館予定 (読売〈大分〉1/24、関連1紙)

▶本好き 交流の場に 豊後大野〔市〕、喫茶店〔田中町珈琲店〕に併設 県内初のシェア型図書館 利用者に本棚貸し出し (大分合同1/31)
 ▶〔宮崎県〕川南町・指定管理者選定問題 次点団体を議会可決 事実異なる文書 副町長謝罪 〔図書館など〕 (宮崎日日2/6、関連2紙)

今月も石井一郎様、桑原芳哉様、野口敬太郎様、松野高德様および山梨県立図書館、県立長野図書館の皆様より記事の提供を受けました。ありがとうございました。



新館紹介



開館 2023年
4月2日
延床面積
496㎡

■本宮市立しらさわ夢図書館 (福島)

設計：共立設計

〒969-1203 本宮市白岩字堤崎500

☎0243-44-2112

▶今回の改修に際しては、当館の自然豊かな環境を生かし、利用者に癒しと元気を与えられる安心した空間と時間を提供する「長時間滞在型図書館」を目指しました。(柳沼志津子)



開館 2023年
4月20日
延床面積
1,424㎡

■吹田市立江坂図書館 (大阪)

設計：グリーンホスピタルサブライ

〒564-0063 吹田市江坂町1-19-1

☎06-6385-3766

▶Park-PFI制度を用いて江坂公園と共に再整備。フロアを拡張し、書架と閲覧席を増設。公園につながる出入口を新設し、公園と図書館の相互利用向上を図る。(澤井千聡)



開館 2023年
4月3日
延床面積
621㎡

■富山市立大沢野図書館 (富山)

設計：清水建設グループ

〒939-2254 富山市高内365

☎076-468-0950

▶行政・公民館・図書館の機能をそなえた複合施設「富山市大沢野会館」内に移転開館。楕円形のガラス壁、放射線状の書架が特徴的な開放感ある図書館となっている。(清川奈津子)



開館 2023年
4月21日
延床面積
631㎡

■千葉市花見川図書館 (千葉)

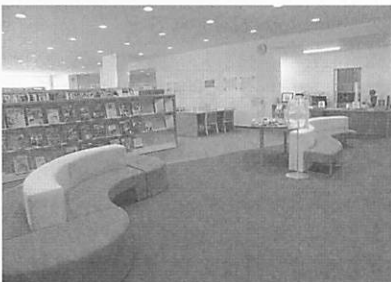
設計：ときた建築設計事務所

千葉市花見川区こてはし台5-9-7

〒262-0005

☎043-250-2851

▶1978(昭和53)年開館の花見川図書館が、大規模改修工事を経て、図書館・公民館・区役所連絡所の複合施設としてリニューアルオープンしました。(大塚恭子)



開館 2023年
4月3日
延床面積
450㎡

■富山市立大山図書館 (富山)

設計：スター総合建設グループ

〒930-1312 富山市上滝567

☎076-483-0012

▶「『まちの魅力を向上させる』多世代交流拠点」をコンセプトとする複合施設「富山市大山会館」内に移転開館。立山連峰を望む自然豊かな環境に囲まれている。(舟山秀幸)

新館情報募集！

日本図書館協会では、新設図書館の情報を募集しています。公立、私立、大学、短大、専門等、館種は問いません(学校図書館は含みません)。

①図書館名

②所在地(公立図書館の場合は市区町村名まででも結構です)

③電話番号

④開館日

以上の情報を、おわかりになる範囲で結構ですので、下記までお知らせください。

〒104-0033 東京都中央区新川1-11-14

公益社団法人日本図書館協会 新館紹介係

FAX.03-3523-0841 E-mail : zasshi@jla.or.jp

移動図書館の可能性と課題

石川敬史

1. 移動図書館の風景

こんにちは～

あれ、なんで柔道の本借りないの～？

先生～、料理の本は～？

あっ、私、ネコの本借りる！

ねえねえ、何冊借りた～？

宮崎県・都城市立図書館の移動図書館「くれよん号」の景色である。2024年2月28日(水)に縄瀬小学校と高崎麓小学校への巡回に同行させていただいた。両校ともに創立150年をむかえた伝統校である。神秘的な霧島連山を背景に、広大な農地が大淀川近くに広がり、畜産も盛んな縄瀬地区と、かつての武家屋敷跡が点在する「麓」地区への巡回だ。児童数は約20～50名の両小学校であるが、手提げ袋を持つ子どもたちは昇降口を出ると真っ先に「くれよん号」へ向かってくる。本をモチーフにしたカラフルなデザイン、そしてかわいい「くれよんちゃん」が描かれた図書館車は、子どもたちをひきつけている。「くれよん号」の周囲はにぎやかだ。

都城市立図書館の「くれよん号」は、1996年11月に巡回を開始した。現在の図書館車は2代目(2019年2月)であり、約4,000冊を積載し、市内26か所を巡回している¹⁾。「くれよん号」の一日は、YouTubeで魅力的に紹介²⁾されているほか、最近刊行された「はたらく自動車」を紹介する児童向け写真絵本³⁾にも高崎麓小学校を巡回する「くれよん号」が掲載されている。

両小学校で「くれよん号」との時間をともに過ごす。移動図書館の利用が子どもたちの生活の一部になっているとともに、自由であり居心地のよい「場」が自然につくられていることを改めて痛感する。移動図書館を媒介に読者をつくり、さ

まざまな発見を促し、未来の都城を支える人を育むという同館の想いも伝わる。

2. 図書館車台数の推移と傾向

これまでに筆者は数多くの移動図書館の「現場」を見学させていただく機会を得た。自動車文庫、Bookmobile (BM)、自動車図書館などのほかに、空とぶ図書館や出張図書館としての活動、さらにかつては船やリヤカーなどによる巡回もあった。今後、こうした移動図書館を取り巻く用語については歴史を踏まえながら検討していく必要があるが、本稿における移動図書館とは自動車による移動手段を指すこととしたい。

『日本の図書館：統計と名簿』（日本図書館協会）には、自動車図書館の台数が集計されている。同書より戦後日本の台数の推移をたどると、1950年代から1960年代前半は都道府県立図書館の台数が多い傾向にあった。1960年代後半になると市立図書館の台数が急増し、1970年代後半に入ると町村立図書館の台数が増加するという特徴をみることができる。しかし1997年の697台をピークに台数は減少し、2000年代後半から現在まで概ね540～550台を推移している。近年の台数をみると、2021年は540台（県2、市区417、町村121）であったが、2022年には550台（県2、市区424、町村124）となり、台数が増加していることがわかる。兩年の数値を精査すると、移動図書館を新規導入した図書館、2台目として増車した図書館のほか、廃止した図書館も複数存在した。

さらに同書から都道府県別の合計台数の推移を検討していくと⁴⁾、1976年の台数上位は大阪府25台、埼玉県24台、東京都・愛知県23台と続いていたが、2022年になると北海道59台、岩手県35台、鹿児島県27台へと上位が変化していたことがわかる。このうち、例えば岩手県に焦点をあてると、

台数が毎年少しずつ増加する傾向を示し、単純計算ではあるが2022年の1館あたりの図書館車保有率は70%を超える数値を示していた。他方で、東京都、埼玉県、愛知県などでは、1990年代後半から2000年代にかけて総じて台数が減少する傾向にあった。もちろん、排ガス規制や市町村の合併、さらには市町村数や面積、地理的・文化的特徴、図書館設置率などからの精査も必要であるが、図書館車の台数の推移を歴史的に検討すると、単純に市町村立図書館による移動図書館の創設や増減という視点のみならず、都道府県立図書館による市町村への図書館・移動図書館振興の積み重ねのほか、図書館づくり住民運動の展開や市町村への波及、図書館の地域計画⁵⁾、移動図書館を牽引した図書館人の存在など、各地域における実情を重層的に捉えることが求められる。

3. コロナ禍の移動図書館

能動的に「館（やかた）」の外へ「図書館」を「移動」する活動は、コロナ禍において注目された。ここでも移動手段を自動車に限定してしまうが、当時、移動図書館の活動を対象にSNSや新聞報道、各館のWebページを持続的にたどっていたところ、①通常の巡回、②一部巡回休止や利用制限を伴う巡回、③臨時・特別巡回、④巡回休止の4点の傾向に整理することができた⁶⁾。このうち③について、例えば以下のような事例を確認することができた（2020年度の事例）。

- ・ A市（北海道）：臨時休校中の児童・生徒の自宅へ図書館のバスなどを用いて本を届ける。
- ・ B市（長野県）、C市（滋賀県）：臨時休校のため移動図書館の臨時巡回を実施。
- ・ D市（愛媛県）：臨時休校のため移動図書館がコミュニティセンター前で活動を展開。
- ・ E市（福井県）：図書館車を駐車場に配置し、ドライブスルー貸出方式により予約本等の提供。

このほかにも、通常の運行（車内入場規制）、一般向け臨時巡回、ライトバンによる臨時運行のほか、絵本の宅配などの事例も確認することができた。筆者が2023年に実施させていただいた「全国移動図書館実態調査」⁷⁾において、コロナ禍の移動図書館の巡回（2020-2023年度）を尋ねたところ、2020年度に「臨時巡回の実施」、「巡回中止せずに継続」、「図書館が閉館でも移動図書館は巡回」（複数回答可）を選択した図書館は100館を超える数値

を示した。

なおこの当時、筆者は『American Libraries』（WebページやALAのSNSも含む）など国外における移動図書館の事例も追っていたが、Wi-Fi環境の提供、屋外の活動を中心とする子どもたちへの臨時巡回（車内利用の制限）、昼食・食料（農産物）の配布、多言語のチラシ配布など多様な活動を確認することができた。

図書館車を所有しているということは、日常的な定期的な巡回に限らず、非定型的、臨時的、緊急支援的な巡回可能性を図書館が有していることを意味する。すなわち、図書館車の装備を活かし、図書館の資料やサービスをいかに地域へ届けるのか、という図書館としての能動的な姿勢が移動図書館に体现されることにつながるといえよう。

4. 展望と課題

移動図書館の展望については、これまでに図書館関係の雑誌に執筆をさせていただいた。例えば、『図書館雑誌』（2015年）においては⁸⁾、時代をさかのぼって検討すると当時の目指す図書館の理念が移動図書館に体现されていたこと、移動図書館実践を拓くためには「図書館」が「移動」という視角が重要であること、加えて自治や共同を育む可能性などへ言及した。また、『みんなの図書館』（2019年）では⁹⁾、移動図書館の現場をはじめ、移動博物館など類似の「はたらく自動車」の現場を踏まえながら、市民とともに移動図書館を考えるという視角や、地域の「伴走者」としての移動図書館の意義などを指摘した。もちろんこれらの拙稿以外にも、『図書館車の窓』（株式会社林田製作所）から全国各地の豊かな移動図書館実践と現場担当者の思いが伝わるとともに、近年は移動図書館に対する精力的な調査・研究もみられるようになり¹⁰⁾、大いに参考になる。

この間も、筆者は各地の図書館の皆様のご協力によって、移動図書館の現場を歩き、実践を視て、実情を聞く貴重な機会をいただいた。こうした経験を踏まえながら、以下では、烏の目になりながら、これからの移動図書館の可能性や課題について考えていきたい。

4.1 全国の移動図書館に関する統計の共有

第一に、全国の移動図書館実態調査の実施とともに、各館における移動図書館に関する統計・数

値の共有化である。実態調査については、1979年の調査¹¹⁾以降実施されていなかったため、多くの関係者のご協力をいただきながら筆者が2023年に「全国移動図書館実態調査」を実施した。現在は数値の精査中である。こうした実態調査によって全国的な移動図書館の傾向が数値として明らかにできるとともに、自館の活動の位置づけも明確になり、移動図書館に対する省察や情報の交換にもつながると考える。

しかしながら筆者による実態調査の回収率は約75%に留まり、日本図書館協会公共図書館部会移動図書館分科会によるかつての調査のように国内すべての移動図書館の一覧を整理することは難しかった。市町村の移動図書館一覧を取りまとめている一部の都道府県図書館協会もあるが、「移動図書館」という用語の精査も含め、今後は全国の活動統計・数値の共有化を進めていく必要がある。

4.2 公立図書館未設置自治体の移動図書館

第二に、公立図書館が未設置の自治体における移動図書館の活動状況の把握である。公民館図書室や文化センター、教育委員会などによって移動図書館を運営する事例を散見することができるが、これまでに全国で何台巡回し、いかなる目的で活動を展開しているのか、十分に明らかになっていない¹²⁾。先述した筆者による実態調査に先駆けて、47都道府県立図書館へこうした移動図書館の有無について照会のご協力をお願いしたところ、30以上の機関・団体によって巡回していることが明らかになった。とりわけ、公民館をはじめとする施設・機関において、いかなる館外事業と関わり合いながら移動図書館が位置づけられているのか（もしくは定期巡回が行われているのか）、まずはその活動実態を解明する必要がある。

4.3 移動図書館・図書館車製作のガイドライン

第三に、移動図書館の活動や巡回、図書館車製作などに関わるガイドライン策定である。かつて国内では図書館車の標準化を試みた時代があった¹³⁾。当時、日本自動車車体工業会との打ち合わせが重ねられていた。加えて、例えば大阪府の『移動図書館の手びき』¹⁴⁾、沖縄県の『移動図書館導入の手引き』¹⁵⁾のように、図書館車の購入方法や仕様の策定、移動図書館の運営方法（資料の収集、複本、図書館員の配置等）を導く資料が存在した。

国外においても、図書館車の製作や移動図書館の運営に対する詳細なガイドラインを確認することができ、その記載内容は大変興味深い¹⁶⁾。もちろん、各図書館の独自性や発想、地域の実情などによって、図書館車の仕様や移動図書館の運営方法は異なるといえよう。その一方で、安全な車両や運行、安定した運営、巡回先の選定、ステーションでの活動内容など、短時間の「開館」であるが故の一定の基準や、現場を導いていくための手引きの策定は急務であると考ええる。

4.4 参画・協働への展開

第四に、移動図書館のあり方や、ステーションでの活動内容を市民・利用者とともに検討しあう「場」づくりである。筆者は、移動博物館や移動水族館、移動天文台、移動児童館などの現場にも立たせていただく機会を得た¹⁷⁾。これらの多くの現場では、受け入れ先の機関・団体との事前打ちあわせを経た協働をはじめ、多様な学びのプログラムを備えながら、市民・利用者・受入機関との信頼関係を積み重ねている傾向にあった。すなわち、移動図書館の持続的な巡回を視野に入れるならば、図書館による一方的な移動図書館の巡回に終始することなく、巡回先における相互関係性の構築とともに、地域の中で移動図書館をいかに育んでいくのか、という視点が欠かせないのではないかと考える。移動販売なども含めた類似の「移動」する活動との連携・協力の可能性も視野に入れつつ、移動図書館を媒介に社会への参画を深めていく仕掛けづくりができるのではないだろうか。

4.5 直接サービスと間接サービス

第五に、利用対象者を中心とした同心円状に広がる地域での相互の関係を視野に移動図書館の巡回先を再発見できる可能性である。例えば、高齢者を対象者とするのであれば、自治体の福祉課や高齢者施設、デイサービス関係者、町内会・自治会、診療所、保健所などへのアプローチの可能性もあろう。こうした視角はアウトリーチサービスの概念としても重ねあわせることができる¹⁸⁾。利用対象者への直接サービスとしてのアプローチのみならず、地域で生活する関係性を射程に入れた間接的なアプローチも利用対象のすそ野を広げるという意味において、移動図書館の可能性を有しているのではない。

その一方で、包摂と排除の関係性論¹⁹⁾をはじめ、社会福祉学など幅広い領域に基づく専門的知見からもアウトリーチの特徴を理解することにも留意しなければならない²⁰⁾。「館（やかた）」の外へ出る活動においては、アプローチを積み重ねるその過程も重要な位置を占めているのではないか。

5. 移動図書館の役割

ここまで個人的な問題意識に基づきながら移動図書館の可能性や課題を刻んでしまったが、確認しておくべきこととして、情報アクセスへの保障という意味において定型的な移動図書館の巡回も重要な位置を占めているという点である。

かつて『図書館ハンドブック』の第4版（1977年）において移動図書館は、「市民の図書館についての理解を深め、図書館観を変革し、より充実したサービスへの要求を育てる」²¹⁾ことも目的の一つとして位置づけられていた。また同書第5版（1990年）には「既設図書館を活性化する役割を果たすことができる」²²⁾としている。もちろん図書館数の少ない時代での言及ではあるが、現在にも通じる指摘であろう。移動図書館の役割には、①図書館サービスの空白地域に対する伸展活動としてのエクステンションサービス、②図書館サービスが十分に及んでいない入院患者や施設入所者などに対するアウトリーチサービス、③図書館の広報・プロモーションとしての3点の役割が、それぞれ入れ子構造のように描くことができるのではないかと考える。移動図書館をいかに活かしていくのか——地域を巡回する移動図書館は大きな可能性を秘めているといえよう。

謝辞

「くれよん号」の見学にご対応いただきました都城市立図書館の皆様には感謝申し上げます。また筆者による「全国移動図書館実態調査」に対し、全国の図書館関係者の皆様にご協力をいただきましたこと、改めまして深く御礼申し上げます。なお本稿にはJSPS 科研費 JP20K02523の助成を受けた成果の一部が含まれています。

注

- 1) 「新しい図書館車の紹介：くれよん号」『図書館車の窓』127, 2023.11, p.1.
- 2) 「移動図書館車くれよん号の一日＜小学校にGO!＞」<https://www.youtube.com/watch?v=bJgAahkGI8Y>. [参照日：2024.

3.4]

- 3) 「はたらくじどう車くらべ」編集委員会編著『しごととつくりを見てみよう！はたらくじどう車くらべ1』汐文社, 2023, p.22-24.
- 4) 石川敬史「戦後日本の移動図書館の展開：『日本の図書館：統計と名簿』に基づく数量的分析」『日本教育情報学会年論文集』39, 2023.8, p.407-408.
- 5) [日本図書館協会] 施設委員会「地域計画から図書館計画へ」『図書館雑誌』67(9), 1973.9, p.393-398.
- 6) 石川敬史「コロナ禍における移動図書館の課題と可能性に関する考察」『日本教育情報学会年論文集』37, 2021.8, p.414-415.
- 7) 全国各地の図書館員の皆様に多大なるご協力をいただいた。数値は精査中であるが、今後集計結果を公表していきたい。
- 8) 石川敬史「移動図書館の再発見」『図書館雑誌』109(7), 2015.7, p.426-428.
- 9) 石川敬史「地域の伴走者としての移動図書館へ」『みんなの図書館』510, 2019.10, p.2-10.
- 10) 加藤浩司「人口減少下の地方都市における移動図書館の価値に関する研究」『都市計画報告集』20(2), 2021, p.244-247. など。
- 11) [日本図書館協会] 公共図書館部会移動図書館分科会事務局編『昭和54年度全国移動図書館基礎調査一覧』1980.
- 12) 例えば、以下の事例がある。近藤舞実「石井町移動図書館車『ふじっこ2号』：誰からも愛される図書館車を目指して」『図書館車の窓』126, 2023, p.4-5.
- 13) 叶沢清介「移動図書館車標準化試案について」『図書館雑誌』69(6), 1975.6, p.252-253.
- 14) 大阪府教育委員会社会教育課編『移動図書館の手びき』1974. 11.
- 15) 沖縄県公共図書館連絡協議会移動図書館部会編『移動図書館導入の手引き』1993.3.
- 16) 例えば、やや古い資料であるが、例えば以下のようなものがある。IFLA Public Libraries Section, Mobile Library Guidelines: revision, IFLA Headquarters, 2010. (IFLA Professional Report, 123); Association of Bookmobile and Outreach Services Guidelines, 2008.
- 17) 石川敬史「はたらく自動車の序論的解説：移動図書館を中心に」『情報の科学と技術』68(1), 2018.1, p.8-13.
- 18) 船越知行編著『心理職による地域コンサルテーションとアウトリーチの実践：コミュニティと共に生きる』金子書房, 2016, p.15参照.
- 19) 倉石一郎『教育福祉の社会学：＜包摂と排除＞を超えるメタ理論』明石書店, 2021.
- 20) 正井さゆり「すべての子どもに本との出会いを：児童自立支援施設・児童相談所・矯正施設への読書活動の支援」淡水社, 2017.
- 21) 伊藤峻「Dブックモバイル」『図書館ハンドブック』第4版, 日本図書館協会, 1977, p.350-354. 引用はp.352.
- 22) 酒井隆「C移動図書館」『図書館ハンドブック』第5版, 日本図書館協会, 1990, p.77-87. 引用はp.82.

(いしかわ たかし：十文字学園女子大学教育人文学部)
[NDC10：015.5 BSH：自動車文庫]

アメリカの特徴的な取り組みに見る移動図書館の可能性

——日本とアメリカにおける移動図書館の変遷を踏まえつつ——

中山愛理

1. はじめに

電子図書館によるサービスが広まる中で、物理的な存在としての移動図書館の価値が問われている。ここでは、移動図書館の変遷と特徴的な事例を通して、図書館のサービス対象となる人びとに何を指し、どのように提供していきたいのかという活動の根本にある考えを見直すきっかけとしたい。

2. 日本における移動図書館の変遷

日本では1949年に千葉県立図書館が開始した「訪問図書館ひかり（ひかり号）」が自動車による移動図書館の起源とされている。ひかり号は個人への貸出のみならず、映画会や演芸会などを実施し、図書館によるサービスと空間を届けた。その後、1950年代にかけて都道府県立図書館が移動図書館を開始し、全域サービスを目指した1960年代以降、図書館整備の地ならしや遠隔地へのサービス補完のために、市区立図書館による移動図書館が開始されていく。建物としての図書館整備が進むにつれ、1990年代以降自動車による移動図書館は減少傾向となっている。

3. アメリカ合衆国における移動図書館の変遷

アメリカ合衆国（以下、アメリカ）の移動図書館は、1905年にメリーランド州のワシントン・カウンティ・フリー・ライブラリーにおいて、当時のメアリー・レミスト・ティッコム館長の発案で始まった馬車による取り組みが起源とされている。その後、馬車から自動車へと変化し、現在まで移

動図書館の主流は自動車となっている。当初、全域サービスを目指した移動図書館は、その後時代に応じて、対象者や地域のニーズに合わせた運用へと変化させてきている。



写真1. ワシントン・カウンティの移動図書館（現在）

4. アメリカにおける移動図書館の位置づけ

現在のアメリカには、移動図書館に関する専門団体のブックモービル・アウトリーチ・サービス協会（略称：ABOS）が存在する。この名称からもわかるように、アメリカの移動図書館活動は、アウトリーチサービスと密接に関わる取り組みと捉えられる。そして、ABOSの掲げる「我々は、図書館へのアクセスに障壁を抱える個人や集団に対して、適切かつ、迅速なサービスを提供するために、一緒に取り組みながら、インクルージョンと公正の実現に努める」という使命は、アメリカの移動図書館が何を指して活動しているかを端的

に示している。

5. アメリカにおける特徴的な移動図書館

5.1 テック・モバイル (TechMobile)

サンフランシスコ公共図書館では図書を積載した自動車による移動図書館のほかに、「テック・モバイル」と呼ばれる電子工作キット、レゴロボット、シートカッティングマシン、3Dプリンター、望遠鏡とYA向けの小規模コレクションを積載した自動車図書館を運行している。同様の取り組みはノースカロライナ州ダーラムでも、Wi-Fiの提供、プログラミングやSTEAM教育のためのノートパソコンや3Dプリンター、会議室、屋外Wi-Fiなどを備えたテック・モバイルの運用事例としても見られる。

5.2 ブックバイク (BookBike)

2014年からボストン公共図書館では、「図書」を意味するビブリオと「自転車」を意味するサイクルを組み合わせた「ビブリオサイクル」と呼ばれる取り組みを実施している。この取り組みは、現在「ブックバイク」と呼ばれ、図書を載せた荷車を自転車で引き、公園、お祭り、コンサート、イベントなどに出かけていくアウトリーチサービスと位置づけられている。館外で利用登録を受け付けることで、図書館へやってくる障壁の軽減や新たな図書やデジタルリソースを紹介し提供するなど、人びとに図書館の存在を知らせる手段となっている。こうした取り組みは、全米へ広まりを見せている。例えば、2015年4月から取り組みを開始したイリノイ州オークパーク公共図書館では「ペーパーバックライダー」と呼ばれており、ファーマーズマーケットでは料理書や園芸書など、公園や保育所における読み聞かせでは児童書を荷車に載せている。自転車が活用される背景には、予算削減と職員不足に直面する図書館にとって、自動車に比べて低コストであること（日本円で22万円～60万円ほど）、コンパクトであること、人力で化石燃料を使用せず、環境負荷軽減が図れること、自転車に乗ることができる図書館員であれば運転免許が必要ないことから、新たな移動図書館として注目を集めつつある。

6. アメリカ以外にも目を向けて

新たな取り組みは、アメリカにとどまらない。例えば、オーストラリアのブリスベンには、ポップアップ・ライブラリーと呼ばれる取り組みがある。この移動図書館は、大人向けの閲覧や貸出も実施することもあるが、主に市内の公園の遊具などがある子どもたちが集まる場所に、自動車を停車させ、シートを敷き、そこに絵本や児童書を並べるとともに、歌や手遊びなども取り入れたお話し会、貸出を実施している。遊び場の延長線上にある敷居のない図書館であり、図書館へ行くという心理的障壁を取り除く工夫である。

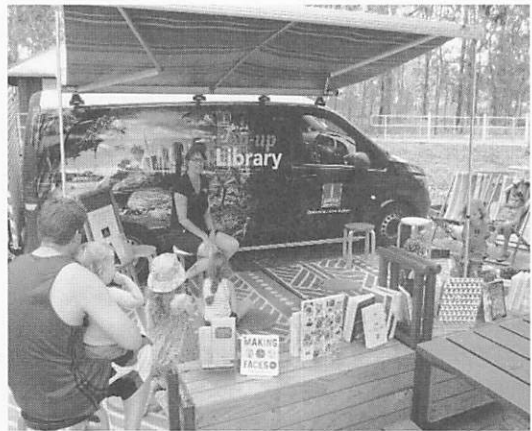


写真2. ポップアップ・ライブラリーでのお話し会

7. まとめ

日々、目標に沿った計画を忠実に履行することを求められることが多い日本の図書館員からすれば、今回、紹介した事例をそのまま取り入れることは難しいかもしれない。しかし、活動の根底にあるインクルージョンと社会的公正の実現に向けて、試行するアウトリーチの思想と結びつける発想や、移動図書館により図書館の存在を周知し、一時的にでも図書館の空間を構築し、図書館体験を届けることという発想は参考にできるのではないだろうか。

(なかやま まなり：大妻女子大学短期大学部)

[NDC10：015.5 BSH：自動車文庫－アメリカ合衆国]

都市計画・まちづくり分野にいる私が移動図書館に惹かれた理由

加藤浩司

移動図書館の価値を再定義することはできないか。数少ない経験だが、“現場”を支える人たちと出会う中で移動図書館に魅力を感じ、このようなことを考えるようになった。図書館が移動するから面白い。地域独自の課題や特徴が表現されるからそこに個性が見えてくる。私の関心に近いところでは、愛知県安城市では、「絵本だけの移動図書館」が、公共空間利用の社会実験と一緒に行われたようだ^{注1)}。「移動図書館は面白い!」そんな人が集まると、こんなこともできるということか。

私は、今も「移動図書館ビギナー」¹⁾。都市・地域計画、まちづくりの分野にいるそんな私が、移動図書館のどこに惹かれたのか。今回は、そんなお話をさせていただきたい。

●出張商店街から移動図書館へ²⁾

2022年3月まで、私は福岡県の有明工業高等専門学校にいた。ここにいたとき、「出張商店街」研究に取り組む学生がいたことがある。出張商店街は、商店街の店主有志が始めた活動で、複数の店舗が高齢者福祉施設等へ行き、仮設的な商店街をつくり施設利用者や近隣住民にサービスを提供するものである。まず惹かれたのは、仮設的な装置を用いて空間の使いこなしが行われるところ。街路や広場等の公共空間利用に関心のある私は、普段は違う使い方をされる場所に突如商店街が現れるということに魅力を感じた。実存する店舗が地域へ飛び出してサービスを展開するところにも惹かれた。空間の多様な使い方を支える仕組みを考える立場から可能性を感じたからである。さらに「都市のスポンジ化」問題に注目が集まりつつあった当時の状況も相まって、私は学生と一緒に出張商店街研究を始めた。その後、私は、出張商店街が商品だけでなく、花の種類や開き方は異なるが小さなシアワセのタネを地域へ届けていることを学ぶ。主催団体からは、商店街での思い出話をして当時を懐かしむ人がいることを聞き、現場での観察調査を重ねる学生からは、利用者の多くは、

店舗スタッフと楽しそうに会話を交わしていることを聞いた。届ける活動は面白い。出張商店街との出会いが、移動図書館との出会いへと私を導いてくれたのは間違いない。

●町並み保存地区での町家暮らしを通じて³⁾

もう一つのルーツは、2022年初春までの、福岡県八女市での日常生活の中にある。現代社会に暮らす私たちには、何らかのかたちで近くに住む人どうして交流する時間を持つことが大切で、そんな時間が持てると自分の生活も楽しくなる。このとき、“共通の話題”や“共通の場所”があると何とも心強い。移動図書館は、“共通”の話題や場所にならないか。ここでの暮らしを通じて私はそう考えるようになった。

2006年、私は単身で、町並み保存地区である八女福島地区の小ぶりな町家へ移り住んだ。同地区は、福岡市の南方約50km、茶栽培で有名な同市の中心地。国の伝統的工芸品「八女福島仏壇」や「八女提灯」等、さまざまな手しごとが今も息づく地域として知られるところである。一方、人口高齢化や空き家化進行で、町並み継承やコミュニティ維持の問題も顕在化する。

ここに住み始めたばかりのときの私は、学生と調査・実践で地域へ入り、イベントや視察等ではできる限り自宅を開放した。自分では“メンバー”のつもり。振り返ると、町家というハコの中で生活はしていたが、町（町内会程度の範囲）に暮らすことはできていなかった。「あんたんちは灯りがつかんけん、寂しい」何かの会話の折に、ご近所さんがほそっと口にした。当時の私は、この言葉に象徴される日々をただただ繰り返していた。

ところが、である。何年か後の私は、“わがまち”と思えるほどにこの町が大好きになった。転機は何か。主に二つの出来事が、行く先を変えてくれたように感じる。一つは、2009年11月に所帯持ちになったこと。もう一つはその少し後、妻が在宅時に表通り側の腰窓をほんの少し開けるよう

になったこと。これは「在宅ですよ」のサイン。妻の意図が伝わったのかどうかは不明だが、この窓を開けるようになり、ご近所さんからの声かけが増えた。「???」その数か月後、私は、表通り側の軒先にベンチを置いた。妻は、窓の隙間から見えるところに飾り物をコッソリ置いた。すると、どうだろう。散歩の途中、笑顔で飾り物を見つめるご近所さんをお見かけしたり軒先のベンチで日向ぼっこをするお向かいさんにおかえりと迎えられたり。こんな時間が、日常の中に増えてくるにつれ、私たち夫婦の、ここでの暮らし方が少しずつ変わっていく。「そうか!」2015年春、私たちは自宅軒先に鉢花やプランター等を並べ、研究のために日記をつけるようにした。翌年に「軒先菜園」開始。お隣さんの軒先を借りて大々的にコンテナ菜園を展開したこともあった。「今年は、何を植えようか」春先恒例の、わが家の議題だった。2015年からの日常を綴った日記は、今はわが家の宝物である。

●移動図書館の“現場”を経験して⁴⁾

移動図書館研究を始めたのは2019年。2018年に先行研究を探し、十文字学園女子大学の石川敬史先生を訪ねたのがその直接的なきっかけになった。石川先生に聞けば、移動図書館の実態調査は進んでいない。そこで、福岡県内の移動図書館動向を把握する調査を学生と始めることにした。移動図書館の行き先、1日に回るステーションの数、滞在時間等、移動図書館の回り方は、図書館ごとに実にさまざま。当時の私はそんなことも知らなかった。移動図書館車を更新、増台する図書館がある一方、事業を廃止した図書館が複数あることもこの調査で確認できた。

3台の車が走る八女市での調査では、“現場”の一端を知る機会を得た。何もなかった駐車場が読書空間に様変わりすること。有名人の入り待ちをするお客さんのように移動図書館車の到着を待つ人がいること。身近な公園の遊具のように移動図書館車を使いこなす子どもたちがいること。そして、移動図書館によるサービスが、職員さんたちの知恵や工夫、温かさで支えられていること。“現場”調査は初めてだったが、“現場”を見て私は移動図書館を引き継ぐことの必要性を強く感じた。この事例を研究対象にした学生は、ステーションでの“待ちぼうけ”も経験したが、移動図書館は続けたほうが良いという立場を卒業論文の結論に

示した。そして学生は、地域に暮らす住民の日常をやさしく見守ることもできるから、ということをその理由に添えた。

“新しい”移動図書館について考えるための手ごかりが欲しい。私たちは、ブックカフェ号「そらまMEN」に会うため、鹿児島県指宿市へ行った。ここでの移動図書館は2005年に廃止されたが、市立図書館の指定管理者でもある「NPO 法人本と人をつなぐ『そらまめの会』」がブックカフェ号という形で蘇らせ、軽ワゴンに約500冊の本とたくさんの人の愛情を詰め込み、各地を回る。

ブックカフェ号は遊び心が満載だ。2019年9月、まだ強い日差しが照りつける「フラワーパークかごしま」での数時間、私たちはブックカフェ号のお手伝いと観察調査をさせてもらった。記録されたのは、木陰でコーヒーを楽しみながら読書をするシニア夫婦、大型の手づくり絵本の読み聞かせを楽しむ親子、置かれていた人形で人形遊びをする女性ツーリスト等々。「本と人をつなぎ、人と人とのつながりが生まれるような場をつくろう」。2017年、ブックカフェ号製作費を同法人がクラウドファンディングで募ったときに掲げられたコピー。まさしく、その言葉に説明されるような“場”がそこに生み出されていた。移動図書館には、いろいろな可能性が潜んでいる。この調査で私が感じたことだ。

注

注1) 安城市「令和5年3月25日(土)に新幹線三河安城駅北11MA パーク周辺でおそと de えほんマルシェ開催しました。」
<https://www.city.anjo.aichi.jp/kurasu/machidukuri/toshikeikaku/kyoso/osotodeehonmarushe.html> (2024.2.11閲覧)

参考文献

- 1) 加藤, 「移動図書館ビギナー」が移動図書館と出会い感じたこと, 図書館車の窓, 第118号, pp.6-7, 林田製作所 (2020.7)
- 2) 服部他, 地方都市における買回り品店が多い団体による出張商店街の活動に関する研究: 福岡県大牟田市における「よかもん商店街」の取り組みを事例として, 日本建築学会技術報告集, 第56号, pp.385-390, 日本建築学会 (2018.2)
- 3) 加藤, 開放的な敷地での園芸活動が近隣交流の広がりと充実化に果たす役割: 町家(自宅)軒下での実践に基づく一考察, 地域施設計画研究41, pp.9-16, 日本建築学会(地域施設計画小委員会) (2023.7)
- 4) 加藤, 地方都市における移動図書館の再価値化: COVID-19流行前の福岡県内での移動図書館実施状況と福岡県八女市でのケーススタディ, 地域施設計画研究40, pp.337-344, 日本建築学会(地域施設計画小委員会) (2022.7)

(かとう こうじ: 小山工業高等専門学校)

[NDC10:015.5 BSH:自動車文庫]

「小さな図書館」でサービスを届ける ——四万十町における移動図書館車導入事例——

河野知歌子

1. はじめに

四万十町は高知県を東から西に流れる四万十川の中流域に位置し、総面積は642.3km²で、東京23区と比較しても広い町域を持つ。多くは山間部で林野が約87%を占めているが、東南部は土佐湾に面し、海も山もある自然豊かな地域である。人口は15,373人、世帯数8,063で高齢化率は46%である(2024(令和6)年1月31日現在)。

四万十町立図書館は本館と大正分館で構成され、本館は旧法務局を転用した施設で、四万十町立美術館を併設している。

四万十町では2017(平成29)年から、本館施設の老朽化などに対応するための検討委員会を設置し、図書館・美術館・展示・コミュニティの4つの機能を持つ文化的施設の整備事業を進めてきた。2022(令和4)年3月には「四万十町文化的施設サービス計画」(以下、「サービス計画」という)を策定した。

「サービス計画」では『文化的施設や町立図書館大正分館から遠隔地にも図書館サービスが行き渡るように、移動図書館車を導入します。移動図書館車は、自動車による「移動する小さな図書館」として巡回場所を訪問して本の貸し出しや返却、読書や資料の案内、レファレンスの受付を行い、時には機動力を生かして学校や地域のイベントに参加します。また、さらに町民自身が開設・運営できる「小さな貸出拠点」として 図書館の団体貸出の仕組みを利用した「サテライト貸出¹⁾」を普及していきます。』(同計画p.10)と明記した。

2. 導入経過

移動図書館車の導入について「サービス計画」に定めたスケジュールでは、2022年度は準備期間(車両購入)、2023(令和5)年度は試行期間、2024年からは本格運行としている。車両の購入にあたっては、山間部の走行が多いため、小型自動車の導入を前提に、情報収集および既導入図書館の視察を行い、仕様書を作成。最終的に株式会社図

書館流通センターのLiBOONを導入した。当初は移動図書館車の愛称募集やラッピング募集を検討していたが実施に至らず、カラーラッピングのみ施された状態での納車になるとひやひやしたが、幸いにも絵本作家ヨシタケシンスケ氏のラッピング車両第1号となった。町民の皆様からは移動図書館車のラッピングに愛着がわくと大好評をいただいている。

車両の導入と並行して巡回ルートを検討。図書館本館・大正分館まで来館が難しいと考えられる高齢者と児童を対象に高齢者サロン・放課後子ども教室などを巡回場所として調整を図り、2023年4月から試行巡回を開始した。現在は23か所を巡回しており、1か所あたりの駐車時間は40分で運行している。

3. 利用状況

2024年1月31日までの利用状況は図1のとおりである。天候状況に左右されることや、月により変動もあるがおおむね安定的な利用を維持している。移動図書館車には約600冊の資料を積載しており、利用者からは移動図書館車が近くに来ることで、本を手にとって選べる機会ができた喜んでいただいている。特に高齢の方には、移動図書館車の巡回が「本を借りる」のはもちろん、外出のきっかけや交流の場となっている。



▲「米こめフェスタ」出展時の様子

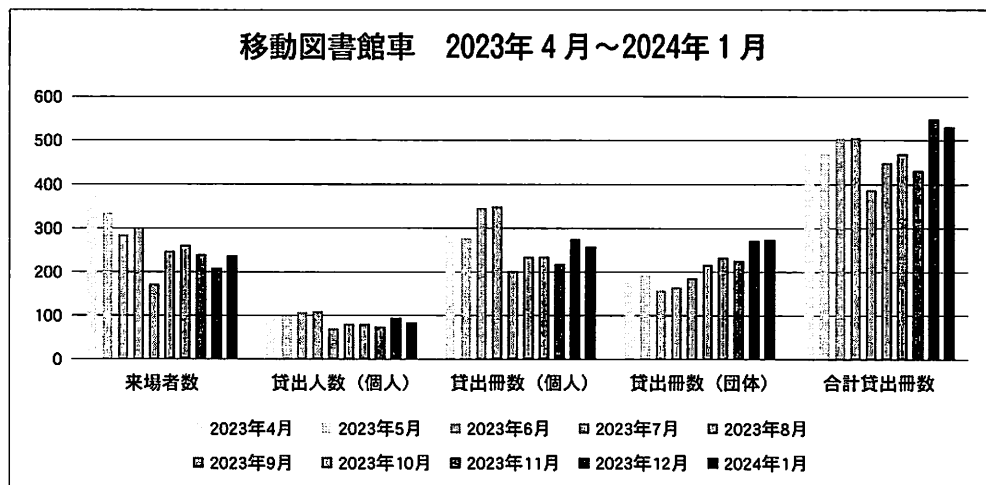


図1. 移動図書館車の利用状況

通常の巡回以外にも機動力を生かし、四万十町で2023年11月5日に開催された「米こめフェスタ」などの屋外イベントに合計8回出展した。町民のみならず町外・県外の方にも自然の空気を感じながらゆったりと本に触れてもらえる機会を作っている。イベント出展では本の貸し出しだけではなく、ボードゲームやワークショップ、読み聞かせなどで大人から子どもまでが楽しめる場をつくり、「小さな図書館」として図書館の広報活動の一翼を担っている。

4. 図書館本館・大正分館への影響

移動図書館車の試行巡回にあたり、図書館本館・大正分館への影響についても注視してきた。移動図書館車巡回開始後、両施設とも貸出人数と貸出冊数が減ることはなく、むしろ微増している。これは、すでに図書館を利用している町民が移動図書館車の利用者になったのではなく、新たな利用者が増加しているものと考えている。

移動図書館車が巡回することにより、利用者の選択肢が増え、それぞれの生活に合わせた利用が定着しつつある。図書館施設への来館を促すことも必要だが、図書館から町民の近くへ出かけていくことの大切さを改めて実感している。

5. 運用上の課題

移動図書館車で大きな問題となるのが悪天候である。気象警報等発表の際には、道路状況や巡回場所の天候状況を踏まえて巡回中止の判断が必要になる。中止の場合には巡回場所に来場する利用者に周知する方法に苦慮している。

また、導入した移動図書館車は普通自動車免許

で運転が可能であり、基本的には職員2名体制で運行している。屋外での運営のため、職員の熱中症や寒さ対策等の体調管理も重要である。

6. 今後の課題

2023年9月の四万十町議会において、文化的施設の「施設本体の建設工事に係る請負契約」に関する議案が否決され文化的施設整備事業が中断された。2024年3月の定例会において、現計画・現施設規模による本事業については、中止せざるを得ないと報告された。文化的施設で計画していた移動図書館車の車庫や作業スペースは整備されないままとなり、移動図書館車を本館、大正分館のどちらの施設に置くのかも今後の課題となる。

「サービス計画」の今後の取り扱いは現時点では未定だが、移動図書館車は2024年4月から本格運行となり、町内全域に図書館サービスを行き渡らせる重要なツールとして、運行を継続する。移動図書館車は「小さな図書館」として町内では欠かせない存在だと感じており、最大限に活用することでレファレンス受付や利用拡大に時間をかけて向き合っていく。

注

- 1) サテライト貸出：団体貸出先をサテライト（元の施設から離れた拠点）として位置付け、サテライト貸出システム「カリコレ」を用いて、拠点からさらに貸出することができる。

参考

「四万十町文化的施設サービス計画」

<https://www.town.shimanto.lg.jp/life/detail.php?hdnKey=8835>
（このうち：四万十町立図書館）

[NDC10：0155 BSH：1. 自動車文庫 2. 四万十町立図書館]

製作会社の雑談

林田理花

◆林田製作所における図書館車製作の沿革

誌面をお借りして、まず図書館車製作に至った会社の沿革などから触れていきたい。

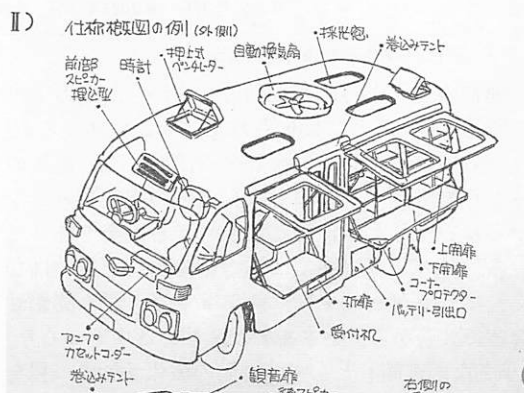
一般社団法人日本自動車車体工業会、特種部会の会員として早71年の年月が経った。先々代が加藤製作所から独立し、1960（昭和35）年に埼玉県蕨市で会社を設立、のち現在のさいたま市に移転。初めはガス工作車や海外向けの特別工作車、レッカー車等を製作していた。

図書館車を製作するようになったのは1971（昭和46）年。弊社製作の図書館車は与野市、所沢市、埼玉県から広がっていった。そして図書館車の名前を全国に知らしめた日野市。



▲日野市 ひまわり号

当初はマイクロバスベースで図書館車を製作、のちトラックシャーシからの組み上げボディーとなっていく。最初のトラックベース図書館車は奇



▲仕様概図の例



▲習志野市 きぼう号

妙な風貌、今のセミバス型に移行するまでに2年ほどの年月がかかっている。

当時の車両について「クラッチペダルがすごく

重い」と書かれている箇所がある。当時の運転手は道路も舗装されておらず大変だったろうと思いを馳せてしまう。

製作した図書館車ファイルが1,500冊ほど保管され、中身は打ち合わせの内容、担当者、手書き図面の青写真が入り、BM写真はすべてアルバムに整理され、倉庫2階は資料だらけだ。敷地内にも廃車になった図書館車が何台か置かれている。中には世界に1台しか残っていないレア車両もある。

◆現代の図書館車について

キャンプやキャンピングカーの流行に乗って図書館車に装備できる商品の選択肢が広がった。温暖化に伴いクーラーを設備する車が多くなった。電動テント・電動折戸・電動補助ステップ・身障者リフト・掲示用テレビなど市町村により、さまざまな使われ方がある。

顕著に表れるのがイラスト。シール素材の品質向上により、イラストレーター等ソフトで製作したままが車体に貼れる。外観での好感度アップや親しみやすさが利用者に好評のようだ。

地域によって仕様が全く異なる点も興味深い。雪・塩・風・暑さ・寒さに対応。6人乗り、物入架の位置、机の配置、1台1台多種多様。そのニーズに答えていくのも製作側のやりがいのひとつだ。

鉄の鎧で製作される図書館車はライフサイクル的にもエコ、鉄は再生されてもその品質は落ちず持続可能な素材だ。20年以上運行できる図書館車は箱物（建物）よりはコストパフォーマンスが高いと言える。

最後の全国移動図書館・協力事業研究集会に出席した際、教壇から「移動図書館車は近いうちに無くなる」と聞こえてきた。激しく落ち込み、最後の1台まで弊社が製作したいと泣きそうになった。今思うと図書館車は非常にタフな存在である。現在はバッテリーの品質向上により、災害時にも役立つ仕様にできる。社会にとって動くAED搭

載も大切だと考える。本棚は災害時に食料やおむつ等の備品に変更して運行もできる。図書館車に対する未来への構想は限りなくあふれ出し現実につながっていくところにやりがいを見いだす。

◆南アフリカへの図書館車の寄贈を支援

図書館車を南アフリカに寄贈する活動を行われているSAPESI-Japanともタッグを組ませていただいている。

最初SAPESI-Japanファウンダーの進沼忠氏から問い合わせがあったときは驚いた。アジア地域での寄贈は行っていたが、人が移動するのも大変な南アフリカである。だがよくよく考えると強靱なエンジンを持つ日本のトラックは南アフリカの大地でも活躍できると確信、地域内だけを移動する図書館車は走行距離が少なくこの活動には適していると思えた。

南アフリカでの活動の写真やビデオを見ると図書館車に元気をもらう。日本よりはるかに悪い道路状況下で砂埃を巻き上げながら走る図書館車は圧巻だった。本に接する子どもたちの真っ直ぐなまなざしにも感銘を受ける。これからも活動支援をしていきたい。

◆『図書館車の窓』の発行

弊社が発行している『図書館車の窓』の創刊が1982（昭和57）年6月1日。現在128号の発刊に忙しい。

最初の担当者酒井隆氏の1号に記されている思いが今も引き継がれる。

「資料利用が安易であった図書館を去り、しみじみとBMを窓口にしてすべてのサービスが受けられれば、そして図書館網が整備されていたらなあと思う毎日です。サービスの原点でもあるBMを支えておられる方やこれから導入されようとする館が、もっと情報を交換しあっては、と「図書館車の窓」を発行いたしました」

酒井氏は20年間58号分の『窓』を担当、闘病中も5号分の手稿を遺稿として残された。

2年間のブランクがあり59号からは担当が井上学氏に交代、酒井氏と井上氏の融合号が何号か発行された。井上氏は朝鮮半島問題をご自身のテーマとして研究され、韓国の図書館事情にも精通されていた。日本図書館協会の職員であったので、全国各地に友がいた。『窓』にも朝鮮半島に関する執筆が残されている。2016（平成28）年12月、井上氏は心筋梗塞でお別れも言えず他界。酒井氏、井上氏両者2名から受けた恩恵は林田製作所にとってかけがえのないものになっている。

現在の『窓』は弊社を中心に合議制で発行している。1号から依頼していた印刷会社が店じまいをしたため、やむない変更でカラー版に。だがこの変更で評判が急上昇した。内容的には何も変わらないのだが、色彩の力に驚かされる、色彩は感情まで届き図書館車が生き生きとしてくる。新しい図書館車の紹介は毎号各図書館様にご協力いただき感謝しかない。

◆図書館車をめぐる人々の思い

常日頃思うに、製作中の図書館車に対する熱意に突き動かされる。一日中製作の事を考えているであろう熱心な職員の方に出くわすことがある。それがこちらの原動力にもなっているのだが、図書館サイドにとって完成するまでの道のりが長い図書館車、運行するまで、運行してからの苦労を考えると頭が下がる思いだ。図書館外に出て活動する大変さは計り知れない。運営する側、利用する側の立場に立った必要性を今一度考え直したい。

納車時には説明に伺う。更新の場合は旧車両が子どもたちの「ありがとう」や「さよなら」「忘れない」の文字やイラストでいっぱいになっている図書館車に出くわす。車体はボロいが嬉しそうに見える。たくさんの方に利用していただけたと思うとお疲れさまの言葉とともに涙が出る。

この仕事をさせていただくと運転手さんと話す機会も多い。「扉を閉める時、すごく重いけどこれどうにかならない？」新車はすべてが硬かったり



▲更新される車両に寄せられた文字・イラスト

重かったり、一日でも長くお使いいただく事を考えて製作されているのでと説明する。

かつての方などもいて「私、昔これの運転手でさあ」楽しかったこと悲しかったこと大変だったことなどすごい勢いで話し始める。「いやあ、あんなときはほんとまいったね」と言いながら遠くを見る目がキラキラしている。帰り際「あのころ、今思うと一番いい思い出で楽しかったよ」の言葉、仕事冥利に尽きる。

◆未来の図書館車とは

ディーゼル車からハイブリッド車へ今度はEV車と車業界は目まぐるしいチェンジ期を迎えている。現在、図書館車のベースとして使われるトラックEV車はリースまたは保険に入っただけの使用になる。図書館車は毎日活動できることが前提なのでEV車の安定時代が来たら弊社も製作に乗り出すとは思う。だが現状を考えると中国のEVバッテリー墓場問題、国のすべてをEV車にした場合の電気消費量、猛暑の節電を考えると課題は山積みだと思う。

未来の図書館車があらためてその存在価値を見だし地域に寄り添い新たな可能性とともに発展し続けていくことを説に願う。

（はやしだ りか：株式会社林田製作所）
[NDC10：015.5 BSH：自動車文庫]

特集★移動図書館のいま

子どもたちの居場所を定期的に作り続けるために

——移動図書館が移動することの意味——

高濱宏至

■タンザニアでの移動図書館の巡回プロジェクト

すぐにでも壊れてしまいそうなサンダルや靴を履きながら、家から毎日1時間以上もかけて山を登って学校に通っている子どもたちがタンザニアの山間部に住んでいた。通っている学校は電気もなく、薄暗い教室で50名を超える生徒が黒板に目を向けている。手元に教科書や本などはない。

そんな環境に住む子どもたちに定期的に本を読む機会を届けようと、クラウドファンディングで資金を集めて購入したランドクルーザーを改造し、移動図書館車を作ったのが2017年のことだった。それからコロナ禍も含めて約5年間、山間部の学校35校（特に5校は注力して）を対象に周遊プロジェクトを行ってきた。

最初の2年間でいくつかの顕著な効果が見られた。上記のような環境もあり、まず登校率そのものが低い学校もいくつかあった。しかし週に一度、図書館車がやって来る日は登校率が高くなるという変化が出てきた。教師の話によると、面白い授業や本が読めるという環境が生徒たちの学習モチベーションを向上させているという話だった。これに付随する形で、学校の教育環境を整備することで年間を通じ登校率を上げることができた。

また、7年制の小学校の最後に卒業試験があるのだが、この点数も上昇し、結果としてセカンダリースクール（中学校）への進学率も上がったのだ。これらの変化は、教育環境が整っていない地



▲タンザニアの移動図書館車と学校の生徒たち

域に移動図書館を使うことで、子どもたちの学ぶモチベーションと学習効果を高められることを示しており、良質な教育機会を届ける一つの有効な施策と言えるだろう。

しかし、いくつかの課題もあった。一つは燃料費で、山間部を走るということはずっと山登りをするようなものなのでガソリン代が非常に高かった。急な山道を走ることは車にも負荷をかけることになり、いろいろな故障も増えていった。滑落すると死んでしまうような環境なこともあり、メンテナンスについてはしっかりと行う必要があり、タイヤ交換も含めてこうした費用が当初の見込みよりはるかに上がってしまった。

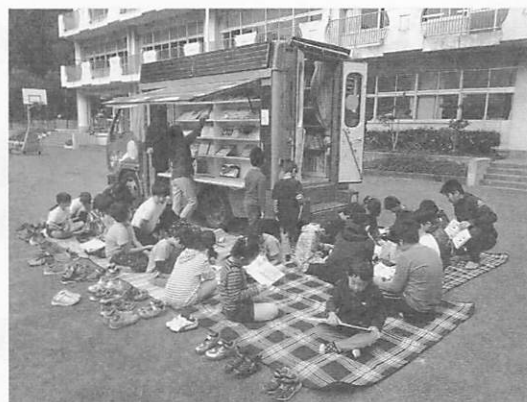
また、雨が降ると赤土の道路が滑り山から下ることが難しくなってしまうという点もあった。特

に雨季はこの課題が悩ましく、年間を通じて安定して周遊することはできないという結果になった。最終的には図書館車そのものも山間部での走行が難しくなってしまう、移動図書館を走らせ続けるということは2022年で一度ストップしている。また、この5年間はJICA事業として実施していたので予算があったのだが、仮に車体があったとしてランニングコストもあるので何か新しい方法が必要だ。デバイス機器のリユース活動も行っており、タブレット端末を100台運用しているのだが、これを使って電子書籍中心の図書館にするような実験もしつつ、現地の実情に合った形の図書館運用を考えてみたい。

■相模原市緑区における移動図書館の常駐プロジェクト

このような活動をしている中で、本物の移動図書館車を寄付してもらえという話もあった。この車体は、和歌山県の自治体で使われていたもので、新しい車体と入れ替えるために不要になったという話だった。走行距離も4万キロ程度で十分活用できそうな車体だったが、排気量や車体の構造も含めてタンザニアの山間部で使うのが難しいということもあり日本で使うことに決めた。日本国内の拠点が相模原市緑区の中山間地域にあり、状況としてタンザニアと似ている部分もあったので、日本とアフリカで並行して移動図書館を使うことで共通の課題を見いだしたり、全く新しいアプローチのアイデアを思いついたりできるかもしれないと考えたのだ。

まずは地域のまちづくり補助金を活用して車体の整備を行った。アーティストが多く住む街なので、地域の絵本作家の方に車体の側面に絵をかわてもらい、それ以外の場所はイベントを企画して地域の子どもたちにペイントしてもらった。本についても主に幼少期や小学校低学年向けの本を、地域の人々や古本を扱う企業に寄付してもらうこ



▲イベントの様子

とができ、地域の色を出した唯一無二の移動図書館車を作り出すことができた。2018年から本格的に稼働し始め、平日の朝の時間に地域の小学校や保育園・幼稚園で読み聞かせを行ったり、イベントに出展したりして子どもたちと親御さんがゆったりと本を読んで過ごせる居場所作りなどをしてきた。

そんな折、2019年の秋に猛烈な台風19号の影響で土砂崩れがあり、地域にある三つの小学校のうちの 하나가閉鎖されてしまい、生徒たちが半年以上を仮設校舎で過ごさなければいけないという状況が起こった。このときに、同校の先生方や生徒の親御さんからの要望があり、移動図書館車を仮設校舎の敷地に常駐させ、子どもたちがリラックスできる場所を作ってもらえないかという話をもらった。「移動できる」図書館という意味を考えたときに、「自分のところにやって来る」という意味で使われることが多いと思うが、「常駐する場所を自由に換えられる」という意味合いで新たな価値が作れるのではないかと思い快諾した。ちょうど緊急の助成金をいただける話も重なり、被災した小学生たちのニーズを最大限くみ取る施策をしようと考え、まずはどんな本を読みたいか、図書館車を使ってどんな遊びをしたいか一人ひとりからアンケートを取った。ここで希望があった本や漫

画、知育玩具などを新たに購入し車体に搭載した。さらに生徒に図書館長になってもらい、運用の方法や貸し出しルールなどについては独自に作ってもらうことにした。そこでは非常に自由な発想で運用が始まり、貸し出し帳はあるが書くかどうかは任意、漫画は間が抜けてしまうと続きが読めないで貸し出しは1日限り、館内でのおしゃべりはOKなど普通の図書館では見られないような光景が広がっていた。

■コロナ禍で新たに展開された移動図書館プロジェクト

この学校での常駐がちょうど終わりを迎えたころ、生徒たちの卒業の時期に本格的なコロナ禍がやってきた。2020年4月の緊急事態宣言以降、地域で唯一の公民館図書室も長期間の休館を余儀なくされてしまい、ますます子どもたちが本に触れる機会が失われてしまった。学校の休校にイベントの中止、移動図書館も周遊などはできなくなってしまったが、据え置き型での運用に手応えがあったので、これを地域の中で実施してみようという話になった。アルコール消毒液などを設置し、24時間いつでも入って本を読んだり借りたりできるように鍵を掛けず図書館車を開放したのだ。監視カメラなど設置せず、無人で実施できたのはひとえに地域との信頼関係の賜物と言えるだろう。

いくつかの実験も行うことができた。一つは車体を置く場所で、地域内で土地を持っている方々に相談し何か所かで無料で置かせてもらうことができた。車を使わないと移動が難しい地域にあって、徒歩圏内に定期的に本を読める場所を作るとは、子どもの自立を促し親のストレスも軽減させる効果があったと考えている。特に読書が大好きという小学生が住む家の近くに置いた際は、その子が休校になった時や放課後にずっと図書館車内にいるということを親御さんに教えてもらった。また、地域の子どもたちが放課後に集まる場所と

しても利用してもらうことができた。

もう一つの実験は、前回の小学校同様に運用を利用者に任せたのだ。特にルールも設けず、自由に出入りできる環境だけを用意した。すると、地域の人々がさまざまなことを自発的に行ってくれるようになった。まずは貸し出しノートやアルコール消毒液が勝手に置かれ補充されるようになった。次に、絵本が自動的に増える現象が起きた。漫画も途中までのものを置いておくと、続きを誰かが買ってくれるようなこともあった。また、コルクボードに付箋を貼ってメッセージをやり取りする昔の駅の掲示板のようなものもできた。図書館車をどうやったら楽しく使えるか、みんながそれぞれのアイデアを形にしていってくれたのだ。

■移動図書館の可能性と今後の課題

コロナ禍を経験し、教育機会へのアクセスが限られるという事態が日本でも世界のどこでも起こり得るということを改めて実感した。同時に、新しい価値観や広い世界に触れ、好奇心が刺激され、世界のさまざまな事象に疑問を感じ、自ら問いを立て、何かに挑戦したいと思い行動しようという気持ちを起こさせる機会を、子どもたちに作り続けていくことがいかに重要かということも再認識することができた。そのような機会、環境を多くの場所に常に作っていくというのは難しいかもしれない。しかし、移動型であればその機会を定期的に提供できる可能性があるのだ。移動図書館の機能には多くの可能性を感じているが、その内容をどうしていくかという点は今後も課題となる。今後は、子どもたちがインプットするだけでなく、アウトプットする機会も一緒に提供していきたいと考えている。

(たかはま こうじ：NPO 法人 Class for Everyone)
[NDC10：0155 BSH：自動車文庫]

Book Mobile (ブック・モービル) サミット開催

——移動図書館の新たな可能性を求めて——

大井亜紀

1. はじめに

2023年10月29日(日)、名古屋市図書館は、移動図書館について楽しみながら考えるイベント「Book Mobileサミット(以下「BMサミット」という)」を開催した。本稿では、BMサミット開催に至る経緯や当日の内容について紹介する。

2. 開催までの経緯

本市の移動図書館(自動車図書館と呼んでいる)は、1956年に「巡回文庫1号車」が運行を開始したのが始まりである。1983年には4基地6台の体制へと発展したが、市内に建物館が新たに建設・開館されるのに伴い順次廃止され、2007年には1基地2台の体制まで縮小された。行政改革の流れの中で2010年2月に自動車図書館廃止の予算案が議会上程されたが、存続を求める市民運動や議会の意見をを受けて修正議決され、事業を継続することとなった。以降、約3,000冊を積載する車両2台で市内の公園や公営住宅など100か所以上を巡回してきたが、2台ともに購入から15年以上経過して老朽化が進み、買い替えの必要に迫られていた。また、新たな巡回希望があっても車両の大きさや重量の制約により巡回できないことが多く、自動

車図書館最大の武器である機動力を活かしきれていない状況であった。

これらの課題を解決するため、現行車両2台を廃車し、車両を小型化するとともに4台に増車することとなり、2023年度に新車両を製作し、2024年4月から新たな体制での運行を予定している。本市の自動車図書館が大きく姿を変えようとする中、他都市の移動図書館の車両の工夫や多様な活動内容を学ぶことで今後の取り組みの参考にしたいと考え、100周年を迎えた本市図書館の記念事業の一つとしてBMサミットを企画した。

3. 開催にあたって

BMサミットは、昭和区役所が主催する昭和区区民まつりと同時に開催した。昭和区区民まつりは、鶴舞中央図書館がある鶴舞公園に、地域団体のブースやキッチンカーが出展するお祭りで、2万人規模の来場者でにぎわう。歴史ある本市の自動車図書館だが、その存在を知らない市民も多い。鶴舞公園に車両が集まるイベントとすることで、自動車図書館を広くアピールし、本が車でやってくるワクワク感を体感してもらいたいと考え、BMサミットは図書館車に実際に触れ合える公園会場

と、講演や事例発表等を通して移動図書館について学ぶ図書館会場の2会場で開催することとした。



▲公園会場の様子

4. 公園会場の内容

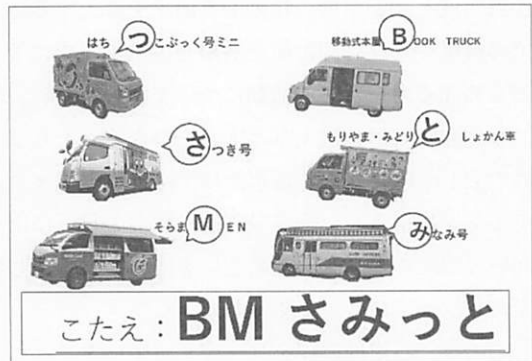
移動図書館と移動本屋が計7台、鶴舞公園に集合した。名古屋市からは、2023年度で引退する「なごや号」と「みなみ号」のほか、指定管理者の運営する「もりやま・みどりとしょかん車」、各務原市立中央図書館（岐阜県）からは絵本作家高畠純さんデザインのキャラクター「ブッキィ」がペイントされ約3,500冊を積載できる移動図書館「さつき号」、近江八幡市立近江八幡図書館（滋賀県）からは絵本400冊を積んで就学前施設を回っている「はちっこぶっく号ミニ」が並んだ。

そして、鹿児島県指宿市からはブックカフェ号「そらまMEN」がフェリーに乗ってやってきた。2015年にクラウドファンディングを活用して導入された車両である。近くにはハンモックが設置され、本とともにくつろぐ空間が生まれていた。また、横浜市から来た移動式本屋BOOK TRUCKは、周りに並べた本箱と車が一体となった場を作り、魅力的なラインナップも相まって多くの人々が立ち止まり本を手にしていった。そらまMENやBOOK TRUCKでは本やグッズの販売もされ、人気を集めていた。

7台の車両に隠した文字を見つけて言葉を完成させるクイズには400人以上が参加し、大人から子どもまで車両を出入りして文字探しを楽しんでいた。

た。

また、全国の政令指定都市や東海3県の移動図書館の担当者からの情報提供により作成した21枚のパネル展示は、各地の移動図書館の活躍がよく分ると大変好評であった。そのほか、ワークショップで市民が作成した「一箱本棚」が並び、近隣の桜花学園高等学校によるフェアトレードコーヒーの販売もされ、公園会場は多くの人でにぎわった。



▲クイズ「かくれんぼもじをさがせ！」

5. 図書館会場の内容

鶴舞中央図書館内の会場では、移動図書館の歴史を振り返り、今後について考える基調講演やパネルディスカッションを開催した。図書館法制定25周年を記念して日本図書館協会が製作した「ブック・モビルの歌～まちどおしいブック・モビル～」が会場に流れる中、県外を含め延べ82名が集まった。

十文字学園女子大学の石川敬史准教授による基調講演「移動図書館の過去×現在×未来」では、呼称・愛称の変遷等から読み取れる移動図書館の位置づけについての解説があり、時代や地域に応じてさまざまな形で展開されてきた各地の移動図書館の活動について学ぶことができた。また、「エクステンション・サービス」「アウトリーチ・サービス」「プロモーション活動」の三つの視点や、巡回先や地域住民の参画・協働など、これからの移

動図書館の活動のためのヒントが示された。

午後からは「地域に飛び込む移動図書館～届けよう！本を読む喜びを～」と題して事例発表とパネルディスカッションを行った。

岡山市立中央図書館の三船充是司書は、移動図書館で実践している重度の心身障害・難病がある子どもの家庭への図書館サービスについて発表した。

近江八幡市立近江八幡図書館の奥村恭代館長は、2021年度と2023年度に移動図書館車を導入するまでの経緯や、移動図書館を活用して就学までに子どもの聞く力を育てる活動について報告した。

特定非営利活動法人本と人をつなぐ「そらまめの会」下吹越かおる理事長は、クラウドファンディングに挑戦した経緯や理念、駅前の足湯に向いて郷土のオリジナル紙芝居を観光客に実演したエピソードについて紹介した。

その後、石川准教授をコーディネーターとして、事例発表者3名によるパネルディスカッションが行われ、「図書館が移動することで、どのような活動を移動したいと考えているか？」などが話し合われた。どの発表も素晴らしく、「移動図書館が運んでいるもの・コトがこんなに多かったと気づけてよかった。利用者ですが、これからは足を運ぶ際の意識が変わりそうです」との感想が寄せられた。

6. BMサミットで得たもの

BMサミットを開催することにより、今後の本市自動車図書館のあり方について、多くのヒントを得ることができた。

車両製作にあたっては、本を運んで貸出する機能に加えて、車の周りに人が集い、本を手に取りたくなる仕掛けが重要であると分かった。「ブック・モービル・スタディーズ」と題して本と人が交わる場の研究成果をBMサミットで展示した名城大学建築学科谷田真研究室の協力を得て、人が

本とともに居心地よく過ごせる機能を備えた車両の製作に取り組むこととなった。

活動内容については、障害者・未就学児・観光客などさまざまな層に対して移動図書館が働きかける余地があると気づくことができた。貸出そのものを目的とするのではなく、本を届けることで何を届けたいのかを明確にすることが、これからの活動の鍵になると認識を新たにした。

7. おわりに

市内に図書館が2館しかない時代に始まった本市自動車図書館であるが、現在は21館を擁し、郵送貸出や電子書籍、デジタルアーカイブなど、本や情報を入手するための新たなサービスを提供している。その一方で情報化社会の進展や娯楽の多様化など、読書の楽しさ大切さを広く伝えていかなければならない側面も生まれている。今、本を必要としている人たちはどこにいるのか、どんな形で本を手渡すのか。オフィス街、小規模施設、地域コミュニティの拠点など、これまで行くことができなかった場所がたくさんある。車両を小型化するメリットを活かして、名古屋市ならではのサービスを試行錯誤しながら形作っていきたい。

参考

名古屋市図書館ホームページ：名古屋市図書館100周年記念事業「Book Mobile（ブックモービル）サミット」を行いました！
https://www.library.city.nagoya.jp/oshirase/topics_gyouji/entries/20231112_04.html



(おおい あき：名古屋市鶴舞中央図書館)
 [NDC10：015.5 BSH：自動車文庫]



霞が関だより

▶第245回

●文部科学省

2024年度の図書館職員に関する研修について

文部科学省では、図書館職員の力量の一層の向上を図ることを目的として、図書館に勤務する司書を対象とした研修、経験年数に応じた必要な知識・技術に関する研修、及び新任の図書館長を対象とした図書館の管理・運営等の研修を例年実施しています。

今年度については、以下のとおりの内容・日程で研修を実施する予定です。

1. 新任図書館長研修

(1) 対象

- ①主として公共図書館の館長・副館長に就任して1年未満の者
- ②上記①と同等の職務を行うと主催者が認めた者

(2) 研修の趣旨

新任の図書館長等に対し、図書館の管理・運営、サービスに関する専門知識や、図書館を取り巻く社会の動向などについて研修を行い、図書館運営の責任者としての力量を高める。

(3) 実施方法

次のいずれかの方法で実施予定

- ①対面形式及びオンライン形式の併用実施
- ②オンライン形式による実施（対面形式による実施は行わない）

(4) 定員

200名

(5) 日程

7月～10月のうちの3～4日間

※昨年度実績（令和5年9月20日～9月22日：オンライン形式）

2. 図書館司書専門講座

(1) 対象

- ①図書館法第2条に規定する図書館に勤務する司書で、勤務経験が概ね7年以上で指導的立場にある者
- ②上記①と同等の職務を行うと主催者が認めた者

(2) 研修の趣旨

司書として必要な高度かつ専門的な知識・技術に関する研修を行い、都道府県・指定都市等での指導的立場になりうる司書としての力量を高める。

(3) 実施方法

オンライン及び対面を組み合わせた形式

対面形式の会場：国立教育政策研究所社会教育実践研究センター

(4) 定員

60名

(5) 開催時期及び期間

6月6日(木)～19日(水)（平日10日間）

うち、6月6日(木)～6月14日(金)の7日間はオンライン形式

6月17日(月)～6月19日(水)の3日間は対面形式

3. 図書館地区別研修

(1) 対象

- ①図書館法第2条に規定する図書館に勤務する司書で、勤務経験が概ね3年以上の者若しくは研修テーマに関連する業務に従事している者
- ②上記①と同等の職務を行うと研修を実施する教育委員会が認めた者

(2) 研修の趣旨

情報化の進展など図書館に関する最新のテーマや地域における課題等について研修を行い、図書館における中堅の司書としての力量を高める。

(3) 会場（オンライン形式による実施の可能性もあり）

全国6地区において実施予定

- ①北海道・東北 ②関東甲信越静岡 ③東海・北陸
- ④近畿 ⑤中国・四国 ⑥九州・沖縄

(4) 開催時期（昨年度実績による予定）

10月～2月のうち3～4日間

[NDC10:010.7 BSH:研修(図書館員)]

れふあれんす

三題噺

連載その三百十

宇都宮市立南図書館の巻

宇都宮市立南図書館のレファレンス

◆
齋藤なぎさ

宇都宮市は栃木県の中央部に位置する人口約51万人の中核市です。「宇都宮」の地名は、鎌倉幕府の中枢で政治に関わっていた藤原宗円が、初代当主として二荒山神社の社号「宇都宮」を氏としたことに由来すると言われていいます。2023年8月には既存路線の延伸や改良を伴わない全く新しい路線としてライトライン（LRT）が建設されたことでも全国的に話題になりました。

宇都宮市立南図書館は本市に五つある図書館のうち最も新しく、2011年7月に開館しました。南図書館は子育てや家庭生活支援に重点を置いた資料の収集・提供を行っています。学校支援サービスの拠点でもあり、市内小中学校図書室への支援の役割を担っています。また、ホールや会議室、ギャラリーをもつ複合施設であり、地域の方が交流する場としての機能も持っています。

ここでは、私が昨年4月にこの図書館に異動してきてから相談業務を行う中で印象に残っている三つの事例をご紹介します。

その1

酒中花（しゅちゅうか）の作り方を知りたい。

質問者からは「植物の芯で鳥や花を作り杯に入れると開いて浮かんでくる江戸時代の酒席の遊びで、杯中花とも言われる」という情報を得ました。

『世界大百科事典』（平凡社 2009）の見出しに酒中花はありませんが「水中花」の項目に「江戸時代に中国から渡来したものらしい」「〈酒中花〉あるいは〈杯中花〉ともよばれた」との記述があり、質問者の情報と一致しました。

江戸時代の遊びなので『江戸時代生活文化事典』（長友千代治 勉誠出版 2018）を探すと「酒中花」の見出しがあり、「～前略～樽（たら）の木を十二寸に切り、その内を（芯）の太さの棒で突き出し、これを色々の形に拵えて彩り、板に挟んで乾かし上げ、細かに切り、酒興に酒に浮かべると形を現わす。また山吹のでもよい。」と記載がありました。

遊びに使う→おもちゃという連想から探した『日本人形玩具大辞典』（日本人形玩具学会 東京堂出版 2019）には「酒中花→水中花」の見出しがあり、「本来の名は酒中花。～中略～山吹の茎などに彩色して酒杯に入れ、美しい花鳥などの姿となって泡とともに浮かび上がるのを楽しんだ。～後略～」とあります。

もっと具体的に詳細な作り方の記述がないか、江戸時代に近い資料を探そうと「国立国会図書館デジタルコレクション」で自館で閲覧できるものに絞って検索したところ①『少年実験工芸百種』（石井研堂 博文館 1913）がありました。見出しは「水中花の製造方法」で木地の製法として10行ほどの説明文と、もちしがらを使った魚の形の図が掲載されています。②『歳時記脚註』（真下



喜太郎 六興商会出版 1942)と③『古事類苑 遊戯部 7』(新宮司庁古事類苑出版事務局 神宮司庁 1896-1914)には酒中花が文章で紹介されていました。③は『古事類苑 遊戯部 (普及版)』(吉川弘文館 1983)が市内の図書館に所蔵されています。

また「水中花」で検索すると④『家庭で出来る斬新の教育玩具製法』(大日本教育会 1917)に「蜀黍殻で造る水中花の作り方」があり花の形にくりぬく図が掲載されています。⑤『たれにもできる最新玩具製造法』(佐瀬文哉 目黒分店 1917)には蜀黍の幹を輪切りにした魚の形の作り方が掲載されています。

なお②『歳時記脚注』の文中には出典として『廣益秘事大全』の記載があり、自館所蔵の『民家日用廣益秘事大全 江戸庶民の生活便利帳』(三松館主人ほか 幻冬舎ルネッサンス 2013) p.20に「酒中花を作る」という見出しがあったため、こちらも提供することができました。

この図書は、江戸時代の風俗についてコンパクトにまとめた用語集となっており、わかりやすい内容です。事項索引がないのが残念ですが、巻末の総目録には分野ごとに項目の一覧として整理されているので、参考図書としても活用できるのではないのでしょうか。

その2

配給された玄米を一升瓶に入れ棒でつつく様子をドラマで見た。この精米方法は戦時下など非常時に行う方法か。

テレビドラマの戦争中を描いたシーンなどで見受けられるので太平洋戦争のころの暮らしが載っている図書から探しました。『戦時下の暮らし (別冊太陽)』(小泉和子 平凡社 2020)の「戦時下の暮らしの用語集」に「瓶つき精米 (簡易精米器)」として記載されていました。「三合の米を七分づきにするのに、はたきの柄などの棒を使って2時間ほどかかった」と記述がありました。

また、Google 検索で「玄米 一升瓶」と入力するとKubotaのホームページに「一升瓶でお米がつける」の項目があり「弥生時代と同じ方法と言えます」と記述がありました。弥生時代に一升瓶はありませんが、戦時下に限らず昔から行われていたやり方とは言えるかもしれません。

質問者は、自分でも一升瓶で実際に試してみたが、うまくできあがらないのでやり方について疑問に思ったそうです。文献ではここまでしか調べられませんでした。

インターネットの「やってみた」動画でも数件のやり方を見ることができることを紹介し回答としました。

その3

北前船の航路やその寄港地を知りたい。

「北前船」で所蔵検索したところ、北前船だけの図書は自館未所蔵でしたが、市内の図書館にある『北前船寄港地ガイド』(加藤貞仁 無明舎出版 2018)を予約依頼しました。

自館所蔵の資料では『日本史大事典』(平凡社 2004)により、江戸時代から明治初期の海運に使われた船であることがわかったため『ビジュアル・ワイド 江戸時代館』(竹内誠ほか 小学館 2013)の索引より、海運と河川交通という項目に北前船の航路図と解説がありました。瀬戸内地域では北陸などの北国の廻船の呼び名でしたが「近世後期より～中略～上方と蝦夷地を結ぶ買積船を北前船と呼ぶ」と記述がありました。

また『港の日本史』(吉田秀樹、歴史とみなと研究会 祥伝社 2018)にも東廻、西廻航路の略図があり「大阪や瀬戸内以北前船と呼ばれた」とあります。

ここまで調べを進めていく間に、質問者は北前船を北陸の港に立ち寄る船だと理解しており、本当の興味は漁港名物の海の幸だとわかったため、最後は北陸地方のガイドブックをご紹介して終了しました。

なお、レファレンス協同データベースでは、数件の図書館がおのおのの寄港地のレファレンス事例を掲載していましたが北前船全般についての事例は見当たりませんでした。

レファレンスサービスは、参考図書の知識や情報探索についてのスキルも重要ですが、質問者とのコミュニケーションを上手にとることが一番のカギではないかと感じています。相手が本音を聞きやすい雰囲気や質問の意図を先入観なくじっくり聞く態度で応対することは案外難しいものです。私にとっては何年経験を積んでもなかなか自然に身につくものではなく、十分な回答を提供できず、悔しい思いをしたことがありました。

このことを肝に銘じ、これからも一つ一つの質問と一人一人の利用者に真摯に向き合ってレファレンスを行い、一層のサービス向上を目指していきたいと思います。

(さいとう なぎさ: 宇都宮市立南図書館)
[NDC10:015.2 BSH:レファレンス ワーク]



お宝紹介!

第238回

渋谷区立中央図書館

和田誠記念文庫

田中雅光

1 渋谷区立中央図書館について

東京都渋谷区にある渋谷区立中央図書館は、最寄駅がJR原宿駅または東京メトロ明治神宮前（原宿）駅になります。一年を通してにぎわっている竹下通りから、路地に入って東郷神社の敷地を通り、図書館の近くまで来ると、それまでの喧騒が嘘のような静寂が訪れます。

1階には児童コーナーがあり、絵本や児童書、「しぶやおすすめの本50」（渋谷区が子ども読書推進に向けて選書）、バリアフリー図書等を展示した「りんごの棚」を設置しています。

2階には、雑誌・新聞、CD、レファレンスコーナーなどがあります。

3階には一般書架に加え、原宿という土地柄、ファッションコーナーを設置し、服飾史などの資料やファッション雑誌のバックナンバーなどを所蔵、地域資料コーナーにはハチ公や同潤会アパートなど、渋谷区の地域に関する資料を配架しています。

4階には、一般書架と外国語図書コーナー、和田誠記念文庫があります。

2 和田誠さんについて

和田誠さんのことを知らないという人も、作品には必ずどこかで出会っているはずです。

たばこの「ハイライト」は和田さんがデザインしたものです。雑誌『週刊文春』の表紙は、40年にわたってデザインを担当し、現在も毎週リバイバルで掲載されています。

星新一さんや阿川佐和子さん著書の本の装丁、絵本は自著『ことばのこばこ』があり、谷川俊太郎さんとの『これはのみのびこ』『ともだち』があります。また『麻雀放浪記』や『快盗ルビイ』で

は映画監督をするなど、イラストレーター・グラフィックデザイナー、という肩書だけでは収まらない、幅広い分野で活躍された方です。

3 和田誠記念文庫ができた経緯

2021年12月に開設しました。和田誠さんが2019年10月にご逝去された後、渋谷区にお住まいで事務所も渋谷区内にあったご縁で、渋谷区立中央図書館に寄贈のお話をいただきました。

文庫には、自著約400冊、装丁を手掛けた本約2,100冊、資料として使っていた本やコレクションなど約1,200冊の合わせて約3,700冊を展示しています。また、事務所内で使用していたテーブルや椅子、本棚も寄贈いただき、これらを移設して和田さんの仕事場の一部を再現しています（写真1）。



▲写真1 文庫全景

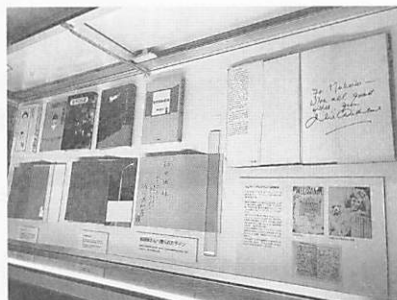
4 和田誠記念文庫について

文庫入口の左側には、自著や装丁本が面出して並んでいます（写真2）。入口の右側には記念文庫のロゴ入りパネル、ご本人の写真、その下の展示ケースには著名人の方々から和田さんに贈られたサイン本を展示しています（現在は黒柳徹子さん、阿川佐和子さん、ジュリー・アンドリュースさん、展示

替えあり、写真3)。



▲写真2 文庫入口

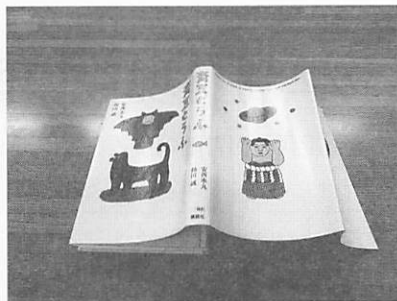


▲写真3 展示ケース

文庫の中は、三方に書棚を配置し一面にはポスターを展示しています。中央には事務所から移設したテーブルと椅子を配置し、文庫内の資料を座って閲覧することができます(文庫内資料は閲覧のみ)。窓際の書棚の上には、イラストレーションがデザインされたグッズ、映画好きで知られる和田さんが使用していた映写機を展示しています。

また、多くの本の装丁を手掛けていますが、表紙の絵と本のカバーの絵が異なるものも多くあります。図書館の本を装備する場合は、ビニールカバーを掛けるのですが、普通に掛けてしまうと本の表紙の絵が隠れて見えなくなってしまうので、片側からめくって中の表紙の絵も見えていただけるように装備を工夫しています(写真4・写真5)。

また、図書館の本の登録の際に貼付するバーコードは、表紙に貼ると絵を隠してしまうこともあるので、裏表紙の内側に貼るようにしました。和田さんは自著のカバーには書籍に印字されるバーコードがデザイン的に美しくない、帯やシールにバーコードを入れていました。当館でもその意思を引き継いで、カバーに貼らないようにし、配架場所を示す分類ラベルも使用せずに、目立たないよう透明なテプラを使用し分類しています。



▲写真4 装備1



▲写真5 装備2

このように、展示にあたっては作品を存分に鑑賞できるよう工夫しています。

5 おわりに

常設でこのような文庫が設置できたことが、ウチの図書館のお宝だと思っています。

ぜひ和田誠さんの世界を体験しに、ご来館ください。

■渋谷区立中央図書館

所在地：東京都渋谷区神宮前1-4-1

☎03-3403-2591 FAX.03-3403-2270

開館時間：火～土曜日 午前9時～午後9時

日・月・祝休日 午前9時～午後6時

休館日：毎月第1月曜日、第3木曜日、特別整理期間、年末年始

HP：<https://www.lib.city.shibuya.tokyo.jp>



◀渋谷区立図書館

(たなか まさみつ：渋谷区立中央図書館)

[NDC10:090 BSH:1.図書館資料 2.渋谷区立中央図書館]

季刊『現代の図書館』刊行のご案内

*現代の図書館編集委員会編 B5判・平均56ページ・定価：1,430円（税込）

第61巻（2023）

◆No.1 2023.3 特集：関東大震災100年－地震と図書館

- 帝国図書館と関東大震災……………長尾宗典
関東大震災と東京帝国大学附属図書館－不要論から見る附属図書館の大学内における位置付け
……………河村俊太郎
関東大震災による横浜市内の図書館の被災と復興－公共図書館を中心として……………新藤 透
2月6日のトルコ・シリア大震災－図書館への影響と復興プロセスにおける図書館の役割
……………エルトゥール・シメン，訳：須永和之
投稿
京都集書院150年－別の見かたで……………堀奈津子
我が国の公共図書館における障害者への健康医療情報提供サービスの展望
……………三輪眞木子，田村俊作，野口武悟，八巻知香子

◆No.2 2023.6 特集：著作権の現在

- 公共図書館における著作権法改正への対応について－福島県における事例を参考に……………二瓶 優
学校図書館における著作権……………有山裕美子
SARTRAS設立の背景と授業目的公衆送信補償金制度の現状，今後の課題……………池村 聡
図書館によるデジタル貸出に関するEU・米国の裁判例－VOB事件CJEU判決およびIA事件S.D.N.Y.
判決の紹介……………鈴木康平
AIと著作権－AI生成表現の著作物性……………奥邨弘司
IFLA図書館情報学（LIS）専門職教育プログラムのためのガイドライン
クララ M. チュー，ジャヤ・ラジュ，クリス・カニンガム，ジ・ジュミン，ヴァージニア・オルティ
ス・レピソ・ヒメネス，アイダ・スラビック，アナ・マリア・タラベラ＝イバラ，ソハイミ・ザ
カリア，訳：日本図書館協会国際交流事業委員会

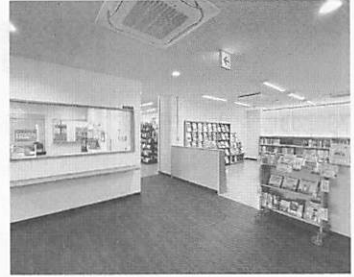
◆No.3 2023.9 特集：読書論を読む

- 小説を読むヒント……………廣野由美子
ネガティブ・リテラシーの効用……………佐藤卓己
「働いていると本が読めない」社会を変えるために－映画『花束みたいな恋をした』から読み解く現代
の労働と読書……………三宅香帆
子どもと子どもの読書の今とこれからを考える……………汐崎順子
読書の世界におけるウォーキングとスポーツカー……………郝 明義，訳：須永和之
図書館における指定管理者制度の導入等の調査について2022（報告）
……………日本図書館協会図書館政策企画委員会

小規模 図書館 奮戦記

その310 一関工業高等専門学校図書館

研究・教育の場としての 図書館



本明 昇

一関工業高等専門学校図書館は、自然科学や工学・技術分野、情報科学分野の専門書を中心とした蔵書構成となっており、新書や文庫、その他一般書を含めて約6万7000冊の図書を所蔵しています。そのうち約3万3000冊が開架書架上に配架され、常時閲覧が可能です。資格試験の参考書や問題集、英語多読本など、学習やスキルアップに活用できる図書も取り揃えており、研究・教育の場としても幅広く活用されています。

現在図書館がある建物は、創造的学習の場となるように、2020（令和2）年度に改修が行われ、新たに学びと交流のエリアが設けられました。2階にあった図書館は1階にある正面玄関から入ってすぐの場所に移動し、「メディアセンター」のエンタランスエリアとして新たにスタートしました。しかし程なくしてコロナ禍に見舞われ、改修工事の始まった2019（令和元）年度から4年間、通常の開館やイベントができない状態が続きました。そして2023（令和5）年度、新型コロナウイルス感染症が5類感染症に移行されたのを機に、休業期間中の開館や学外の方の利用、ブックハンティングイベントを再開することとなりました。

図書館業務を行うなかで、ニーズに合わせた選書の難しさを感じています。専門書については先生方からの推薦もいただきますが、一般の図書については、書店の店頭、ネット

や雑誌の情報、他の図書館の蔵書状況などから情報を得て選書しています。しかしそれが多く読まれるかといえそうとも限りません。図書の購入予算は年々減りつつあり、購入できる冊数が減るなかで、さまざまなジャンルからどれだけニーズに合った選書ができるかが課題です。

本校図書館では、学生からリクエストを受け付けており、また、貸出ランキングとして貸出上位のタイトルを調べています。これらの直近のデータから学生のニーズを探ってみると、自然科学や工学、情報科学といった専門書のほか専門科目の演習テキスト、TOEICをはじめとした資格試験の問題集が多いことがわかりました。自身の学習や研究のため、そして大学編入や就職など将来を意識したスキルアップのための本がニーズとして多いため、それらに関する本は優先的に選書しています。

また本校では、2022（令和4）年度から英語の授業で図書館を活用した英語多読指導を実施しています。図書館には英語多読用の図書として約870冊が並べられており、2022年度は1、2年生の授業で多読指導が行われました。学生がレベルに応じて好きな図書を選んで読み、クラス全員の前で自分の選んだ本について簡単な発表を行うといったものです。2023年度は、図書館の英語多読本も利用しつつ、2年生はPearson社のe-booksの試用版を用いた英語多読を

行っていました。2024（令和6）年度には、2年生の授業でPearson社のe-books（学生一人当たり2,000円負担）を本格導入し、同社が提供する電子教材を利用した多読学習に取り組むことを予定しています。

このように授業で図書館を活用する機会があると、ニーズがわかりやすいため、図書館として学習のサポートができていると感じています。また、高学年になるにつれ卒業研究や将来に向けて図書館を利用することが増え、そのときに初めて本を借りる学生も少なくないようです。入学後すぐに図書館ガイダンスを行うため、いざ本を借りるときに利用方法を忘れていたこともあります。そのため、低学年のうちに授業等で図書館を活用してもらうことは、早いうちから図書館を利用するきっかけにもなると考えます。

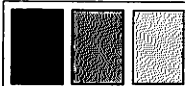
専門書が多く借りたい本が少ないかもしれませんが、せっかく身近にあるので、多くの学生にたくさん利用してもらいたいと願っています。そのために、研究・教育にかかる専門書や一般書を揃えるだけでなく、資格試験の参考書や問題集、英語多読本など、学生のニーズや学習・スキルアップに活用できる図書も取り揃えることで、研究・教育の場として幅広く活用される図書館となるよう、これからも心がけていきます。

（ほんみょう のぼる）

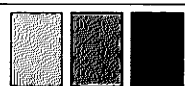
一関工業高等専門学校図書館

[NDC10：0178]

BSh：一関工業高等専門学校図書館]



図書館員のおすすめ本⑧



70歳のウィキペディアン 図書館の魅力を語る

門倉百合子著 郵研社 2023 ¥1,800 (税別)

2001年にアメリカで始まったインターネット上の百科事典「ウィキペディア」は、今や多くの人々が日常的かつ無意識に目にしているだろう。その記事を書いて編集する人が「ウィキペディアン」である。一般には耳慣れない言葉だろうか。

著者は専門分野の資料を扱う仕事に長年従事してきた司書だ。本書では、著者の経験を基に、ウィキペディアの記事がどう書かれているか、その仕組みの一端が簡潔にまとめられている。

第1章では、著者と百科事典や集合知との関わりや、著者が2016年からウィキペディアンとなった経緯が書き記されている。第2章は、著者が渋沢栄一記念財団で携わった仕事について、また第3章は、著者自身が利用者として図書館を最大限に活用してウィキペディアの記事を執筆していく様子が、具体的に紹介されていて読みやすい。

本書の特色として、目次や凡例に加えて、「内容に充分アクセスできるように」(p.4)、人名・団体名・事項など複数の索引が掲載されている点を挙げたい。「ネットでググる」だけで済ますことも増えている時代に、索引の重要性を説く人は、ふだん情報を扱っている図書館関係者の中でさえ減少しているのが実情ではないか。

時代が進んでも図書館情報学の基本に忠実に、かつ「司書として、確かな情報を利用者に伝えるのが大事と思って仕事をして」きた (p.3) という著者の「真のライブラリアン」たる姿勢に、同じく司書として図書館で働く自身を振り返り、憧れと共に自然と背筋の伸びる読後感があった。

「知識と経験が豊富でしかも時間のある高齢者」(p.4)、そして未来の高齢者たる若者こそ、男女問わずウィキペディアンを目指してほしいと語る著者自身が、技術の進歩にも好奇心をもち積極的に取り入れ柔軟に対応し今なお挑戦し続けている。まさに人生100年時代を生きる道標となる1冊として、司書以外の多くの人にもすすめたい。

(小廣早苗：佐倉市立佐倉図書館)

地域の課題を解決するクリエイティブディレクション術

田中淳一著 宣伝会議 2021 ¥1,800 (税別)

「図書館司書は専門職」とはよく言われるところである。しかし一方で、専門職であるにもかかわらず「AIに職を奪われる」という言説もみられる。いったい我々図書館司書は、自らの専門性をどのように培い、評価し、表現すればよいのか。

本書で説かれる「クリエイティブディレクション術」とは「俯瞰から課題を見つめ、時代や生活者との向き合い方を見定め、戦略を練り、効果的なアイデアを導き、そのときどきで適切なクリエイティブ技術を駆使し、ソフト面から課題を解決していく統合的な職能」(p.19)である。実は図書館のデザインにおいてもこの力は重要で、クリエイティブディレクション術こそ、これからの司書達が身につけるべき専門性であると考えている。

著者の田中淳一氏は、全国各地で地域の課題を解決してきた。本書では事例として、鳥取市の「すごい！鳥取市」や登米市の「登米無双」、空港などで見かける宮崎牛のプロモーションなど16ケースもの豊富な事例が「着想」「企画」「定着」「拡散」のフェーズごとに紹介されている。

本書を読み実感するのは、クリエイティブの本質とは俗に考えられるところの「アイデア勝負」ではないということである。ていねいな着想に基づくクリエイティブディレクションは、実は職能として鍛錬することができるものなのである。

昨今の図書館界で重要視されているのが「課題解決型図書館」だが、司書はそのデザインに苦勞することが多い。実はそんなとき、クリエイティブディレクション術という専門性を身に着けることが司書を、ひいては業界を救うのではないか。

公共図書館であれ他の業態であれ「場」として存在する図書館の課題解決策は、地域の課題を解決するクリエイティブディレクション術と類比関係にある。図書館司書がその力を身に着けることは、業界・司書の価値向上に直結するだろう。

(小宮山 剛：宮崎県椎葉村図書館)

図書館員のおすすめ本⑧

寿町のひとびと

山田清機著 朝日新聞出版（朝日文庫） 2024 ¥1,050（税別）

寿町は神奈川県横浜市，元町・山手の西洋館や中華街など横浜屈指の観光地のアクセス駅となるJR石川町駅から程近い場所にある。東京の山谷、大阪の西成とならび日本三大寄場・ドヤ街のひとつと呼ばれている。本書はその寿町のドヤ（簡易宿泊所）に住む人から始まり、「帳場さん」と呼ばれるドヤの管理人，行政の職員，警察官，学童保育の指導員，牧師といった周辺の人々への6年間にわたる取材によって編まれ，文庫化にあたりエピソードが追加された。

ドヤ街に具体的なイメージがなくても，読み進めていくうちに歴史や背景が理解できる構成になっている。関東大震災の後に寿町に開業した酒店の店主の話から町のあらましがわかる。当時は船具を扱う商店等があり港の下町だった。第二次世界大戦で横浜大空襲を受け，戦後約10年にわたって進駐軍に接収されると元の場所に戻ってくる者は少なかった。職安が寿町にできると一斉に簡易宿泊所が作られ日雇い労働者が集まり町は活気にあふれたが，第一次オイルショックで不況になるとドヤに泊まれず食事もできない労働者が路上にあふれていき，炊き出し等を行う組織が作られていった。その時のメンバーにも話を聞いていく。そして現在では高齢化した住人のためのデイケアセンターなどが増え，福祉の町となってきた。

寿町の住人を支援する人は「マスコミは，野宿者にステレオタイプ（紋切型）のドラマを求める」（p.335）と指摘し，また別の人も「この街で仕事をしていると，自分が何か良いことをしているような錯覚に陥ってしまう」（p.352）と自戒をこめて活動していると語る。寿町に限らず，往々にしてこの構図は見かける。支援をする人と受ける人を「こちら側」と「あちら側」に分けて語られることも多いが，私たちの生きている社会は地続きともいえるのではないだろうか。

（中村知美：栄光学園中学高等学校図書館）

何が問題？格差のはなし 「おいてけぼりの誰か」をつくらない世界のために

山田昌弘監修 Gakken 2023 ¥4,600（税別）

昨今あちこちで“格差”という言葉聞く。本校中学3年生の公民科の探究でも切り口は違えど“格差”の問題に取り組むグループがいくつもあった。そこで，根本的に格差とは何かを押さえておく必要があろうと購入したのが本書である。

対象は中学生だが，適宜フリガナがふつてあるので小学校高学年でも読めるし，グラフや図が多用されていて見やすい。内容は高校生にも十分読み応えのあるものとなっている。

第1章で「格差ってなんだろう？」「なぜ格差が生まれるの？」「格差があるのはしかたがない？」「格差が広がると何が起きる？」と，格差の基本的なことを押さえ，第2章以降で，経済格差，教育格差，男女格差など世界と日本で問題となっている15のテーマについてさまざまな角度から解説されている。もちろん，非正規雇用の問題も載っている。コラムでも，世代間格差，障害者の経済格差，結婚の格差などが取り上げられている。最後の章では格差解消のために進められている取り組みについても詳しく解説されている。

「おわりに」に「格差をなくすために，社会のしくみを個人の力で変えることは簡単ではありません。（中略）『心の格差』をなくすことは今すぐにもできます。自分とは違う環境にいる人の状況を理解したり，気持ちを思いやったりすることで。／私たちがこの本にこめた願いは，みなさんが自分の身の回りだけではなく外の世界に目を向け，『世界にはさまざまな人がいて，置かれた立場もまた多様である』という事実を知ってもらいたいということです」とある。「はじめに」にも「格差は見えにくいものなのです」とあるが，特に私学の中高ではなかなか格差に気付くことは難しい。まさに，日常生活での視野が狭くなりがちな彼らに知ってほしい内容である。

（狩野ゆき：灘中学校・灘高等学校）

[NDC10：019.9 BSH：書評]



図書館雑誌では、「北から南から」欄への会員のみなさまからの投稿をお待ちしています。館界や本誌へのご意見、個人やグループなどの活動報告、研究成果、また、日常業務の中で工夫していることなどを、下記の要領でお寄せください。

★字数：1200～3800字程度（図版・写真を含む）

★送り先：〒104-0033 東京都中央区新川1-11-14

日本図書館協会 図書館雑誌編集委員会「北から南から」係
(FAX (03)3523-0841でも受け付けいたします)

りんごの棚から始まる 読書に困難のある人々へのサービス

—学校図書館の先進事例を交えて—

佐伯美華

1. りんごの棚とその目的

「りんごの棚」は、英国の取り組みに学びを得たスウェーデンの図書館員により1993年に始められたもので、現在は広くスウェーデンの図書館に普及しています。本来は読書に困難のある子どものための資料やおもちゃを置いておくものでした。

日本で図書館に「りんごの棚」を設置する目的は、デイジー・大活字本・布の絵本等のさまざまな形の資料があることを広く市民に提示し、それらを体験してもらうことで、自分に合った本を見つけてもらうことにあります。

障害者サービスが思うように普及しないのは、読書に障害のある利用者やその関係者、図書館職員、つまり市民が、多様な障害者サービス用の資料が存在することを知らないか

らです。また、郵送貸出や職員による宅配サービス、施設へのサービスなど、多彩なサービスがあることも知りません。利用者が資料やサービスを知らない状況では、ニーズも生まれません。

「りんごの棚」は、市民にいろいろな形の資料を見てもらい、知ってもらい、自分に合うものを利用してもらうための最初の一步です。例えば、その人自身には障害がなくても、その人の家族や友人に読書の障害があるかもしれません。またその人が高齢や読書に困難のある状態になったときにも、その存在を知っていれば、必要なときに利用することができるでしょう。

また、学校図書館に「りんごの棚」を設置することも重要です。発達障害などを理由に読書が困難であるこ

とは、主に小学校低学年で発見されます。そのとき、学校図書館に「りんごの棚」があれば、それまで紙による読書・学習が苦手・嫌いだった児童が、自ら読書・学習できるようになるかもしれません。その最初の発見の場として学校図書館の役割があります。

2. りんごの棚の作り方

(1) りんごの棚の設置方法

「りんごの棚」には、障害者などが利用できるさまざまな形式の資料を展示し、誰もが手に取って体験できるようにすることが求められます。その他、障害に関連する資料、音声デイジー等の再生機やタブレットの設置、リーディングトラッカー等の読書支援用具の設置など、自由に組み合わせることができます。

これらの資料は、書架に配架するだけでなく、ブックトラックに配置して移動可能にもできます。いずれの場合でも、「りんごの棚」のロゴマーク（りんごプロジェクトホームページから入手可能）を目立つところに着けると良いでしょう。ただ、「りんごの棚」という名称は必ずしも必要ありません。また、「りんごの棚」では、単に同種の資料を並べるのではなく、多様な形式の資料を置くこと

が重要です。もちろん、広いスペースが確保できれば、大活字本や布の絵本を多数置くことも可能です。資料は長期間同じものを展示せず、定期的にリフレッシュすることも大切です。

重要なのは、公共図書館では閲覧室やロビーなど目立つところに設置し、誰もが手軽にアクセスできる場所にすることです。また、関心を持った資料を見つけても、窓口貸出だけでは利用者は限られます。そのため、郵送や宅配など、複数のサービスを実施していることを案内すると良いでしょう。

(2) 配架する資料

①一般に市販されているもの（誰でも利用できる資料）

- ・大活字本（さまざまな文字サイズのもの）
- ・漫画
- ・写真集
- ・オーディオブック

②障害者を意識して市販されているもの（誰でも利用できる資料）

- ・点字付き絵本
- ・ユニバーサル絵本
- ・布の絵本（注意：一部障害者しか利用できないものがある）
- ・LLブック
- ・ユニバーサル映像資料

③著作権法第37条第3項で製作されたもの（視覚障害者等の利用限定。そのことを示したうえでデージーなどは現物を展示してもよい）

- ・点字
- ・点字付き絵本
- ・音声デージー
- ・マルチメディアデージー
- ・拡大写本
- ・布の絵本
- ・触る絵本、など

なおこのような資料では、読書に困難があるかどうか明確でなく、自分に合う資料を見つめるために、資料の一部分を体験・再生してみる等の行為は許される範囲内と考えています。

以上が「りんごの棚」の作り方や具体的な配架する資料の例です。これらの取り組みが、障害を持つ方や困難を抱える読者に対して、より包括的なサービスを提供する手助けとなることを期待します。

3. 公共図書館における取り組み事例

日本で「りんごの棚」が初めて設置されたのは、埼玉県のある町立図書館です。りんごプロジェクトの働きかけで「りんごの棚」が設置された事例は、2021年の渋谷区立中央図書館が最初です。2022年10月には渋谷区立図書館全館に「りんごの棚」が設置されました。

また全国の図書館から「りんごの棚」のロゴマークの使用や設置についての相談も相次いでおりメールや電話で対応しています。ロゴマークの使用についてはスウェーデンの担当者から承諾を得ており、非営利活動で教育目的・改變しないという基本ルールを守ればだれでも自由に使用することができます。当ホームページからダウンロードできますので、日本中の公共図書館および学校図書館で広く利用されることを望んでいます。

●りんごプロジェクトのホームページ

<https://www.peopledesign.or.jp/action/ringoproject/>

4. 学校図書館における取り組み事例

子どもたちにバリアフリー図書を知ってもらい、多様な読書スタイルを身近にしようとする試みは、学校図書館において特に有益です。その中で、学校図書館に導入しやすい形式として「りんごの棚」の設置が目まぐるしく行われています。

横浜市では、2013年から市立小中学校および特別支援学校への学校司書配置が始まり、2016年には全校配置が完了しました。ここでは市内の小中学校で行われた学校司書や学校・地域コーディネーター（地域学校協働活動推進員、以下コーディネーター）による取り組みを四つご紹介します。

■「シトリンプロジェクト」による「りんごの棚」の導入＜横浜市立本牧南小学校＞

本牧南小学校は、2023年度に読書推進活動の実践が評価されて文部科学大臣賞を受賞しました。この受賞を機に学校司書は子どもたちが「本を通じて地域の人に何ができるのか」を考えるプロジェクトを展開しました。既に存在していた「シトリンプロジェクト」と「りんごプロジェクト」を融合させた「シトリンプロジェクト」は、本を通じた学校・家庭・地域のつながりを目指しています。

3・4年生を対象にしたりんごプ



▲横浜市立本牧南小学校の「りんごの棚」

プロジェクトの体験会を行った後、学校司書が全校に向けてバリアフリー図書に関する啓発を行い、子どもたちによる「りんごの棚」を設置しました。秋の読書週間では、地区のイベントと連携したフェスティバルを開催し、子どもたちが保護者や地域住民に「りんごの棚」を紹介しました。

■学校司書とコーディネーターの連携で「りんごの棚」の実現く横浜市立大道小学校>

大道小学校では特別支援学級の保護者がLLブックなどのバリアフリー図書の存在を知り、学校に導入を提案していましたが、必要性や予算の問題から見送られていました。そんなとき、同小のコーディネーターがりんごプロジェクトの体験会とセミナーに参加し、新しく着任した学校司書と導入を検討しました。学校司書が積極的にバリアフリー図書の必要性を考えていたため「りんごの棚」設置に向けて一気に動き出しました。学校司書が手作りしたフェルト絵本もブックトラックに並び、子どもたちに人気を博しました。最初は点字付き絵本の点字をはがしてしまう児童もいましたが、学校司書は「点字の点がなくなると読めなくなるということを知ってもらうためには、実際にふれることが大事。本を修理しながらも点字付き絵本を置き続けています。」と述べました。身近な学校図書館に「りんごの棚」を設ける必要性が示されています。

■「福祉」をテーマにした総合的な学習から「りんごの棚」を設置く横浜市立和泉小学校>

和泉小学校では、4年生が「総合的な学習」の一環で、障害の有無に関わらず他者理解の重要性として福

祉の学習を行いました。視覚障害に焦点を当てたチームがりんごプロジェクトの体験会を希望し、その中でバリアフリー図書の紹介だけでなく「視覚障害の理解」も掘り下げられました。この体験をきっかけに、視覚障害チームの子どもたちを中心に、学校図書館に子どもたちのアイディアが詰まった「りんごの棚」が誕生しました。

■社会科の授業から「りんごの棚」設置へく横浜市立幸ヶ谷小学校>

幸ヶ谷小学校は、執筆者が関与した学校です。6年生の社会科「政治」の授業で、「法律は町や人々のくらしをどうかえるか」を学ぶ中で、読書バリアフリー法に触れ、りんごプロジェクトについて話す機会を得ました。子どもたちは政治への関与や身近でできることを考え、学校司書や担任のサポートを受けながら、自ら「りんごの棚」を設置しました。



▲横浜市立幸ヶ谷小学校の「りんごの棚」

これらの学校の取り組みは、2023年10月に開催された図書館総合展の埼玉福祉会・りんごプロジェクトブースでの「りんごの棚」の 프로모ーションポスターに掲載されました。それぞれの取り組みは、個々の

ストーリーを持った「りんごの棚」であり、読書バリアフリーへの第一歩としてりんごの棚が有効であることは明確です。

5. りんごの棚の可能性

公共図書館の「りんごの棚」は資料を並べて広く市民に体験してもらうものなので、それ自体は図書館の得意なことかもしれません。ただ、実際には資料を並べるだけではサービスとは言えません。むしろ、図書館の姿勢や考え方を表明するものです。誰もが利用可能な図書館を目指しているという姿勢が示されています。

また、学校図書館では前述のように読書の困難な児童や生徒を発見し、個々に合った資料を提案することが目的ですが、すべての子どもたちには異なる読書スタイルや多様な学習方法が存在することを理解してもらうことが大切です。

「りんごの棚」は障害者サービスの入口であり、その次には資料をどのように利用してもらうのか、来館が困難な利用者にどのように提供するのか、またデジタイゼーションの使い方や入手方法、電子書籍を導入している図書館でのアクセシブルなコンテンツの提供や障害者向けの利用方法など、サービスの考え方と実践が重要です。

すべての図書館に「りんごの棚」が設置され、さまざまな障害者サービスが提供され、どこに住んでいても誰もが資料や情報にアクセスできる環境になることを願っています。

(さえき みか：学校・地域コーディネーター (横浜市立幸ヶ谷小学校)、りんごプロジェクトメンバー)

[NDC10:015.97

BSH:1.障害者サービス 2.学校図書館]

『図書館雑誌』 バックナンバーのご案内

(定価は税込み。各号の在庫状況については、出版販売係 ☎03-3523-0812に直接お問い合わせください)

◆2019年1月号 (Vol.113 No.1)	平成30年度(第104回)全国図書館大会ハイライト	1,026円
◆2019年2月号 (Vol.113 No.2)	特集=トピックスで追う図書館とその周辺	1,026円
◆2019年3月号 (Vol.113 No.3)	特集=防災・減災を考えるーその日に備えて	1,026円
◆2019年4月号 (Vol.113 No.4)	特集=これから図書館で働く人たちへ	1,026円
◆2019年5月号 (Vol.113 No.5)	特集=平成の図書館 ピックアップ	1,362円
◆2019年6月号 (Vol.113 No.6)	特集=図書館のウェブデザイン	1,026円
◆2019年7月号 (Vol.113 No.7)	特集=図書館の話題アラカルト	1,026円
◆2019年8月号 (Vol.113 No.8)	特集=NDC90周年とNCR2018刊行を記念して	1,362円
◆2019年9月号 (Vol.113 No.9)	特集=ボランティアとの協働を考える	1,026円
◆2019年10月号 (Vol.113 No.10)	令和元年度(第105回)全国図書館大会への招待	1,026円
◆2019年11月号 (Vol.113 No.11)	特集=スマホ世代と大学図書館	1,026円
◆2019年12月号 (Vol.113 No.12)	特集=情報リテラシーをめぐる 学校図書館を核に／ 小特集=IFLA アテネ大会レポート	1,362円

*

◆2020年1月号 (Vol.114 No.1)	特集=トピックスで追う図書館とその周辺	1,026円
◆2020年2月号 (Vol.114 No.2)	令和元年度(第105回)全国図書館大会ハイライト	1,026円
◆2020年3月号 (Vol.114 No.3)	特集=災害から考える図書館	1,026円
◆2020年4月号 (Vol.114 No.4)	特集=読書バリアフリー法と図書館ー一步を踏み出す前に	1,026円
◆2020年5月号 (Vol.114 No.5)	特集=図書館とオリンピック	1,362円
◆2020年6月号 (Vol.114 No.6)	特集=児童・生徒の学びをサポート! 博物館図書室	1,026円
◆2020年7月号 (Vol.114 No.7)	特集=図書館の話題アラカルト	1,026円
◆2020年8月号 (Vol.114 No.8)	小特集=AIを活かす図書館	1,362円
◆2020年9月号 (Vol.114 No.9)	特集=コロナ禍における図書館の現在	1,026円
◆2020年10月号 (Vol.114 No.10)	令和2年度(第106回)全国図書館大会和歌山大会への招待	1,026円
◆2020年11月号 (Vol.114 No.11)	特集=新型コロナウイルス流行下における大学図書館の非来館型 サービス	1,026円
◆2020年12月号 (Vol.114 No.12)	特集=電子メディアと学校図書館ーコロナ禍は、学校図書館の 「電子書籍元年」をもたらすか	1,362円

*

◆2021年1月号 (Vol.115 No.1)	特集=トピックスで追う図書館とその周辺	1,026円
◆2021年2月号 (Vol.115 No.2)	令和2年度(第106回)全国図書館大会和歌山大会ハイライト	1,026円
◆2021年3月号 (Vol.115 No.3)	特集=東日本大震災から10年	1,026円
◆2021年4月号 (Vol.115 No.4)	特集=SDGsと図書館	1,026円
◆2021年5月号 (Vol.115 No.5)	特集=図書館員養成100周年	1,362円

◆2021年6月号 (Vol.115 No.6) 特集=図書館と公民館との連携を考える	1,026円
◆2021年7月号 (Vol.115 No.7) 特集=健康・医療情報のリテラシー	1,026円
◆2021年8月号 (Vol.115 No.8) 特集=図書館の話題アラカルト	1,362円
◆2021年9月号 (Vol.115 No.9) 特集=地域資料のいまとこれから	1,026円
◆2021年10月号 (Vol.115 No.10) 令和3年度(第107回)全国図書館大会山梨大会への招待	1,026円
◆2021年11月号 (Vol.115 No.11) 特集=国立国会図書館のデジタルシフト	1,026円
◆2021年12月号 (Vol.115 No.12) 特集=コロナ後の学校図書館へ／ 小特集=IFLA2021オンライン大会レポート	1,362円

*

◆2022年1月号 (Vol.116 No.1) 特集=トピックスで追う図書館とその周辺	1,026円
◆2022年2月号 (Vol.116 No.2) 令和3年度(第107回)全国図書館大会山梨大会ハイライト	1,026円
◆2022年3月号 (Vol.116 No.3) 特集=図書館と命名権(ネーミングライツ)	1,026円
◆2022年4月号 (Vol.116 No.4) 特集=広がる広げる 子どもの読書環境としての公共図書館の今	1,026円
◆2022年5月号 (Vol.116 No.5) 特集=電子書籍と公共図書館-非来館型サービスとしての電子図書館	1,362円
◆2022年6月号 (Vol.116 No.6) 特集=図書館の広報を考える	1,026円
◆2022年7月号 (Vol.116 No.7) 特集=図書館の話題アラカルト	1,026円
◆2022年8月号 (Vol.116 No.8) 特集=認知症にやさしい図書館を目指して	1,362円
◆2022年9月号 (Vol.116 No.9) 令和4年度(第108回)全国図書館大会群馬大会への招待	1,026円
◆2022年10月号 (Vol.116 No.10) 特集=大学にある児童図書館(室)	1,026円
◆2022年11月号 (Vol.116 No.11) 特集=図書館と個人文庫・文学館	1,026円
◆2022年12月号 (Vol.116 No.12) 特集=「情報活用能力」-学校教育と図書館の未来をつなぐ／ 小特集=IFLA ダブリン大会レポート	1,362円

*

◆2023年1月号 (Vol.117 No.1) 令和4年度(第108回)全国図書館大会群馬大会ハイライト	1,026円
◆2023年2月号 (Vol.117 No.2) 特集=トピックスで追う図書館とその周辺	1,026円
◆2023年3月号 (Vol.117 No.3) 特集=図書館の空間をデザインする	1,026円
◆2023年4月号 (Vol.117 No.4) 特集=コロナ後の図書館員の学び・交流	1,026円
◆2023年5月号 (Vol.117 No.5) 特集=県立図書館は今	1,362円
◆2023年6月号 (Vol.117 No.6) 特集=既存図書館のリニューアル	1,026円
◆2023年7月号 (Vol.117 No.7) 特集=図書館の話題アラカルト	1,026円
◆2023年8月号 (Vol.117 No.8) 特集=図書館と展示-資料から広がる世界	1,362円
◆2023年9月号 (Vol.117 No.9) 特集=図書館のビジュアルアイデンティティ	1,026円
◆2023年10月号 (Vol.117 No.10) 令和5年度(第109回)全国図書館大会岩手大会への招待	1,026円
◆2023年11月号 (Vol.117 No.11) 特集=表現する図書館員-書くことのすすめ	1,026円
◆2023年12月号 (Vol.117 No.12) 特集=2023年学校図書館の今 そしてこれから／ 小特集=IFLA ロッテルダム大会レポート	1,362円

*

◆2024年1月号 (Vol.118 No.1) 特集=トピックスで追う図書館とその周辺	1,026円
◆2024年2月号 (Vol.118 No.2) 令和5年度(第109回)全国図書館大会岩手大会ハイライト	1,026円
◆2024年3月号 (Vol.118 No.3) 特集=書店×図書館の可能性	1,026円



日図協図書館 新着案内

●配列と記載事項について

単行書：『日本十進分類法』による分類記号順（NDC記号順）とし、同一分類記号内は書名の欧文、数字、五十音順とした。

「タイトル 巻次 著者 出版社 出版年月 ページ数 大きさ（叢書名）注記 ISBN 価格 NDC記号」

要覧：館種別，都道府県（県，政令指定都市・特別区，市，町村）順

「タイトル 巻次 編者・出版社 出版年月 ページ数 大きさ」

館報：館種別，都道府県（県，政令指定都市・特別区，市，町村）順

「タイトル 巻次 編者・出版社 出版年月」

機関誌・団体報：館種，テーマによるNDC記号順

「タイトル 巻次 編者・出版社 出版年月 ページ数 大きさ 注記 NDC記号」

記事索引：『日本十進分類法』による分類記号順（NDC記号順）とし、同一分類記号内は記事タイトルの欧文、数字、五十音順とした。

「記事タイトル 著者 掲載誌 巻号 掲載ページ 掲載年月」

図書館関係

図書・資料・記事目録



単行書 紀要掲載論文

報告書・資料集・論文集など

調べる技術 国会図書館秘伝のレファレンス・チップス 小林昌樹著 皓星社 2022.12 183p 21cm 978-4-7744-0776-0 ¥2000 002.7

知識コモンズとは何か パブリックドメインからコミュニティ・ガバナンスへ 西川開著 勁草書房 2023.10 197p 21cm 978-4-326-00060-9 ¥3200 007.5

デジタルアーカイブの新展開 時実象一著 勉誠社 2023.03 12,304p 19cm 978-4-585-30009-0 ¥2310 007.5

ひらかれる公共資料 「デジタル公共文書」という問題提起 福島幸宏責任編集 勉誠社 2023.11 9,196p 21cm 978-4-585-30303-9 ¥3520 007.5

70歳のウィキペディアン 図書館の魅力を語る 門倉百合子著 郵研社 2023.11 207p 19cm 978-4-907126-61-2 ¥1980 007.58

電子図書館・電子書籍サービス調査報告2023 誰もが利用できる読書環境をめざして 電子出版制作・流通協議会監修，植村八潮 [ほか] 編著 樹村房 2024.01 197p 26cm 978-4-88367-389-6 ¥3200 010

図書館の日本文化史 高山正也著 筑摩書房 2022.09 296,6p 18cm (ちくま新書 1682) 978-4-480-07508-6 ¥920 010.2

日本の図書館事始 日本における西洋図書館の受容 新藤透著 三和書籍 2023.09 321p 20cm 978-4-86251-510-0 ¥3600 010.2

日本図書館史年表 弥生時代-1959年 藤野幸雄監修 金沢文圃閣 2012.06 234p 21cm (文圃文献類従 27) 978-4907789-86-2 ¥13200 010.21

教養・読書・図書館 ヴァイマル・ナチス期ドイツの教養理念と民衆図書館 松井健人著 見洋書房 2023.08 216p 22cm 978-4-7710-3759-5 ¥3500 010.234

第74回北日本図書館大会山形大会・第43回山形県図書館研究大会記録集 テーマ：魅力あふれる図書館をめざして 令和5年度 第74回北日本図書館大会山形大会・第43回山形県図書館研究大会事務局編刊 2023.12 92p 30cm 期日：令和5年7月7日(金) 会場：「遊学館」ホール(山形市) 010.6

日本図書館研究会の75年 日本図書館研究会のあゆみ 1996-2021 日本図書館研究会編刊 2023.03 281p 26cm 978-4-930992-29-1 ¥4400 010.6

事例で学ぶ図書館情報資源概論 吉井潤著 青弓社 2023.08 212p 21cm (事例で学ぶ図書館 3) 978-4-7872-0083-9 ¥2000 014

図書館のマンガを研究する 図書館情報学サイエンスカフェ講演録 共同研究グループPICNIC 編著 日本図書館協会 2024.02 73p 21cm (JLA Booklet 16) 978-4-8204-2311-9 ¥1000 014.1

資料を未来につなぐ ～東日本大震災で考えたこと～ 眞野節雄 講演録 DBジャパン編刊 2023.12 43p 21cm ("DBJ Booklet" 3) 978-4-86140-408-5 ¥880 014.61

読書バリアフリー 見つけよう！自分にあった読書のカタチ 読書工房編著 国土社 2023.07 79p 27cm 978-4-337-28950-5 ¥3500 015.97

帝国図書館 近代日本の「知」の物語 長尾宗典著 中央公論新社 2023.04 283p 18cm (中公新書 2749) 978-4-12-102749-8 ¥920 016.11

「まちライブラリー」の研究 「個」が主役になれる社会的資本づくり 磯井純充著 みすず書房 2024.02 vi,236p 20cm 978-4-622-09648-1 ¥2860 016.21

調布市立図書館55年の歩み 調布市立図書館 2023.11 57p 30cm 016.2136

森下芳則さん講演会「市民とともにつくる図書館のために」講演録 図書館の未来を考える学習会 妙高市

の図書館とともに歩む会 2023.12 30p 30cm 日時・会場：2023年9月2日(土) 14:30～16:30, 新井総合コミュニティセンター大会議室 016.2141

学校図書館の役割を問い直す 日本図書館協会学校図書館部会第51回夏季研究集会東京大会報告集 日本図書館協会学校図書館部会幹事編 日本図書館協会学校図書館部会 2023.12 82p 30cm 会期・会場：2023年7月28日～29日 日本図書館協会2F 研修室 017

福島県高等学校図書館白書 令和5年度 第46号 福島県高等学校司書研修会いわき支部会編 福島県高等学校司書研修会 2024.02 34p 30cm 事務局 福島県立磐城桜が丘高等学校 内容：読書調査にみる高校生、福島県高等学校図書館実態調査、参考資料 017.4

Curriculum-Based Library Instruction From Cultivating Faculty Relationships to Assessment Amy E. Blevins, Megan B. Inman 編 Rowman & Littlefield 2014 xiii, 234p 23cm Medical Library Association books 978-1-4422-3165-8 017.7

Maker literacies for academic libraries integration into curriculum Peery, Katie Musick 編 ALA Editions 2021 179p 23cm Includes bibliographical references (p.157-158) and index 978-0-8389-4806-4 017.7

Open access and the future of scholarly communication implementation Kevin L. Smith, Katherine A. Dickson 編 Rowman & Littlefield 2017 xiii, 329p 23cm Creating the 21st-Century Academic Library 978-1-4422-7503-4 017.7

続・アーカイブズ論 記録のしくみと情報社会 スー・マケミッシュ [ほか] 編, 安藤正人監修, 石原一則 [ほか] 訳 明石書店 2023.02 302p 22cm 978-4-7503-5547-4 ¥3850 018.09

農村と読書 第78回全国農村読書調査結果報告書 2023 家の光協会 2024.01 68p 30cm 019.3

お話について 新版 松岡享子著 東京子ども図書館 2023.12 126p 19cm (レクチャーブックス◆松岡享子の本 1) 978-4-88569-021-1 ¥1400 019.5

子どもの読書を考える事典 汐崎順子編 朝倉書店 2023.05 495p 22cm 978-4-254-68026-3 ¥9000 019.5

絵本は親子のゆりかご NPO ブックスタート 2024.01 43p 21cm (子ども・社会を考えるシリーズ 講演) ブックスタート全国研修会 (2022年11月, オンライン) における講義の内容と「ブックスタート・ニュースレター74号」(2021年10月発行) に掲載のインタビューを編集し, 一部加筆したもの。子どもたちの絵本環境, 乳幼児の発達と絵本, 「本読んで!」という子どもたち, ブックスタートを未来につなげる, 絵本は親子のゆりかご, Q&A 978-4-902077-17-9 ¥770 019.53

一般社団法人出版学会七十五周年史 一九九八年～二〇

二三年 出版学会 2023.12 395p 22cm カラー口絵 写真でみる出版学会 一九九八～二〇二三 023 出版指標年報 2023 全国出版協会出版科学研究所 2023.06 376p 26cm 978-4-915084-10-2 ¥19800 023

おすすめ!世界の子どもの本 JBBY 選 日本で翻訳出版された世界の子どもの本 2023 日本国際児童図書評議会 (JBBY) 2023.12 23p 26cm 資料 IBBY オナーリストの日本作品 023.09

出版再販・流通白書 2023年 No.26 出版流通改善協議会編 日本書籍出版協会 2023.12 109, 17p 30cm 978-4-89003-162-7 ¥1300 024

官報の発行に関する法律案関係資料 令和5年第212回国会 内閣府編刊 2023.12 1冊 30cm 320

官報の発行に関する法律の施行に伴う関係法律の整備に関する法律案関係資料 令和5年第212回国会 内閣府編刊 2023.12 1冊 30cm 320

統計でみる日本 2024 日本統計協会編 日本統計協会 2024.01 323p 21cm 978-4-8223-4215-9 ¥2750 351

女性と図書館 ジェンダー視点から見る過去・現在・未来 青木玲子, 赤瀬美穂著 日外アソシエーツ 2024.02 271p 19cm (図書館サポートフォーラム シリーズ) 978-4-8169-2996-0 ¥2970 367.1

文部科学法令要覧 令和6年版 文部科学法令研究会監修 ぎょうせい 2023.11 4298p 21cm 978-4-324-11298-4 ¥7480 373.22

ウィキペディアでまちおこし みんなでつくろう地域の百科事典 伊達深雪著 紀伊國屋書店 2024.01 322p 19c 978-4-314-01202-7 ¥2200 601.1



要覧

年報・年史・業務報告・利用案内など

国立国会図書館年報 令和4年度 国立国会図書館 2023.11 144p 30cm

*

図書館要覧 豊かな時間を図書館で (令和5年度 (2023年度)) 登別市立図書館 2023.12 46p 30cm

さわやか詩集 (令和5年度) 35 矢吹町図書館 2024.01 199p 30cm

流山市立図書館年報 令和4年度 (2022) 42 流山市立中央図書館 2024.01 58p 30cm

事業年報 (2023年度) 愛知芸術文化センター愛知県図書館 2023.11 69p 30cm

文芸いぶすき 68 指宿市立指宿図書館 2023.12 77p 21cm



館報 協会報 機関誌

●日本図書館協会
学校図書館部会報 74 日本図書館協会学校図書館部会

2023.12 14p 30cm 内容：学校図書館法公布70周年にあたって（見解）ほか 010.6

現代の図書館 61(2) (通巻246) 日本図書館協会 2023.10 54p [63-116p] 26cm 内容：著作権の現在 “公共図書館における著作権法改正への対応について福島県における事例を参考に（二瓶優），学校図書館における著作権（有山裕美子），SARTRAS設立の背景と授業目的公衆送信補償金制度の現状，今後の課題（池村聡），図書館によるデジタル貸出に関するEU・米国の裁判例 VOB事件CJEU判決およびIA事件S.D.N.Y.判決の紹介（鈴木康平），AIと著作権 AI生成表現の著作物性（奥邨弘司），IFLA図書館情報学（LIS）専門職教育プログラムのためのガイドライン（クララ M. チューほか，日本図書館協会国際交流事業委員会訳）” 010.5

図書館雑誌 The Library Journal 118(1)-(2) (通巻1202-1203) 日本図書館協会図書館雑誌編集委員会 日本図書館協会 2024.01-02 2冊 26cm 内容：(1202) 特集 トピックスで追う図書館とその周辺，変えるべきこと，継承していくこと（茂出木理子）（窓），第109回全国図書館大会岩手大会「理想郷“イーハトーブ”で本当の幸せを考える～希望ある未来は図書館とともに～」開催（NEWS），「NAGOYAメタバース図書館」を期間限定で設置（NEWS），「官報の発行に関する法律」を公布（NEWS），2023年度災害等により被災した図書館等への助成決定（NEWS），全国SLA，2023年度「学校図書館調査」結果を公開（NEWS），「令和2年度 学校図書館の現状に関する調査」へ意見書を提出（NEWS），マイナンバーカードの図書館カード化について（藏所和輝）（こらむ図書館の自由），年頭所感（植松貞夫），図書館は森羅万象を教えてくれる！（ずいの），子供の読書活動優秀実践校・図書館・団体（個人）の取り組み事例について（霞が関だより 242），図書館員のおすすめ本 85，北から南から，(1203) 特集令和5年度（第109回）全国図書館大会岩手大会ハイライト，生成AIを活用・評価した授業（角田裕之）（窓），令和6年能登半島地震について（NEWS），北陸4県の県立図書館へお見舞いと被災状況を確認（NEWS），日本図書館協会「令和6（2024）年能登半島地震関連情報」ページを公開（NEWS），国立大学図書館協会，令和6年能登半島地震による会員館の被害状況を公表（NEWS），国立国会図書館，国立国会図書館障害者用資料検索（みなサーチ）正式版を公開（NEWS），改めて「個人情報」について考えてみませんか？（山口真也）（こらむ図書館の自由），国際協力の専門図書館「夢物語」への挑戦 独立行政法人国際協力機構図書館（JICA 図書館），文部科学省における図書館・読書活動推進関連予算案（霞が関だより 243），富士見市立中央図書館のレファレンス 富士見市立中央図書館の巻（れふぁれんす 三題断 308），図書館員のおすすめ本 86 010.5

●国立国会図書館

カレントアウェアネス 358 国立国会図書館関西館図書館協力課 2023.12 24p 30cm 016.11

国立国会図書館月報 753-754 国立国会図書館 2024.01-02 2冊 30cm 内容：(753) 新年のごあいさつ，光る君のお正月－「源氏物語」に描かれた正月行事－（今月の一冊 国立国会図書館の蔵書から），“言葉”を伝えるために（新春特別対談 大石 真×ロバート キャンベル），ジャパンサーチで地域資料を調べる，発信する，令和6年1月，国立国会図書館の検索・申込サービスが変わります，国立国会図書館をご存知ですか（館内スコープ），『国立天文台所蔵貴重資料展示図録 2009-2022』（本屋にない本），NDL TOPICS，数字で見る国立国会図書館，(754) Japanese folk-toys (Tourist library：26)－世界に発信した郷土玩具－（今月の一冊 国立国会図書館の蔵書から），第88回IFLA年次大会，新聞記事データベース案内 ～当館で利用できるデータベース一覧表～，理想と現実の間で～データベース導入あれこれ（館内スコープ），「こわいな！ 恐怖の美術館」（本屋にない本），NDL TOPICS 016.11

レファレンス 877-878 国立国会図書館調査及び立法考査局 2024.01-02 2冊 30cm 016.11

●協会報・館報

情報図書館だより 405-406 江別市情報図書館 2024.01-02

よむみる 376 恵庭市立図書館 2023.12-2024.01

ハトダゴ 函館市中央図書館だより 92-93 函館市中央図書館 2024.01-02

図書館通信 42(10)-(11) 512-513 登別市立図書館 2024.01-02

まなベル 生涯学習情報誌 2024年（令和6年）2月号 358 訓子府町教育委員会 2024.02

ことばのうみ 宮城県図書館だより 77 宮城県図書館 2024.01

花さき山 435-436 筑西市立明野図書館 2024.01-02

三郷市図書館だより 321 三郷市立図書館 2023.12-2024.01 たからじまだより249)

図書館だより 476-477 新座市立図書館 2024.01-0 としょかんこどもだより159)

知識は旅をする 79 千葉県立東部図書館 2024.02

こすもす 市原市立中央図書館報 141 市原市立中央図書館 2024.02

江東区立図書館情報誌 こたらいぶ（2024冬）29 江東図書館 [2023.12]

ひばり いなぎ図書館だより 211-212 稲城市立図書館 2024.01-02

やまばと通信 259 多摩市立図書館 2024.01

図書館だより 2023冬 269 調布市立図書館 2023.12

西東京市図書館だより 92 西東京市図書館 2023.12 らいぶらりい 八王子市図書館報 156 八王子市中央図書館 2024.01

ひろば 日野市立図書館館報 293-294 日野市立中央図書館 2024.01-02

広報 ふちゅう (令和5年(2023年)12月15日号) 2040
府中市 2023.12 内容:図書館で見つける私の楽しみ方

図書館だより No.Ⅲ(27) 武蔵野市立図書館編 武蔵野
市立図書館 2024.02 内容:まちの魅力発信!吉祥
寺図書館

神図協会報 285 神奈川県図書館協会 2024.01
TOMTOM LIBRARY NEWS 81 相模原市立図書館
2024.01 内容:特集:空

はしもと図書館報 Hi! 85 相模原市立橋本図書館
2024.01

マーメイド通信 155 逗子市立図書館 2024.02

図書館だより 200 藤沢市総合市民図書館 2024.01 内
容:ふじさわ電子図書サービス 祝1周年 ほか

パピルス 上越市立図書館だより 310-311 上越市立図
書館 2024.01-02

図書館だより 226 磐田市立図書館 2024.01

磐田市図書館だより 2024年2月号 227 [磐田市立中央
図書館] [2024.01]

かけがえ図書館だより 227-228 掛川市立図書館 2024.
01-02

あゆち 愛知県図書館報 24 愛知県図書館 2023.11
内容:特集 新聞と雑誌〜愛知の今と昔を知るツール〜

ひまわりだより 418-419 貝塚市民図書館 2024.02-03
ムクムク 454-455 四條畷市立四條畷図書館 2023.12-
2024.01 新着図書案内 (225-226)

としょかんだより 485-486 寝屋川市立中央図書館
2023.09, 2021.01

みんなの本だな 図書館だより 662-663 芦屋市立図書館
2023.12-2024.01

しずく通信 237 猪名川町立図書館 2024.01 しずく
つうしん for KID'S 177

用瀬図書館だより 187-188 鳥取市立用瀬図書館 2023.
11-12

図書館だより 359-360 岩国市中央図書館 2024.01-02
佐賀市立図書館だより 140 佐賀市立図書館 2023冬
図書館おおいだ 学びの四季報 305 大分県立図書館
2023.12

*

Book Mark 城西大学水田記念図書館報 168-169 城
西大学水田記念図書館 2024.01-02

図書館だより 178 日本女子大学図書館 2023.11
HOSEI 50(4)-(6) 739-741 法政大学総長室広報課
2023.06-10

みすず 50 上田女子短期大学附属図書館 2023.12

木野通信 京都精華大学 広報誌 81 京都精華大学
2023.12

関西学院大学図書館報 時計台 91 関西学院大学図書
館 2023.12

和歌山高専図書館だより 144-145 和歌山工業高等専門
学校図書館 2023.10, 2024.02

大楠 熊本学園大学図書館報 62 熊本学園大学付属図

書館 2023.11

●機関誌・団体報

情報の科学と技術 74(1)-(2) 情報科学技術協会 2024.
01-02 2冊 30cm 内容:(74(1)) 特集:イノベーション創出における人材育成,『知識資源のメタデータへのリンクドデータ・アプローチ』(書評・新刊紹介),第49回(2024年)「情報科学技術協会賞」推薦募集,INFOPRO2024(案内),2024年度から「検索技術者検定」1級・2級の試験制度・試験方法が変わります,(74(2)) 特集:広がるリテラシー教育,情報教育教員によるリテラシー教育(情報モラル問題解決力の育成)(玉田和恵),民主主義に参加する力を育むーメディアが実践するリテラシー教育ー(尾高泉),デジタル時代にあったリテラシー教材をへスマートニュース メディア研究所の取り組みから(長澤江美),〜図書館資料のデジタル化〜(澤田将史)(連載:実務者のための著作権お悩み相談室 5),神資研×専図協×INFOSTA 合同イベント「知ってるようで知らない? ! 神資研, 専図協, INFO STAについて, 中の人に聞こう, 中の人と話そう!」参加記(佐藤正恵)(集会報告) 007

アート・ドキュメンテーション通信 136 アート・ド
キュメンテーション学会 2024.02 15p 30cm 内
容:アート・ドキュメンテーション学会第16回秋季
研究集会 開催報告 007.5

LRG:ライブラリー・リソース・ガイド 46 アカデ
ミック・リソース・ガイド 2024.02 155p 21cm
内容:特集 図書館を創るとはどのようなことか [中
編]ー多角的な創造へ 複雑な世界に向かう, 多角的
な創造としてのプロジェクト(李明喜), 基調鼎談
「多元世界に向けたデザイン」から考える図書館を創
ること(水野大二郎, 増井尊久, 李明喜), 未来の図
書館につながる「多角的な創造」を考える本, アク
ターネットワークとしての図書館(牧野智和), ソー
シャルイノベーションへとつながる「手の取り合い
方」を考えるートップダウン型とボトムアップ型の
相互作用(石塚理華), 図書館は見えなくなるかー視
えない図書館はどのように振る舞い, どんな力をも
つのか(大橋正司), ダイアログ「循環型の公共空
間のデザインとは」(田中浩也), インタビュー 未
来の図書館を創る国立国会図書館の現場 010

ニューズレター 167 日本図書館文化史研究会 2024.01
8p 26cm 010.21

図書館界:The Library World 75(5)(通巻434) 日本
図書館研究会 2024.01 34p [285-318p] 26cm 内
容:特集 誌上対話:地域社会において公共図書館
が担うべき役割と責任 オープンアクセス化の流れ
と『図書館界』(前川敦子), 公立図書館の指定管理
者制度導入に対する地方議員の認識(松本直樹), 戦
争の当事者性は「図書館の自由」とどのように対立
するのか? :「いま作り出すべきコンセンサス」とは
何か? (特集 誌上対話:地域社会において公共図
書館が担うべき役割と責任)(山口真也),『小さなま

ちの奇跡の図書館 (ちくまプリマー新書, 419)』(書評), 『調べ物に役立つ図書館のデータベース (ライブラリーぶっくす)』『ネット情報におぼれない学び方 (岩波ジュニア新書, 964)』『司書名鑑: 図書館をアップデートする人々』『オープンサイエンスにまつわる論点: 変革する学術コミュニケーション』『知りたい気持ちに火をつけろ!: 探究学習は学校図書館におまかせ』(新刊紹介), 日本図書館研究会第65回研究大会 (ご案内) 010.5

同志社図書館情報学 「同志社大学図書館学年報」48号別冊 33 同志社大学図書館司書課程 2023.12 174p 26cm 内容: 初等中等教育課程における教育データの利活用-学校図書館の立ち位置を含めて (川瀬綾子, 西尾純子, 村上泰子), アメリカのスクール・ライブラリアンの専門職化過程に関する考察-20世紀を中心に (大城善盛), 公立図書館の指定管理者制度における募集要項: 募集要項の構成・国の通知等との比較 (佐藤聡子), 大学図書館の学習支援サービスのための情報源としてのシラバス: シラバス調査と学部生の認識を通じた考察 (西浦ミナ子, 佐藤翔, 石川楓佳, 土肥愛果, 福島奏, 原田隆史), コミュニティの図書館を目指す商事図書館: 研究の覚書 (川崎良孝), 日本図書館協会図書館情報学教育部会による「大学において履修すべき図書館に関する科目」の新規提案の検討 (村上泰子, 北克一) 010.7

日本図書館情報学会誌 69(4) (通巻235) 日本図書館情報学会 2023.12 58p [170-227p] 26cm 内容: 新型コロナウイルス感染症感染拡大第1波期間における公立図書館の児童サービス (須賀千絵, 汐崎順子), 専門語彙量推定テストの開発と評価: 図書館情報学分野を対象として (朱心茹, 浅石卓真, 河村俊太郎), 紀要の編集現場の現状と課題に関する調査報告 (設楽成実, 北村由美), 『調べる技術: 国立国会図書館秘伝のレファレンス・チップス』『デジタル時代のアーカイブ系諸学』『アンフォーレのつくりかた: 図書館を核としたにぎわいの複合施設』『デジタル時代における民主的空間としての図書館, アーカイブ, 博物館』(書評), 論文「公共図書館の所蔵および貸出は新刊書籍の売上にどの程度影響するか」の修正と補足 (大場博幸) 010.7

武蔵野大学司書課程・司書教諭課程たより 19 武蔵野大学司書課程・司書教諭課程研究室 2024.01 20p 26cm 010.7

もっと! TRC MARCpedia 9-10 図書館流通センターデータ部 2024.01-02 2冊 30cm 内容: (9) 全集・シリーズ典拠ファイルの役割 014

文化財の虫歯害 86 文化財虫歯害研究所 2023.12 48p 26cm 014.6

多摩デポ通信 66 共同保存図書館・多摩 2024.01 8p 26cm 014.68

ヤングアダルトサービス研究会通信 289-290 ヤングアダルトサービス研究会 2023.12, 2024.02 2冊 26cm 015.93

音ボラネット通信 全国音訳ボランティアネットワーク会報 50 全国音訳ボランティアネットワーク事務局 2024.01 20p 30cm 015.97

ってんフォーラム 130 日本点字図書館 2024 冬 16p 21cm 015.97

としょかん 168 としょかん文庫・友の会 2024.02 19p 26cm 016.206

図書館の学校 2023年冬号 図書館振興財団 2023.12 52p 26cm 内容: 特集 生成AIと図書館 生成AIと図書館~その現状, 取り組み, 並びに問題点の概要 (高山正也), 選書について (楚納タオ) (我らあおばライブラリアン 11), 居心地のいい「街のリビング」で読みたい本にであう, ひらめく ミライエ長岡と互尊文庫 (図書館探訪記 18), レファレンスになにを求めている? (奥野宣之) (図書館メジャー化計画 30), みんなが本を読める「読書バリアフリー」環境を目指すには!? (野口武悟), コインブラ大学ジョアニナ図書館 (世界の図書館 47) 016.206

みんなの図書館 562-563 図書館問題研究会 2024.01-02 2冊 21cm 内容: (562) 特集 図書館法を考えてみませんかー図書館法の中の職員問題, “アピール: 図書館法を改正して公立図書館に司書の必置を, 図書館法改正運動は司書必置を求めたのか (小形亮), 議員面談に行ってきました (清水明美), つなげよう! 地方議員と図書館 (巽照子), 図書館職員の法をめぐる諸問題 (山口源治郎), 沼隈図書館で水族館 大人も子どももワクワク・ガヤガヤー福山大学・生命工学部海洋生物科学科とのコラボ (明石浩), 図書館見学 開館後, どのように運営が継承されているかーTRC 八千代中央図書館オーエンス八千代市民ギャラリー・船橋市西図書館 (小廣早苗), 図書館問題研究会茨城支部・茨城の図書館の歩み [全2回] その2ー2000年代ー支部結成30周年記念講演会 資料より, 主体と行為が隠されたタカラジェンヌの自死報道ー記者会見の枠組みが示す劇団側の狙い (佐々木央) (情報と人間の交差点で 6), 年間資料費最低1000万円を考える (山重壮一) (こんな図書館はいやだ 25), 男木島図書館便り 58 (額賀 (福井) 順子), ともんけん支部活動トリセツー自由に楽しく活動してみませんか! (小廣早苗), 2023年12月号訂正, 『竹内恋の言葉ーもちより, わけあうー』を一緒に作りましょう, シリア, ウクライナ, そしてガザ (石川裕) (column: 図書館九条の会)” 016.206

としょかんふれんず千葉市 77 としょかんふれんず千葉市 2024.01 12p 30cm 016.206

神資研ニュース 553 神奈川県資料室研究会 2023.12 6p 30cm 内容: ジャーナル・インパクトファクターの基礎知識 (第691回例会 講演会) 016.206

図書館とともだち 223 図書館とともだち・鎌倉 2024.01 14p 30cm 016.206

大阪支部報 545 図書館問題研究会大阪支部 2023.12 6p 26cm 016.206

堺市の図書館を考える会会報 40 堺市の図書館を考える会 2023.12 8p 30cm 016.206

図書館とまちづくり 158 図書館とまちづくり・奈良県・ネットワーク 2023.12 8p 30cm 016.206

香川県図書館学会会報 76 香川県図書館学会 2023.12 12p 26cm 016.206

ことひらまちじゅう図書館 with 415のわ 5 ことひらまちじゅう図書館事務局 2023.02 [4p] 26cm 016.206

こどもとしょかん 180 東京子ども図書館 2024.01 33, xv 21cm 016.28

こどもの図書館 71(1) 児童図書館研究会 2024.01 2冊 26cm 内容：(71(1)) 特集 伊藤忠記念財団50年 016.286

児図研東京支部ニュース 450 児童図書館研究会東京支部 2024.02 8p 26cm 016.286

マグちゃん通信 84 射水市大島絵本館 2024.02-03 30cm 内容：絵本作家インタビュー 松田奈那子 016.286

Newsletter山梨子ども図書館 74 山梨子ども図書館 2024.01 6p 30cm 016.286

こどもの図書館あいち 393-394 児童図書館研究会愛知支部 2023.12-2024.01 2冊 26cm 016.286

親子読書つうしん 日本親子読書センター・機関誌 3 (17) 日本親子読書センター 2023.12 48p 30cm 内容：特集1 2023年 秋のイベント 報告, 特集2 楽しみ, 学ぼう, 中近東絵本の世界 第5回 016.29

子どもと読書 463 親子読書地域文庫全国連絡会 2024.01-02 40p 21cm 016.29

ふみくら 208 千葉市文庫連絡協議会 2023.12 12p 30cm 016.29

京庫連だより 2023-8 京都家庭文庫地域文庫連絡会 2024.01 8p 26cm 付録：本の紹介, かんたん工作 016.29

大子連ニュース 425-426 大阪府子ども文庫連絡会 2024.01-02 2冊 26cm 016.29

がくと 学校図書館問題研究会 2023第38回全国大会関西大会 記録集 38 学校図書館問題研究会 京都編集 学校図書館問題研究会 2023.12 186p 26cm 内容：第38回大会(関西大会) 報告 変化と向き合う学校図書館～子どもと社会をつなぐための挑戦 017.06

学図研ニュース 455-456 学校図書館問題研究会 2024.01-02 2冊 26cm 内容：特集 館内レイアウト 017.06

学校図書館 879 全国学校図書館協議会 2024.01 88p 26cm 内容：特集 「学校図書館の評価」を考える 学校評価と学校図書館評価の課題(須賀千絵), 学校図書館を評価するー学校図書館の規程, 基準, 諸計画と関連づけて(藤田利江), 生きる力・夢や希望を育む学校図書館ーアセスメント機能を生かした取組み(稲葉京子), 全国SLA「学校図書館評価基準」の活用(森田盛行), 〈資料〉学校図書館評価基準,

『知りたい気持ちに火をつけろ! : 探究学習は学校図書館におまかせ』(役にたつ! Book Guide), 韓国の教育事情と学校図書館ー①韓国の教育制度の概要(千錫烈)(教育時評 302), 授業における学校図書館の利活用(柴田雅子)(キラリ! 司書教諭 232), 図書館の楽しみ方ー図書館イベントをやってみよう(上原里美)(きらり! 学校司書 67), なぜ古いというだけで何でも処分してしまうのですか?(熊谷一之)(なぜ?を分析! “解決のカギ” はここにある。7), 「学校図書館整備施策」の実施状況(資料), 学校図書館年表(1) 2022年12月～2023年6月 017.06

学校図書館速報版 2141-2145 全国学校図書館協議会 2023.12-2024.02 5冊 26cm 内容：(2141) 今年度の9地区大会を締めくくる, 第7回学校図書館担当指導主事研修会開催, (2142) 第44回全国学校図書館研究大会高松大会, 学校図書館や読書に関する記念日を知りたいのですが(教えて, 先輩 Q&A), (2143) 学校図書館を活用した読書活動を総合的・計画的に推進 文部科学省2024年度の予算案を発表, (2144) 読書週間は時期が決まっていますか?(教えて, 先輩 Q&A) 017.06

学図研ニュース・東京 374-346 学校図書館問題研究会 東京支部 2023.12-2024.02 3冊 26cm 017.06

風 学校来ぶらり 94 学校図書館を考える会・丸亀 2024.02 8p 26cm 017.06

図書館教育ニュース(付録) 1647-1651 少年写真新聞社 2024.01-02 5冊 26cm 内容：(1647) 一文入魂! POPテンプレート(すぐに作れる! 学校図書館で役立つ素材集 20), (1648) 一人ひとりの経験を言葉にのせて(図書ニュー読書部2023活動中 第8回), (1649) 連携で広がる学校図書館支援(実践報告), (1650) 焼きたて! パンのしおり&ブックカバー(すぐに作れる! 学校図書館で役立つ素材集 21), (1651) 現実を生きるための創造と想像(図書ニュー読書部2023活動中 最終回) 017.1

小学図書館ニュース(付録) 1315 少年写真新聞社 2024.01 4p 26cm 内容：(1315) 1年目! 新米司書フントー記 第9歩 アナザー図書委員会 017.2

私立大学図書館協会会報 161 私立大学図書館協会 2024.02 169p 30cm 明治学院大学図書館内 内容：第84回(2023年度)私立大学図書館協会総会・研究大会記録「ポスト・コロナを切り拓く大学図書館」, 記念講演「知的立国の形成と図書館への期待」(片山善博), 講演「新たなケアの文化と大学図書館ー孤立を超えともに学ぶ場の形成」(島蘭進), 報告「アクティブ・ラーナーを育てる大学図書館ー高校から大学へ, 大学から社会へつなぐ」(稲井達也), 事例報告「「学び」と「集い」の図書館に挑む」(稲井達也, 丸山雄太), 協会賞表彰 017.706

大学の図書館 42(12)(通巻601) 大学図書館研究会 編集 大学図書館研究会 2023.12 54p [p164-216] 26cm 内容：大学図書館研究会第54回全国大会記録 017.706

ほんばこ 日本教育会館附設教育図書館通信 70 教育
図書館 2024.02 8p 30cm 018.37

医学図書館 70(4) 日本医学図書館協会 2023.12 54p
[195-247p] 30cm 付:70巻 2023 総目次 内
容:特集 第7回 JMLA コア研修 米国医学図書館
協会 (MLA) 2023年デトロイト大会参加報告, 第72
回 (2021年度)重複雑誌交換実績報告書, 吉村昭記
念文学館と群馬県立文書館で開催された資料展示会
見学報告, 大阪府立中之島図書館と甲賀市くすり学
習館で開催された資料展示会見学報告 018.49

薬学図書館 68(3) (通巻259) 日本薬学図書館協議会
2023.12 40p [82-120p] 30cm 内容:特集 サン
メディア主催◆学術情報ソリューションセミナー
2023 薬学教育モデル・コア・カリキュラムの改訂
と図書館 (大津史子) 018.499

博物館研究 59(1)-(2) (通巻668-669) 日本博物館協会
2024.01-02 2冊 30cm 内容:(668) 特集「博物
館における動物倫理・動物福祉」, (669) 特集「博
物館の直面する課題・問題の改善・解決について」
069

●出版・著作権

Bookstart Newsletter ブックスタート・ニュースレター
83 NPOブックスタート 2024.01 4p 30cm 内
容:図書館ではこんな取り組みも 連携で充実!
ブックスタート&フォローアップ, 『絵本は親子のゆ
りかご』(新刊のお知らせ) 019

読書推進運動 673-675 読書推進運動協議会 2023.12-
2024.02 3冊 26cm 内容:(673) 野間読書推進賞
特集, (675)「伊藤忠記念財団 子ども文庫助成事
業」助成贈呈先 決定 019

CPRA news Review 5 日本芸能実演家団体協議会
2024WINTER 11p 30cm 021.2

コピライト 753-754 著作権情報センター 2024.01-02
2冊 30cm 内容:(753) 解説2 著作権法の一部を
改正する法律 (令和5年改正) について<後編>・
文化庁著作権課 021.2

JASRAC NOW 792-793 日本音楽著作権協会 2024.
01-02 2冊 30cm 021.23

JPIC NEWSLETTER 251-252 出版文化産業振興財団
(JPIC) 2024.01-02 2冊 30cm 023

NEWS LETTER 17 文字・活字文化推進機構 2024.01
[4p] 30cm 023

アクセス 地方小出版情報誌 564-565 地方・小出版流
通センター 2024.01-02 2冊 26cm 023

書協 397-398 日本書籍出版協会 2023.12-2024.01 2
冊 26cm 023

人文会ニュース 145 人文会 2023.12 25p 21cm 023

日本楽譜出版協会会報 38 日本楽譜出版協会 2024.01
[8p] 26cm 023

Book & Bread 157 日本国際児童図書評議会 2023.12
34p 26cm 付:Japanese Children's Books 2023
023.09

子どもと科学よみもの 2024年1・2月号 538 科学読物

研究会 2024.01 28p 26cm 023.09

こどもの本 617-618 日本児童図書出版協会 2024.02-
03 2冊 21cm 023.09

子どもの本棚 663-664 日本子どもの本研究会 2024.
01-02 2冊 21cm 023.09

日本古書通信 1133, 1135 日本古書通信社 2024.01-02
47p 26cm 024.8

●郷土資料

西日本文化 509 西日本文化協会 2024.01 80p 26cm
内容:新しい郷土文化の創造 郷土会と門司地区の
図書館 (図書館探訪ものがたり 23) 219.1

●生涯学習・地方自治ほか

月刊社会教育 68(2) (通巻813) 「月刊社会教育」編集
委員会編 旬報社 2024.02 88p 21cm 内容:特
集 問われる公共施設の再編, 公共施設等総合管理
計画10年目の動向と課題-問われる「機能」重視に
よる「社会教育施設」概念の後退 (長澤成次), 指定
管理者制度20年の検証と課題, 取り組み (角田英
明), 川崎市の市民館・図書館への指定管理者制度導
入をおいけて (岡本正子), 公共施設をめぐる地方
の基礎自治体でおきていること-高知県内2つの事
例から (内田純一), 〈コラム〉三芳町における公民
館・図書館の指定管理化阻止の取り組み (岡田時
弘), 〈集会報告〉日本公民館学会20周年記念シンポ
ジウム-「『公民館研究50年』と公民館学会20年の到
達と課題」(上田幸夫) 379



図書館関係 雑誌記事索引

010.1 図書館の自由
改めて「個人情報」について考えてみませんか? 行政
機関等匿名加工情報に関する提案募集をめぐって
山口真也 (こらむ図書館の自由) 図書館雑誌 118
(2) p67 2024.02

マイナンバーカードの図書館カード化について 蔵所和
輝 (こらむ図書館の自由) 図書館雑誌 118(1)
p7 2024.01

010.4 図書館
図書館は森羅万象を教えてくれる! ずいの (新春エッ
セー) 図書館雑誌 118(1) p14-15 2024.01

010.6 インターネット・ガバナンス・フォーラム (IGF)
インターネット・ガバナンス・フォーラム (IGF) 2023
京都大会と図書館 井上靖代 (特集 トピックスで
追う図書館とその周辺) 図書館雑誌 118(1) p32-
33 2024.01

010.6 国立大学図書館協会
国立大学図書館協会, 令和6年能登半島地震による会員
館の被害状況を公表 (NEWS) 図書館雑誌 118
(2) p65-66 2024.02

010.6 全国図書館大会
岩手へ, 全国図書館大会参加記 宇賀田織部 (全国図書
館大会に参加して) 図書館雑誌 118(2) p94

2024.02

全国図書館大会潜入記 小田那津子（全国図書館大会に参加して）図書館雑誌 118(2) p93 2024.02

第109回全国図書館大会岩手大会「理想郷“イーハトーブ”で本当の幸せを考える～希望ある未来は図書館とともに～」開催（NEWS）図書館雑誌 118(1) p5 2024.01

第1分科会／公共図書館 “つながる図書館” 幸せと希望を実現する公共図書館の試み 姉帯裕子（令和5年度（第109回）全国図書館大会岩手大会ハイライト）図書館雑誌 118(2) p76 2024.02

第2分科会／大学・短大・高専図書館 オープンサイエンス時代における大学図書館の在り方 早川光彦（令和5年度（第109回）全国図書館大会岩手大会ハイライト）図書館雑誌 118(2) p77 2024.02

第3分科会／学校図書館 学校図書館活動の活性化 学校の「魅力」発信 照井大道、及川浩純（令和5年度（第109回）全国図書館大会岩手大会ハイライト）図書館雑誌 118(2) p78-79 2024.02

第4分科会／児童サービス(1) 子どもと本のよい出会いを 安保和徳（令和5年度（第109回）全国図書館大会岩手大会ハイライト）図書館雑誌 118(2) p80 2024.02

第4分科会／児童サービス(2) 読書が子どもに与える影響 安保和徳（令和5年度（第109回）全国図書館大会岩手大会ハイライト）図書館雑誌 118(2) p81 2024.02

第5分科会／図書館情報学教育 日本の図書館情報学教育の現状：「日本の図書館情報学教育」調査から 大谷康晴（令和5年度（第109回）全国図書館大会岩手大会ハイライト）図書館雑誌 118(2) p82 2024.02

第6分科会／著作権 令和3年改正著作権法の施行後の動向 図書館サービスに活かす上で考えたいこと 小池信彦（令和5年度（第109回）全国図書館大会岩手大会ハイライト）図書館雑誌 118(2) p83 2024.02

第7分科会／図書館の自由 戦争と図書館 小南理恵（令和5年度（第109回）全国図書館大会岩手大会ハイライト）図書館雑誌 118(2) p84 2024.02

第8分科会／障害者サービス(1) SDGsと図書館、誰も取り残さないインクルーシブな図書館を目指して 村林麻紀（令和5年度（第109回）全国図書館大会岩手大会ハイライト）図書館雑誌 118(2) p85 2024.02

第8分科会／障害者サービス(2) 最新のICT技術・アクセシブルな電子図書館を活用して目指す、障害者の読書環境 村林麻紀（令和5年度（第109回）全国図書館大会岩手大会ハイライト）図書館雑誌 118(2) p86 2024.02

第9分科会／認定司書事業 日本図書館協会認定司書事業のこれまでとこれから 松本直樹（令和5年度（第109回）全国図書館大会岩手大会ハイライト）図

書館雑誌 118(2) p87 2024.02

第10分科会／災害と図書館 災害と図書館 東日本大震災に学び今後の対策を考える 鈴木史穂（令和5年度（第109回）全国図書館大会岩手大会ハイライト）図書館雑誌 118(2) p88 2024.02

第11分科会／出版流通 地方における書店の役割と図書館 大場博幸（令和5年度（第109回）全国図書館大会岩手大会ハイライト）図書館雑誌 118(2) p89 2024.02

第12分科会／多文化サービス 暮らしの中の情報と多文化サービス 岩手県の実例を通して 村上健治（令和5年度（第109回）全国図書館大会岩手大会ハイライト）図書館雑誌 118(2) p90 2024.02

第13分科会／非正規雇用職員 指定管理者・委託で働く非正規雇用職員 利光朝子（令和5年度（第109回）全国図書館大会岩手大会ハイライト）図書館雑誌 118(2) p91 2024.02

第14分科会／市民と図書館 住民が取り組む図書館職員問題 尾形陽子（令和5年度（第109回）全国図書館大会岩手大会ハイライト）図書館雑誌 118(2) p92 2024.02

夜空で輝く星をつなぐように 堀内悠加（全国図書館大会に参加して）図書館雑誌 118(2) p93 2024.02
理想郷“イーハトーブ”で本当の幸せを考える 希望ある未来は図書館とともに 森本晋也（令和5年度（第109回）全国図書館大会岩手大会ハイライト）図書館雑誌 118(2) p72-75 2024.02

010.6 日本図書館協会

2023年度災害等により被災した図書館等への助成決定

（NEWS）図書館雑誌 118(1) p6 2024.01

日本図書館協会「令和6（2024）年能登半島地震関連情報」ページを公開（NEWS）図書館雑誌 118(2) p65 2024.02

年頭所感 植松貞夫 図書館雑誌 118(1) p13 2024.01

010.7 図書館学教育

生成AIを活用・評価した授業 角田裕之（窓）図書館雑誌 118(2) p64 2024.02

010.7 図書館学教育、職員の養成

IFLA 図書館情報学（LIS）専門職教育プログラムのためのガイドライン クララ M. チュー ほか、訳：日本図書館協会国際交流事業委員会 現代の図書館 61(2) p104-116 2023.10

011 図書館行政

文部科学省における図書館・読書活動推進関連予算案

文部科学省（霞が関だより 243）図書館雑誌

118(2) p98-101 2024.02

011.2 図書館法令および基準

「官報の発行に関する法律」を公布（NEWS）図書館雑誌 118(1) p5 2024.01

012 図書館建築

「第44回図書館建築研修会」開催（NEWS）図書館雑誌 118(1) p6 2024.01

013 図書館－災害

北陸4県の県立図書館へお見舞いと被災状況を確認 (NEWS) 図書館雑誌 118(2) p65 2024.02

令和6年能登半島地震について (NEWS) 図書館雑誌 118(2) p65 2024.02

013.1 図書館員

「図書館の非正規雇用改善のための連絡会」スタート 小形亮 (特集 トピックスで追う図書館とその周辺) 図書館雑誌 118(1) p34-36 2024.01

岐阜市立図書館と塩尻市立図書館の司書人事交流に期待すること 長尾勝広 (特集 トピックスで追う図書館とその周辺) 図書館雑誌 118(1) p19-21 2024.01

015 健康情報

「健康コレクションマネジメントと健康情報の評価」研修会開催について JLA 健康情報委員会 (特集 トピックスで追う図書館とその周辺) 図書館雑誌 118(1) p28-29 2024.01

015 三条市立図書館

仕合わせる幸せ 長野源世 (特集 トピックスで追う図書館とその周辺) 図書館雑誌 118(1) p25-27 2024.01

015 平塚市中央図書館

図書館ボランティア体験を通じた不登校・ひきこもり改善・自立支援 柳川涼司, 腰越未樹 (特集 トピックスで追う図書館とその周辺) 図書館雑誌 118(1) p22-24 2024.01

015.2 レファレンス ワーク

富士見市立中央図書館のレファレンス 覚え間違い, 思い違い 長谷川実 (れふあれんす三題噺 308 富士見市立中央図書館の巻) 図書館雑誌 118(2) p102-103 2024.02

015.5 自動車文庫

移動図書館を使った学校との連携 我孫子市民図書館: 子どもの読書活動推進計画重点施策 穂村喜代子 (北から南から) 図書館雑誌 118(1) p46-47 2024.01

015.93 児童サービス

「子ども司書講座」を実施して 鈴江夏 (北から南から) 図書館雑誌 118(1) p44-45 2024.01

015.97 読書バリアフリー法

国立国会図書館, 国立国会図書館障害者用資料検索 (みなサーチ) 正式版を公開 (NEWS) 図書館雑誌 118(2) p66 2024.02

読書バリアフリー法に基づく横浜市の取り組みについて 神谷知栄 (特集 トピックスで追う図書館とその周辺) 図書館雑誌 118(1) p16-18 2024.01

016.2135 公共図書館—千葉県

香取市立佐原中央図書館 (千葉) 板倉安成 (新館紹介) 図書館雑誌 118(1) p12 2024.01

016.2135 公共図書館—千葉県

佐倉市立佐倉図書館 (千葉) 利光尚 (新館紹介) 図書館雑誌 118(1) p12 2024.01

016.2135 公共図書館—千葉県

流山市立南流山地域図書館 (千葉) 下柳田幸子 (新館紹介) 図書館雑誌 118(1) p12 2024.01

016.2136 公共図書館—東京都

中央区立京橋図書館 (東京) 五所和弘 (新館紹介) 図書館雑誌 118(1) p12 2024.01

016.2155 公共図書館—愛知県

「NAGOYA メタバース図書館」を期間限定で設置 (NEWS) 図書館雑誌 118(1) p5 2024.01

016.2163 公共図書館—大阪府

吹田市立北千里図書館 (大阪) 寺坂美香 (新館紹介) 図書館雑誌 118(1) p12 2024.01

016.2176 公共図書館—広島県

はつかいち市民大野図書館 (広島) 熊谷智道 (新館紹介) 図書館雑誌 118(1) p12 2024.01

017 学校図書館

「令和2年度 学校図書館の現状に関する調査」へ意見書を提出 (NEWS) 図書館雑誌 118(1) p7 2024.01

学校図書館を考える全国連絡会, 「ひらこう! 学校図書館第26回集会」記録誌を刊行 (NEWS) 図書館雑誌 118(1) p7-8 2024.01

全国SLA, 2023年度「学校図書館調査」結果を公開 (NEWS) 図書館雑誌 118(1) p7 2024.01

017.7 大学図書館

変えるべきこと, 継承していくこと 茂出木理子 (窓) 図書館雑誌 118(1) p4 2024.01

北里大学看護学部図書館が閉館 (NEWS) 図書館雑誌 118(2) p66 2024.02

018.319 国際協力機構図書館

国際協力の専門図書館「夢物語」への挑戦 本村洋 (小規模図書館奮戦記 その308 独立行政法人国際協力機構図書館 (JICA 図書館)) 図書館雑誌 118(2) p97 2024.02

019.5 読書

「子供の読書キャンペーン〜きみに贈りたい1冊〜」第2弾について 文部科学省 (霞が関だより 242) 図書館雑誌 118(1) p40-41 2024.01

子供の読書活動優秀実践校・図書館・団体(個人)の取り組み事例について 文部科学省 (霞が関だより 242) 図書館雑誌 118(1) p37 2024.01

清水町立図書館の取組—特性を活かした子ども読書活動の推進 文部科学省 (霞が関だより 242) 図書館雑誌 118(1) p37-39 2024.01

文部科学省, 「子供の読書キャンペーン〜きみに贈りたい1冊〜」を実施 (NEWS) 図書館雑誌 118(1) p6 2024.01

021.2 著作権

AIと著作権 AI生成表現の著作物性 奥部弘司 (著作権の現在) 現代の図書館 61(2) p94-103 2023.10
学校図書館における著作権 有山裕美子 (著作権の現在) 現代の図書館 61(2) p71-78 2023.10

公共図書館における著作権法改正への対応について 福島県における事例を参考に 二瓶優 (著作権の現

在) 現代の図書館 61(2) p63-70 2023.10

SARTRAS 設立の背景と授業目的公衆送信補償金制度の
現状、今後の課題 池村聡 (著作権の現在) 現代
の図書館 61(2) p79-86 2023.10

図書館によるデジタル貸出に関する EU・米国の裁判例
VOB 事件 CJEU 判決および IA 事件 S.D.N.Y. 判決の
紹介 鈴木康平 (著作権の現在) 現代の図書館
61(2) p87-93 2023.10

023.25 出版ーインド

インド大使館内ヴィヴェーカーナンド文化センターより
図書の寄贈 (NEWS) 図書館雑誌 118(2) p66
2024.02

028 紹介本

『索引 ～の歴史 書物史を変えた大発明』『中高生のため
の「かたづけ」の本』『限界ニュータウン 荒廃する
超郊外の分譲地』『歴史を読み解く城歩き』 秋本
敏、池沢道子、村上さつき、壬生あかり (図書館員
のおすすめ本 86) 図書館雑誌 118(2) p104-105
2024.02

『ルボ新大久保 移民最前線都市を歩く』『花山院隊「偽
官軍」事件 戊辰戦争下の封印された真相』『ザ・マ
マの研究 増補新版』『転職学 働くみんなの必修講
義 人生が豊かになる科学的なキャリア行動とは』
新井三枝子、家入義朗、合屋月子、小林はつき (図
書館員のおすすめ本 85) 図書館雑誌 118(1)
p42-43 2024.01

811.2 日本語ー表記法

今こそ漢字にふりがなを。私が考える「ふりがな再考論」
出版物およびデジタルコンテンツにルビ(ふりがな)
の普及・活用を目指すルビ財団の取り組み 伊藤豊
(特集 トピックスで追う図書館とその周辺) 図書
館雑誌 118(1) p30-31 2024.01

協会通信

常任理事会

日時：2月8日(木) 14:00～15:30

会場：日本図書館協会504会議室・Web会議(Webでの出席は「W」と記載)

出席常任理事：植松貞夫(理事長)、鈴木隆(副理事長)、岡部幸祐(専務理事兼事務局長兼出版部長)、海老根裕(専務理事)、植村八潮(常務理事)、杉本重雄(常務理事)、曾木聡子(常務理事兼総務部長)、成瀬雅人(常務理事)

列席理事：関根美穂(国立国会図書館)、角田裕之(図書館情報学教育委員会：W)、清水俊治(公共図書館部会：W)、本木正人(大学図書館部会：W)、深水浩司(専門図書館部会)、高橋恵美子(学校図書館部会：W)、久野高志(短期大学・高等専門学校図書館部会：W)

列席監事：中山勝文、中山司朗(W)

*

1. 会議成立要件の確認

岡部専務理事兼事務局長兼出版部長(以下「事務局長」という)より、議事に先立って、会場及びZoom上の画面で本人の出席を確認し、出席者が定足数を満たし会議が成立することが確認された。

2. 開会宣言・理事長挨拶

植松理事長(以下「理事長」という)より、開会が宣せられた。

*

〈協議・報告〉

1. 2024年度公益社団法人日本図書館協会事業計画について

鈴木副理事長(以下「副理事長」という)より、資料に基づき説明があった。「はじめに」では、能登半島地震に際して、図書館災害対策委員会が事務局と共に積極的に動き、さまざまな情報収集や情報発信を行ったことを書き出しとして、公益法人化して10年目となる節目ではあるが、財務状況については昨年度が300万円の赤字決算であったことを踏まえ、「2023-2024年度における本法人の運営課題等について」に挙げた取り組みに真摯に取り組んでいくとした。財政基盤の安定化に向けた取り組みとして、会員獲得に向けた制度の見直しを始めとして、寄附金、補助金、助成金、新規事業への取り組みを掲げている。また来年度は「中長期計画(財務計画等)」を策定する予定でもあり、10年後の本協会のあるべき姿を明確にロードマップ等で会員に提示できるようにしていきたいと考えている。協会の目的に沿った図書館の進歩・発展を図る事業を顧みて、今後どのような活動に取り組んでいくか、それが実行可能な組織となることが求められる。会員の減少要因ともなっている、図書館職員の非正規化への目配りとともに、図書館を支援する市民も取り込んでいくことも考えていく。

「Ⅰ 基本方針」の「1. 図書館活動の中核を担う図書館員の社会的地位の向上と研修」の中の全国図書館大会長崎大会においては、「公共図書館」「大学・短大・高専図書館」「学校図書館」の3分科会や全体会については対面式で行うが、それ以外の

分科会については、動画配信で行うシステムを検討している。また、これからの図書館を担う図書館員の育成に寄与するための若手図書館職員への資質向上及び育成に資する事業の推進を図るため、寄附金を充当し、来年度から取り組む予定である。「2. 調査・研究・普及等、図書館振興のための取り組み」では、電子化等多様な情報環境に対応するための予算が減少していることに取り組んでいかなければならないとした。「3. 政策提言など図書館振興のための活動」では、地方交付税の改善、消費税軽減税率の適用を求め、著作権法改正後の公衆送信についても実施館への支援を進めていく。また、読書バリアフリー法に基づく計画策定の促進のための周知を図っていく。

「Ⅱ. 事業計画(公益目的事業)」における「4. 図書館の振興」の「(5)その他図書館振興に資する事業」では、「②役員が各地区図書館協会開催の会員のつどいや講演会・講習会等に積極的に参加する」としている。理事長が今年度各地の講演会に多く参加しており、今後もそれを増やしていく。

「⑤公立図書館等の資料費増額等に向けた運動に関する出版界との連携」については、今年度、日本書籍出版協会との定期的な話し合い等を検討していたものの、十分にできておらず、来年度の課題としたい。

意見等があれば2月15日16時までにはいただきたい。

〈主な意見など〉

久野：次年度の全国図書館大会にお

ける「大学・短大・高専図書館分科会」が現地開催とあるが、事前に確認したところ、2022年度の群馬大会、2023年度の岩手大会と、大学図書館部会と短期大学・高等専門学校図書館部会が合同で分科会の開催がなされていたことに倣って、長崎大会も例年のような書き方になっているということである。部会幹事と検討の結果、短大・高専図書館としては合同であっても、人員的に厳しいため、単独開催及び分科会への共同参加は検討していないので、その点を確認したい。

副理事長：全国図書館大会の対面開催の全体会や、長崎県が主催するその分科会について、実際には長崎大学が行うが、そこに短大・高専図書館も参加できるような形で考えている。まだ具体的には案が出ていないため、その内容によっては大学だけの分科会になる可能性もあるが、この段階では明確になっていない。

久野：意向調査の回答を提出しているので、併せてご確認願いたい。

副理事長：承知した。

理事長：この事業計画案を理事会に諮ることとしたい。

2. 2024年度公益社団法人日本図書館協会予算について

事務局長より、資料に基づき説明があった。予算編成の基本方針としては、会費収入の減少、事業収益においても減少傾向と、収益確保が難しい状況となっている。物価は上昇傾向にあり、2022年度の赤字決算に続き、2023年度も厳しい状況である。2024年度の予算編成においては、協会の目的に照らして事業の重要度、必要性を精査し、該当事業ごとに規模の縮小、場合によっては中止も念頭において事業の見直しに取り組む

ことを考えている。

しかし、それは単に収益に見合った事業規模に縮小するというのではなく、事業の優先順位を踏まえた効果的な予算配分を行うということであり、協会の存在意義を高める活動を担保するための収益確保ができるように注力する。2024年度は、財務健全化に向けた、事業内容の見直し、収益構造の転換が課題となる。

収入（収益）の部については、前年度の実績を踏まえた上で、①会費収入、②公益事業収益は、2023年度予算に近い収益を確保できるように努める。③寄附金倍増、④広告収入については、増額を見込んでいる。⑤出版事業の販売収入は、出版企画の精査、販売計画の見直し等により、減少傾向に歯止めをかけられるように努める。⑥資料交換センターの不定期発送業務は、ここ数年の好調な実績を考慮し、確実な収入財源として確立しより一層の収入確保に努める。

支出（費用）の部について、前年度の実績を踏まえた支出予算として、①役員報酬は前年度と同水準、②職員給与、③職員賞与については、前年度並みを維持、④地域図書館団体活動費についても前年度と同率の配分、⑤旅費については、委員会交通費は全額支給を維持し、実績を踏まえた予算としている。⑥第110回全国図書館大会長崎大会の負担金は、例年どおりを予定している。⑦その他の経費についても、事業内容の見直し等により一層の経費節減に努める。

以上を踏まえた結果、経常収益計242,067,100円に対し、経常費用計は約241,990,400円と、若干黒字の予算を作成した。

〈主な意見など〉

理事長：「事業計画」でも説明があった通り、諸物価の値上がりの一方で、会員減少、あるいは出版物の売上減少により、本協会の運営が非常に厳しい状況である。本協会が存続するために、現在その瀬戸際にあるという認識を、常任理事会構成員全員で共有したい。質問があればこちらも2月15日までにいただきたい。

特にご意見がなければ、この予算案を理事会へ諮ることとしたい。

3. 「公益社団法人日本図書館協会文書管理規程」の改正について

曾木常務理事兼総務部長（以下「総務部長」という）より、資料に基づき説明があった。2023年6月15日第1回代議員総会において選任された理事について、第2回理事会において専務理事、事務局長の変更が承認されたため、稟議書の書式の変更が必要となっていた。また、今後、書式の変更を迅速に行えるように、理事に変更があった場合は随時改訂を行う旨、第6条3項に追加する。この稟議書の様式変更については、2023年6月15日に遡って適用する。

また、受入文書以外の文書については、第10条2項に従い事業年度ごとの管理となっていたことから、受入文書についても同じ適用とし、第8条4項を削除する。この改正に伴い、受入文書の整理保存においても、第10条の2の適用範囲とすることとする。第9条に基づき文書の発送を行うにあたり、稟議書との整合性をとるために、別紙様式4の公文書発送簿を変更し、併せて管理する。

特段の意見はなく、この案で理事会に諮ることとした。

4. 2023年度通算第2回（定時第2回）代議員総会の議題について

事務局長より、資料に基づき説明

があった。代議員総会の開催については、2023年度通算第4回（定時第4回）理事会で承認されている。代議員総会の開催通知を出すにあたり、議案を「第1号議案 公益社団法人日本図書館協会代議員総会運営規程の改正について」として、ハイブリッド出席型での開催について準備を整えるため検討していただくものである。

〈主な意見など〉

中山（司）：実際にハイブリッドの出席型で開催する前に、議決方法等必要な事項を事前に決めておく必要があることをお伝えしている。それについては、今後いつどのようなタイミングで諮られることになるのか。事務局長：来年度第1回代議員総会の招集を決定する5月の理事会において、必要なルールについて審議していただく予定である。

中山（司）：承知した。

理事長：インターネット環境等の整備の進捗について伺いたい。

事務局長：オンライン会議の音響システムについては、順次、整備の検討を進めているところである。先日の部会長・委員長会議ではハンドマイクを用いてオンライン会議を開催し、集音マイクスピーカーによる方法よりも音声がクリアであることを確認した。その方向で整備を進めたい。

5. 第14期（2023年度）日本図書館協会認定司書の認定について

総務部長より机上配付の資料を基に説明があった。2023年1月20日に第14期第2回認定司書審査会を開催した。審査会メンバー6名全員が出席し、今期申請があった新規21名、更新10名について厳正なる審査を行った結果、新規13名、更新の6名

が要件を満たしていると判定された。既に申請者全員に、結果の通知を行っており、要件を満たされた方については、2月19日を締め切りとして認定料の振り込みを依頼している。本日の段階では、まだ資料の名簿が空白であるが、第5回理事会では氏名を記入したものを審議資料としてお諮りする。合格率が60%程度ではあったものの、これによって第14期も無事認定ということにつながっていくことになる。なお、認定司書の公表については、この後理事会の承認を得てから4月1日にプレスリリースを行う。

〈主な意見など〉

成瀬：合格率が少し低いように感じられる。この件に関しては、理事会で大谷委員長から何かご説明いただけるものと考えてよろしいか。

総務部長：大谷委員長は理事ではないため、出席を求めるのであれば、理事長に承認していただく必要がある。

成瀬：認定司書事業は、協会としても非常に重要な事業だと考えている。今までの合格率の推移を正確には把握していないが、印象としても低いため、もし今回、顕著にそれが落ちているのであれば、やはり説明を開くのが良いと考える。

理事長：事務局として担当している総務部長から何か補足はあるか。

総務部長：審査会ではさまざまな意見があったが、判定要素の一つである論文について、かなり厳しい意見もあった。また、合否には直結しないが提出書類の記入ミスや内容が不十分なものも見受けられた。

理事長：それでは、大谷委員長に今回の理事会に参加していただく方向でよろしいか。事務局長はいかがお

考えか。

事務局長：同意である。大谷委員長の都合が付けば、理事会で直接お話しいただくのがよろしいと考える。

理事長：反対意見はないようなので、理事会に大谷委員長にご出席いただく方向で進めることとする。

6. 共催・後援名義の応諾について

以下の2件について承認した。

【後援】

・「はむねっと発足3周年 ハイブリッド集会 あきらめずに声をあげよう！全国の公務非正規労働者よ！新しい、わたしたちの未来をつくろう！」（公務非正規女性全国ネットワーク（はむねっと））

・「ヘルスコミュニケーションウィーク2024～in Yokohama～」（日本ヘルスコミュニケーション学関連学会機構）

7. 寄附金について

以下の寄附金について承認した。

・2024年1月16日～2月4日入金分
指定寄附金：8件 702,865円

8. 新入会員の承認について

以下の新入会員について、確認し承認した。

・2024年1月31日現在

個人会員A：3名

〈主な意見など〉

総務部長：前回第7回常任理事会でお示した資料について、2023年度会員数のうち施設等会員Cを821件と報告した。今回の資料で822件としているが、これは新規入会ではなく、会員システムのデータに不備があったことが判明したためである。

深水：現在、会費の未納はどのくらいあるのか。

総務部長：日々入金があり、本日現在の正確な数を把握できていない。

次回報告する。

深水：会費未納者数は、重要な数だと考えている。今後、可能であれば逐一算出した方が良いかもしれない。
総務部長：4月の退会者数が非常に多いのは、退会申請もあるが、会費未納により自然退会となった方も含まれている。今後ご報告できるよう検討する。

中山（司）：先ほど、施設会員の数が1件カウントされていなかったという説明があったが、なぜそのようなことが起こったのか原因が判明しているのか。影響は今回の資料の数字にとどまるものなのか、それとも特定の会員に連絡がいていなかったり、リストに載っていなかったりといった影響があったのかを伺いたい。
総務部長：システム上の不備によることは明らかであるが、詳細な原因は不明である。影響については、『図書館雑誌』が届いていないという問い合わせがあり、改めてデータを確認の上更新を行ったところ、反映されたという経緯があった。あくまでもシステム上の問題であり、その他の会員については、今のところ影響は出ていない。

中山（司）：人が介在していないシステム上のエラーというご理解か。

総務部長：システム上のエラーだと聞いている。

中山（司）：承知した。

深水：データが悪いのではなく、システムが悪いのか。

総務部長：その通りである。

深水：そうすると、どこか他にも悪い可能性がある。データの問題であればこの1件のみで済むだろうが、システム上のことならば他にもエラーがあるかもしれない。

総務部長：会費の入金を確認し、正

しく入力を行っていたが、システム上反映できていなかったということである。会費を払っているのに『図書館雑誌』が届いていないということがあれば連絡が入るので、その段階では確認ができています。現在のところ、問題が発生したのはこの1件である。

深水：通常、入金の手続きがあって、データが入力されると、システム上で入金フラグが立って、それが読み込まれるはずである。そのデータだけ読み込まれなかったのか。そうだとすれば、そのデータだけ読み込めない何らかの原因があるのではないか。

総務部長：今年度は、会員システムの移行があったので、その影響でエラーが出ている可能性もあり、人為的なミスも否定はできない。担当者がデータを更新したところ、現在は問題なく反映されている。

深水：一度データの再確認を行えば、安心できるのではないか。

事務局長：この件については精査する。

9. 報告事項

(1) 能登半島地震への対応について（経過報告）

副理事長より報告があった。第7回常務理事会以降の動きについて共有する。一つは、被災した図書館で所蔵している新聞について、輪島市等については配送所が機能していない状況であるため、一般社団法人日本新聞協会をはじめ、朝日新聞、読売新聞、毎日新聞、日本経済新聞、北國新聞、北陸中日新聞の各社に1月分の新聞の取り置きと、物流復活後に各図書館への配送を依頼した。ほぼ各社協力の姿勢を見せており、各社地方紙としての石川版を取り置

きするとのことである。

2点目は、第109回全国図書館大会岩手大会で、「災害と図書館」という分科会を開催しているが、その中で2件報告を行った。一つは、資料保存の関係で、資料保存委員会の眞野委員長が行った「災害から資料を守り、救う」という報告である。もう一つは、文部科学省大臣官房文教施設企画・防災部の松本匡裕氏が行った「東日本大震災からの図書館に関する復旧・復興支援」という報告である。この2件の報告を動画としてまとめた。さらに、2020年に開催した第106回全国図書館大会和歌山大会より、災害対応の補助金等を扱う部署に所属していたこともある熊谷慎一郎氏（図書館災害対策委員会委員、宮城県図書館）が報告した「図書館への災害支援の体系について」、この3つの動画を、石川県をはじめとする被災した四つの県立図書館に送り、各県内の公立図書館が視聴できるように提供した。動画は、2月1日から3月31日まで、無料で各図書館で視聴できるよう、環境を整備した。

〈主な意見など〉

理事長：輪島市以外は大体、開館している状況か。

副理事長：現段階では、七尾市、輪島市の計3館くらいが開館できていない。他のところは、開館時間を短縮したり、土日祝日を休館にする等、工夫をして対応している状態である。ただ物流が滞っている地域もあり、開館していても、実際に新聞等が届かないという事態も起きている。
理事長：今後復興が本格化すると思うが、理事の中で情報を入手されれば協会までお寄せいただきたい。

10. その他

(1) 「第2回図書館のための非正規雇

用改善のための連絡会」について
高橋理事より報告があった。「図書館
のための非正規雇用改善のための連
絡会」(以下「連絡会」という)は、図
書館問題研究会、学校図書館問題研
究会、官製ワーキングプア研究会、
公務非正規女性全国ネットワーク
(通称：はむねっと)、図書館友の会全
国連絡会(以下「図友連」という)、学
校図書館を考える全国連絡会等、非
正規雇用職員に関する委員会(以下、
「委員会」という)から小形委員長と自
分を含めて4名、上林陽治氏(立教
大学)、日向良和氏(都留文科大学)、
猪谷千香氏(ジャーナリスト)で構
成される。議題としては、2024年5
月か6月に、今回の連絡会の構成団
体で第2回集会を開催することを計
画し、その集会をどのように行うか
について話し合った。現段階で細部
が決定したわけではないが、このよ
うな機運があることを報告する。
事務局長：連絡会自体は、団体では
なく、単なる意見交換の場であるた
め、集会の開催に当たっては、構成
団体のうち開催に賛同する団体から
メンバーを募り、実行委員会を作っ
て、集会の準備を進めていくという
流れになる。各団体に参加するかと
うか検討を依頼している。協会とし
ては、参加する方向で考えている。
単に団体が集まって声を上げるとい
うだけでなく、ステークホルダーや
外に向かって広くアピールできるよ
うな形にするために、議員会館等で
集会を行うようなことも考えられる
という意見があった。具体的な内容
は、集会に参加する団体が集まって
検討する。また、委員会で現在行っ
ている「学校図書館職員に関する実

態調査」の結果についても、「集会」
等で公表することを考えている。ま
た図友連でも図書館職員の非正規雇
用に関する状況の調査をこれから行
う予定で、その結果が5月頃にはま
とまるため、そのような調査の結果
を公表する場にしてみてはどうかと
いうことで、開催時期としては、早
くとも6月となる見込みである。
理事長：非正規雇用の問題について
は、協会を挙げて取り組み、対応し
ていくべきことだと考えている。
(2) 全国図書館大会岩手大会の決算
と特定費用準備資金について
副理事長から説明があった。特定
費用準備資金(以下「準備資金」とい
う)が、昨年3月末現在で500万円あ
るが、全国図書館大会岩手大会の決
算で、これを取り崩さざるを得ない
ような状況とみている。正式な数字
はまだ出ていないが、現在製作中の
大会記録の印刷製本費が掛かり、各
参加者に配付する費用の負担もある。
準備資金を取り崩すことについて、
「特定費用準備資金等取扱規則」
では、「目的外」の取り崩しを行う場
合には理事会の決議を得なければな

らないとある。今回は、「目的外」で
はなく、理事会への付議は不要だが、
今後費用が確定すれば、理事会に報
告したい。

また、準備資金の設定の中で、
2026年を東京大会としているが、こ
の年の開催は石川県となった。東京
大会を1年先送りとして、準備資金
の設定を変更しなければならない。
準備資金の設定の変更については、
今後、理事会に諮る予定である。
理事長：補足すると、全国図書館大
会岩手大会の録画配信のための経費
を協会から補填する必要がある。そ
のために準備資金を今回支出せざる
を得ないということである。

*

＊今後の予定

・2023年度通算第5回(定時第5回)
理事会(オンライン併用)

日時：2024年2月22日(木)13時30
分から

・2023年度通算第2回代議員総会

日時：2024年3月14日(木)13時か
ら

事務局カレンダー

＊○印の日が事務局のお休みです。

■2024年4月

	日	月	火	水	木	金	土
*	1	2	3	4	5	⑥	
⑦	8	9	10	11	12	⑬	
⑭	15	16	17	18	19	⑳	
㉑	22	23	24	25	26	㉗	
㉘	㉙	30	*	*	*	*	

■2024年5月

	日	月	火	水	木	金	土
*	*	*	1	2	③	④	
⑤	⑥	7	8	9	10	⑪	
⑫	13	14	15	16	17	⑱	
⑲	20	21	22	23	24	㉕	
㉖	27	28	29	30	31	*	

※4月30日(火)は図書館記念日、5月は図書館振興の月です。



走行中の移動図書館の車内。精一杯頑張っているエアコンと、それを助ける扇風機でなんとか涼しさが確保された中、貸出と返却という最低限の機能を有した端末に、次の巡回先のコードを入力してから、確保した予約本をコンテナの中から取り出す。巡回地点に到着すると、移動図書館の後ろ扉を開き、器用に収まっている長机を引き出して、丁寧に組み立てれば即席のカウンターの出来上がり。長い棒を回して屋根を広げ、前方にあるもう一つの扉を開ければ、風が車内を駆け抜けていく。し

ばらくすると、ポツリポツリと利用者がやってきて、机の上に借りていた本を置くと、移動図書館の中に入り、思い思いに本を選び始める。入り口付近にある新刊コーナーはどこかの巡回地点でも大人気だ。親子連れがやってきたので、ちょっとした読み聞かせも始めてみたりする。後半になると、貸出対応に追われる。30分というあっという間の時間。机を畳んで元の場所に収め、広げた屋根を片付けたら、次の巡回先へ向かう。

これが、私が経験した移動図書館の業務である。どの巡回先でも、滞在していた時間はそこに「図書館」という場ができ、コミュニティが生まれていた。読み聞かせている絵本をじっと見つめる子どもの表情は、図書館の読み聞かせに参加している子どもと同じ表情だった。本を貸し出すときや予約本を渡すときに交わ

される何気ない会話も、図書館のカウンターと何も変わらない。片手で足りる程度しか経験していないが、図書館に直接来ることができない人たちを通じて、図書館サービスを改めて考える機会になった。

図書館を利用していない人はたくさんいる。なぜ利用しないのか、それはさまざまな理由があるだろう。その中に、もし、行きたくても行けない人が地域にいるならば、図書館は何かしらの方法で寄り添うべきではないだろうか。移動図書館はそのための手段の一つだと思う。

図書館という強固な拠点を中心に、点ではなく面で図書館サービスを広げていくための手段とし、今回の特集記事を参考にしていただければ幸いである。

(岩永知子)

図書館雑誌／5月号予告 (Vol.118 No.5) 特別定価1362円 5月20日発行予定

小特集：図書館は生成AIをどのように活用できるか(仮題) 予定内容=生成AIとは何か、図書館における協働の可能性(中島玲子)、山中湖情報創造館における対話型AI導入について-対話型生成AIをレファレンスサービスのツールとして導入した事例の紹介(丸山高弘)、図書館業務での生成AI活用の可能性-図書館業務の四象限と変化へのアプローチ(高橋葉奈子)、カーリルによる「蔵書検索サポーター」実証実験について-参加館の事例紹介を加えて(吉本龍司)。以上の特集のほか、第14期(2024年度)日本図書館協会認定司書名簿及び審査(報告)(JLA認定司書事業委員会・認定司書審査会)、2023年度第5回理事会議事録、2023年度第2回代議員総会議事録等の記事を掲載した特別号にてお届けします。